鳥取県の人材銀行　とっとりいきいきシニアバンク「生涯現役」活動集

生涯現役

http://tottori-ikiiki jp/

2018年 日記

社会福祉法人　鳥取県社会福祉協議会

＜表紙写真＞
奥日野たたら古道巡り
ガイドするのは奥日野ガイド倶楽部の佐々木彬夫さん（都合山たたら遺跡）

ご挨拶

鳥取県は「生涯現役」！

鳥取県の人材銀行・とっとりいきいきシニアバンク「生涯現役」は、60歳以上の元気な県民が資格や特技や技能などを登録され、その豊かな人生経験を活かして生涯学習や地域イベントなどでご活躍中です。登録者は2千人を超えました（2019年1月）。「あの人」「この人」顔なじみの方々ばかり。〝お宝人材〟がいっぱいです。

シニアバンク「生涯現役」のホームページやフェイスブックでは、登録者の顔ぶれや活躍の様子がご覧いただけますが、このたびバンク発足以来の活動の足跡を一覧表にするとともに、登録者の2018年1年間の活動記録を日記風にまとめました。鳥取県のことがよくわかります。ぜひご覧ください。

鳥取県は全国に先駆けて高齢化と人口減少が進行中です。元気な高齢の方々が、それぞれの持ち味を生かし、地域の担い手となって、活性化のために、もうひとがんばりご活躍いただくことが期待されています。シニアバンク「生涯現役」を運営する鳥取県社会福祉協議会は、明るく元気な長寿社会を実現するため、その先頭に立ってがんばっています。

「趣味の仲間を増やしたい」「子や孫や地域に伝え残すものがある」…そんな思いがある元気な高齢の方々は、シニアバンク「生涯現役」にご登録ください。お待ちしています。また、県民のみなさまも、鳥取県が誇る〝お宝人材〟を積極的にご活用いただきますようお願い申し上げます。

2019年1月吉日

社会福祉法人　鳥取県社会福祉協議会

会長　藤井　喜臣

とっとりいきいきシニアバンク「生涯現役」の概要

鳥取県長寿社会課

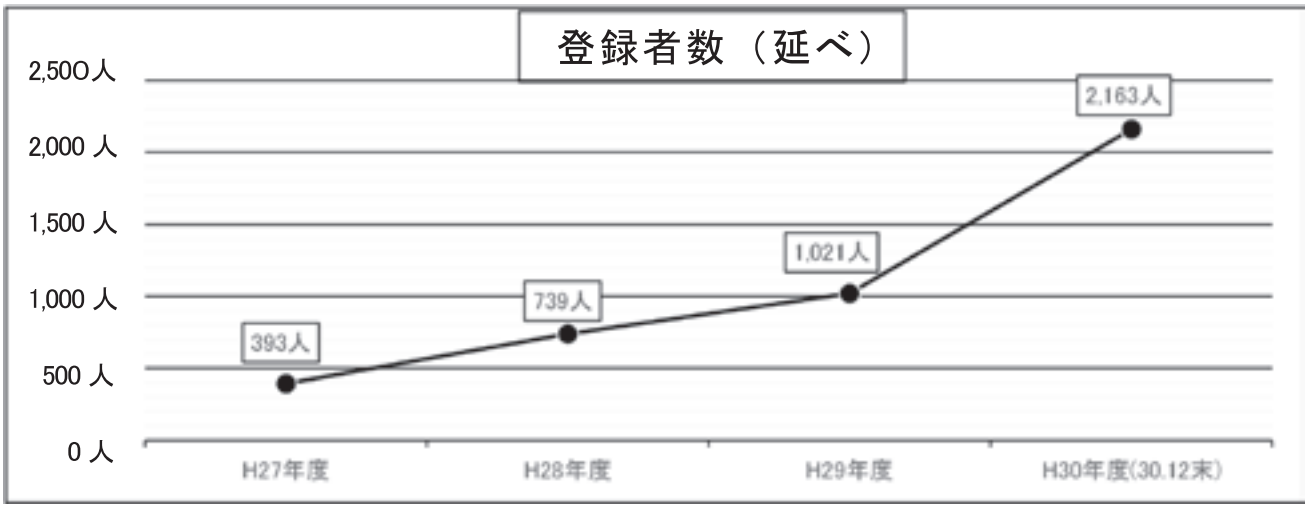
1　制度の目的

とっとりいきいきシニアバンク「生涯現役」（以下、「シニアバンク」）は、高齢者の方の生きがい・元気づくりのため多様な活動を推進するとともに、過疎化・人口減少が進む中、高齢者の方が地域の担い手となることや、地域の活性化のために活躍していただくことが期待されていることから、高齢者の方の資格、経験、特技などを活かした活動を促進する環境・仕組みづくりを目的に平成27年7月に鳥取県が創設しました。

2　登録者の状況

（1）登録者数　2，163人（98団体1，649人・個人514人）（平成 30 年 12 月末時点、延べ）

（2）登録者数（延べ）の推移



（3）登録者（個人）平均年齢　73．0歳

（4）登録者（個人）男女構成　男性：373人、女性：141人

（5）市町村別登録者数　（人）

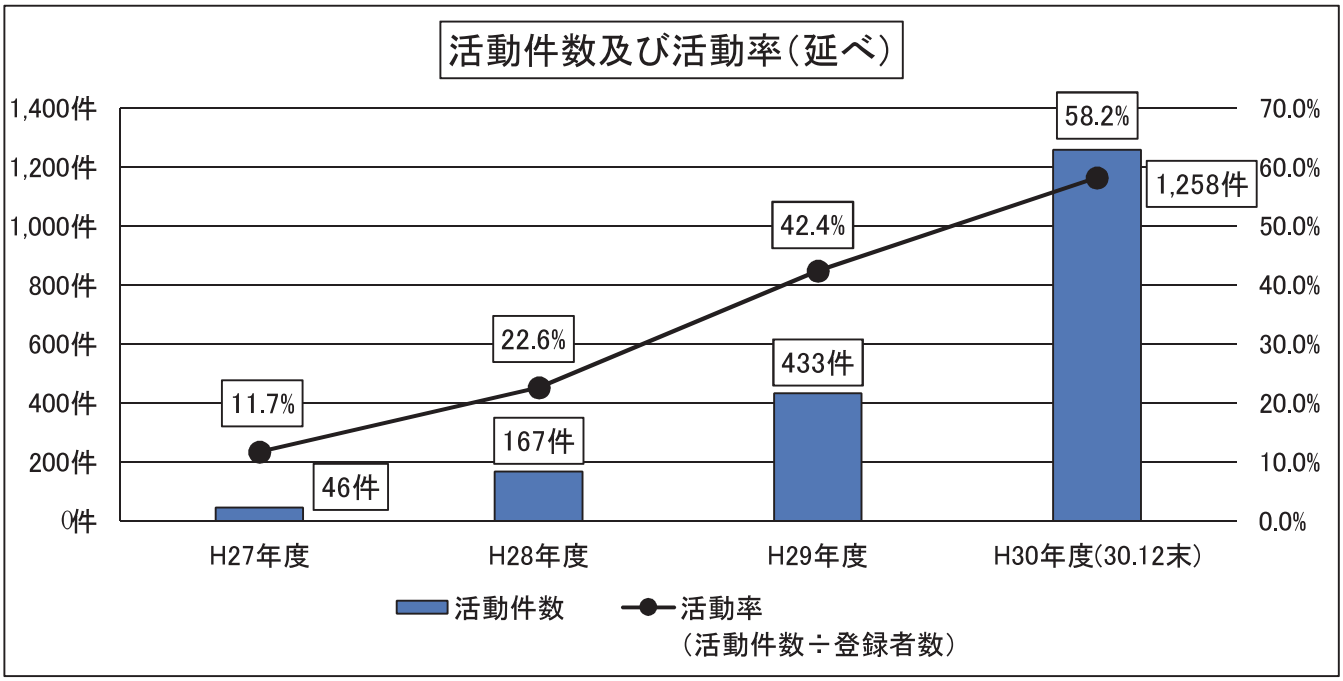
	登録者数（個人）：A	登録団体件数	登録者数（団体）：B	合計（A＋B）
【東部】	231	46	1,055	1,286
鳥取市	193	39	1,005	1,198
岩美町	9	7	50	59
八頭町	19			19
若桜町	3			3
智頭町	7			7
【中部】	107	15	270	377
倉吉市	44	10	218	262
湯梨浜町	24	1	8	32
北栄町	15			15
琴浦町	18	3	30	48
三朝町	6	1	14	20
【西部】	176	37	324	500
米子市	90	26	251	341
境港市	24	6	31	55
大山町	20			20
南部町	6	1	7	13
伯耆町	9	3	26	35
日吉津村	6			6
江府町	3			3
日野町	13	1	9	22
日南町	5			5
計	514	98	1,649	2,163

3　活動の状況

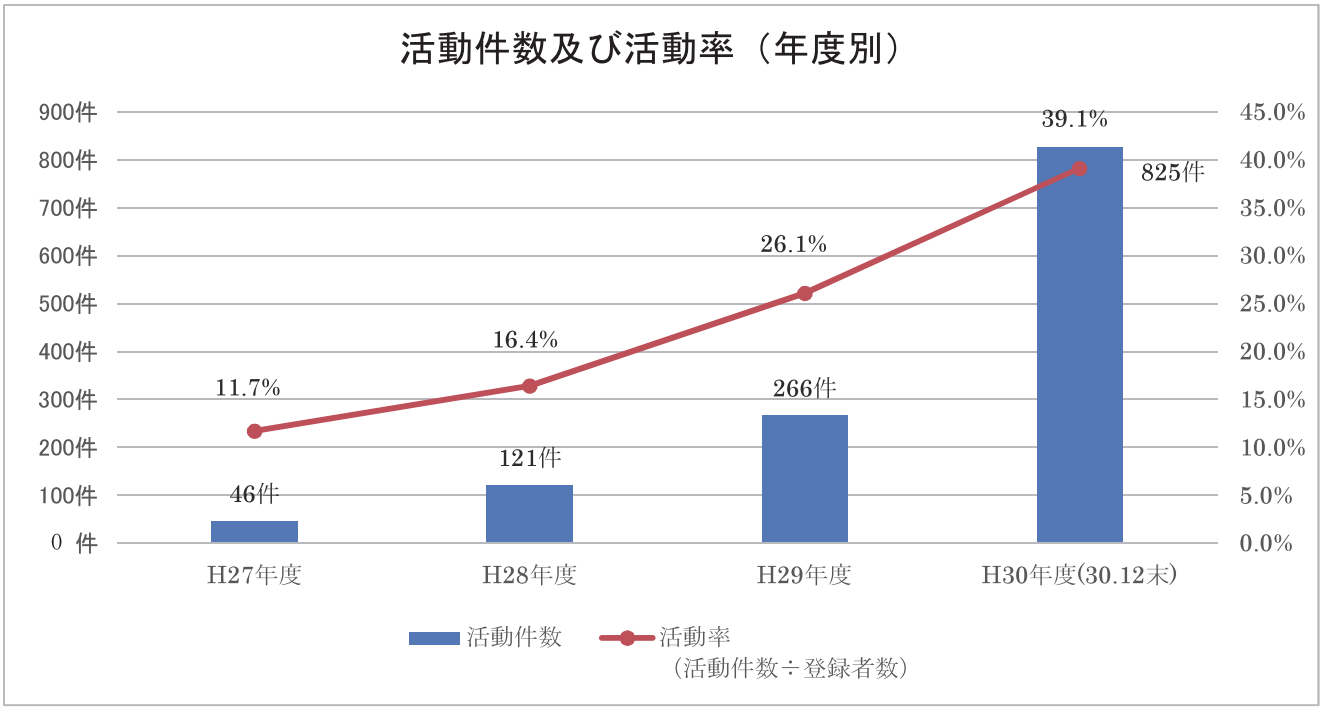
（1）活動件数　1，258件（平成 30 年 12 月末時点、延べ）

※今年度の活動件数　825件（平成 30 年 4 月～平成 30 年 12 月末）

（2）活動件数及び活動率（延べ）



（3）活動件数及び活動率（年度別）



4　沿革

平成27年　7月：シニアバンク創設
平成27年　9月：シニアバンク登録開始
平成28年　3月：シニアバンク・キックオフフェスタ開催（鳥取市、米子市）、シニアバンク登録者初活動
平成28年　9月：シニアバンクPRイベント開催（県民総合福祉大会との共催。鳥取市）
平成29年　7月：第1回とっとりいきいきシニアバンク「生涯現役」まつり開催（米子市）
平成30年　2月：登録者数 1,000 人突破
平成30年　8月：第2回とっとりいきいきシニアバンク「生涯現役」まつり開催（鳥取市）
平成30年10月：活動件数1，000件突破
平成30年12月：登録者数2，000人突破

シニアバンク「生涯現役」登録者募集要項

◎　**登録できる方**

資格、技能、特技を有する県内在住の６０歳以上の方で、次のような場所で講師、指導者等として活動が可能な方

（例）公民館活動、高齢者大学、老人クラブ、社会福祉施設、放課後児童クラブ、学校支援ボランティア、児童・生徒の学習支援の場、その他県・市町村等が開催する催事など

◎　**登録する資格、技能、特技の例**

◆資格に係るもの

教員、保育士、保健師、栄養士、看護師、調理師、理学療法士、健康運動実践指導員、地域スポーツ指導員、審判員、つりインストラクター、シニアライフアドバイザー、通訳、ＰＣインストラクターなど

◆技能に係るもの

伝統工芸、大工、染色、織物、木工など

◆特技に係るもの

書道、絵画、歌唱、カラオケ、社交ダンス、生け花、茶道、手芸、楽器演奏、ステンドグラス製作、切り絵、ちぎり絵、版画、陶芸　俳句、短歌、ガーデニング、野菜栽培、着付けなど

※シニアバンクでは、上記以外にも様々な特技等をお持ちの方を募集しています！

◎　**登録の期間**

随時受付をしています。

登録の更新は１年ごとに行い、特に申し出のない場合は次年度も登録を継続します

◎　**お問合せ先**

社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会　福祉人材部
とっとりいきいきシニアバンク「生涯現役」担当
電　話：０８５７－５９－６３３６　ＦＡＸ：０８５７－５９－６３４１
〒６８９－０２０１　鳥取市伏野１７２９番地５

とっとりいきいきシニアバンク「生涯現役」登録者活躍の足跡

（2016年～2018年、敬称略）

	日程	活動場所	登録者	活動内容
2016年	3月	日吉津村・イオン日吉津店	新宮雄子（司会者）、港ベンチャーズ、近藤盛一（マジック）、近藤勢津子（腹話術）、合唱団Glanz、加藤哲英（鳥取県美術家協会長）、柴山抱海（鳥取県書道連合会長）、森山盛桜（鳥取県川柳作家協会長）、倉益敬（鳥取県歌人会長）、遠藤甫人（鳥取県俳句協会長）	シニアバンク・キックオフフェスタ
	3月	鳥取市・イオン鳥取北店	蔵本紀代子（司会者）、バードベンチャーズ、山下眞一郎（マジック）、河下哲志(トウフルート奏者)、鳥取市民合唱団、米澤高明（鳥取県美術家協会理事）、石山ヨシエ（朝日新聞鳥取版俳句選者）、森山盛桜（鳥取県川柳作家協会長）、北尾勲（鳥取県歌人会）	シニアバンク・キックオフフェスタ
	3月	琴浦町・社会福祉センター	近藤勢津子（腹話術）	介護予防教室
	4月	季刊誌「志あわせへ」	杉本雅美（鳥取県写真家連盟会長）	フロント写真（4回）
	6月	倉吉市・小鴨公民館	君野弘明（高齢者マラソン）	健康教室
	6月	江府町・防災情報センター	佐々木満（奥日野古道保存会長）	奥日野ガイド養成教室
	6月	境港市・境漁港ほか	石丸なつ子（鳥取県写真家連盟運営委員）	日野川源流写真教室
	7月	鳥取市・倉田公民館	内田克彦（大河ドラマを推進する会代表）	鳥取県人の生き方教室
	7月	米子市・成実公民館	小西怜子(水彩画)	夏休み絵画教室
	7月	岩美町・小田公民館	河下哲志(トウフルート奏者)	小田地区納涼祭
	7月	南部町・南部町公民館	倉益敬(鳥取県歌人会長)	夏休み短歌教室
	8月	境港市・夢みなとタワー	加藤哲英（鳥取県美術家協会長）、小谷悦夫（チャーチル会米子幹事長）	夏休み親子写生教室
	8月	倉吉市・小鴨公民館	長谷川泰二（コンベンションビューロー前理事長）	男のクラブ研修会
	8月	琴浦町・古布庄公民館	大谷治(ステンドグラス工房)	ステンドグラス教室
	8月	岩美町・里久の里	畑井章子(洋服、きものリフォーマー)	手編み教室
	9月	米子市・老人ホーム福原荘	河下哲志(トウフルート奏者)	敬老会
	9月	鳥取市・とりぎん文化会館	松弘美会（民謡ショー）、煎茶道黄檗売茶流鳥取支部（お茶席）、鳥取姫柿愛好会（盆栽展示）、中部建築工務士会（山車展示）、加藤哲英（鳥取県美術家協会長）、米澤高明（鳥取県美術家協会理事）、福田典高（画家）	県民総合福祉大会
	9月	鳥取市・福祉人材研修センター	西田輝明・宍戸剛・岡本雄（関金竹細工クラブ）、濱幸子（日本絵手紙協会公認講師）、森文江（鳥取和紙ちぎり絵サークル代表）	センターイベント
	9月	大山町・だいせんデイ	中川正純（ハーモニカ奏者）	敬老会
	10月	鳥取市・NHK文化センター	北尾正幸（元新聞記者）	文章の書き方講座
	10月	米子市・宇田川公民館	加藤哲英（鳥取県美術家協会長）	似顔絵教室
	10月	鳥取市・NHK文化センター	近藤勢津子（腹話術）	腹話術講座
	10月	鳥取市・文化ホール	内田克彦（大河ドラマを推進する会代表）	社会講座
	11月	鳥取市・県立図書館	鳥取ものづくり道場	親子ものづくり教室
	11月	日野町・たたらの楽校	石丸なつ子（鳥取県写真家連盟運営委員）	日野川源流写真教室
	11月	鳥取市・鹿野小学校	畑井章子(ワード・エクセル3級)	高齢者パソコン教室
	11月	岩美町・網代公民館	山﨑郁雄（日本医師会認定スポーツ医）	超高齢社会の生き方講座
	11月	鳥取市・県社会福祉協議会	鳥取流しびな真向会	健康・ストレッチ教室
	11月	倉吉市・上井公民館	内田克彦（大河ドラマを推進する会代表）	母子会役員研修会
	12月	倉吉市・市立図書館	中部ものづくり道場	ものづくり教室
2017年	1月	倉吉市・小鴨公民館	岩室久美子（終活ライフプランナー）	人権学習会
	1月	米子市・日本海新聞	大原俊二（郷土史家）	私たちの大山さん講座
	1月	鳥取市・福部公民館	紙原四郎（切り絵作家）	切り絵教室
	1月	米子市・日本海新聞	大杖正彦（元札幌五輪日本代表選手）	私たちの大山さん講座
	1月	鳥取市・文化ホール	徳永耕一（八頭郡郷土文化研究会長）	歴史講座
	2月	米子市・日本海新聞	根平雄一郎（境港歴史研究会代表）	私たちの大山さん講座
	2月	米子市・日本海新聞	清末忠人（鳥取自然に親しむ会会長）	私たちの大山さん講座
	2月	米子市・米子コンベンション	大原俊二（郷土史家）	「日本遺産大山」出演
	2月	大山町・大山自然歴史館	矢田貝繁明（大山自然歴史館長）	「日本遺産大山」出演
	2月	鳥取市・文化ホール	中林保（歴史地理学者）	市民大学歴史講座
	3月	鳥取市・県立図書館	小山富見男（新県史編纂委員）、沖廣俊（いなば国府ガイドクラブ代表）、河根裕二（あおや郷土館長）	歴史大河ドラマ候補発表会
	3月	米子市・日本海新聞	川越博行（米子下町観光ガイド）	私たちの大山さん講座
	3月	岩美町・小田公民館	本田正法（パソコン講師）	高齢者パソコン教室
	3月	米子市・日本海新聞	竹内道夫（鳥取県近代文学史研究家）	私たちの大山さん講座
	3月	湯梨浜町・公民館泊分館	中部ものづくり道場	春休みものづくり体験教室
	4月	季刊誌「志あわせへ」	紙原四郎（切り絵作家）	フロント表紙（4回）
	4月	鳥取市・とりぎん文化会館	内田克彦（大河ドラマを推進する会代表）	退職公務員研修会
	4月	日野町・間地峠	佐々木彬夫（観光ガイド）	奥日野歴史講座
	5月	鳥取市・面影公民館	内田克彦（大河ドラマを推進する会代表）	教養講座開校式
	5月	日野町・鏡山城下町	杉本準一（郷土史家）	奥日野歴史講座
	5月	米子市・米子美術館	米子ちぎり絵水星会	山下清展ワークショップ
	5月	江府町・江府中学校	足立博明（パソコン教師）	高齢者パソコン教室
	5月	伯耆町など・日野3宿	佐々木彬夫（観光ガイド）	奥日野歴史講座
	5月	北栄町・中央公民館	岩室久美子（パソコン検定試験官）	高齢者パソコン教室
	5月	米子市・ワシントンホテル	港ベンチャーズ	金沢工大同窓会
	5月	鳥取市・市内	岡村洋次（尾崎放哉研究家）、石山ヨシエ（朝日新聞鳥取版俳句選者）、野田哲夫（鳥取県俳句協会長）、柴山抱海（鳥取県書道連合会長）	放哉句碑めぐり
	5月	鳥取市・とりぎん文化会館	田貝英雄（伯耆国たたら顕彰会長）	歴史大河ドラマ候補発表
	6月	湯梨浜町・ハワイ夢広場	玉木純一（レクリエーション・コーディネーター）	尚徳大学講座
	6月	伯耆町・二部宿	二部地区活性化推進機構	奥日野歴史講座
	6月	倉吉市・倉吉セントパレス	角秋勝治（郷土作家研究家）	青色申告会講演
	6月	智頭町・社会福祉協議会	荻原恵子（フォークダンス指導者）	高齢者健康ダンス教室

日程	活動場所	登録者	活動内容
6月	日野町・鵜の池周辺	恩田記子（調理師）	奥日野歴史講座
6月	鳥取市・県立図書館	中川政雄（鳥取ものづくり道場）	かんたんな工作教室
6月	大山町・名和保健センター	篠原正明（鍼灸師）	寿学級「体を学ぼう」
6月	境港市・境漁港ほか	石丸なつ子（鳥取県写真家連盟運営委員）	日野川源流写真教室
6月	鳥取市・福祉人材研修センター	倉吉ギターアンサンブル	アビリンピック鳥取県大会
7月	鳥取市・歴史博物館	小山富見男（新県史編纂委員）	占領期の鳥取を学ぶ会
7月	鳥取市・流しびなの館	鳥取ベンチャーズ	リサイタル
7月	倉吉市・倉吉未来中心	徳本義則（介護福祉士）、佐々木洋一（介護福祉士）	介護補助スタッフ講習
7月	米子市・城山、城下町ほか	安達佳恵（気功太極拳）、川越博行・岡田信行・岸本裕・前角達也・上田正規（米子下町ガイド）、春蘭会、舩原濤軒（書道家）、佐藤千秋（画家）	シニアバンク・フェスティバル
7月	岩美町・小田公民館	バードベンチャーズ	小田地区納涼祭
7月	南部町・公民館	倉益敬(鳥取県歌人会会長)	夏休み短歌教室
7月	境港市・夢みなとタワー	小谷悦治（チャーチル会米子幹事長）	夏休み絵画教室
7月	米子市・日本海新聞	根平雄一郎（郷土史家）	大山さん講座
8月	境港市・夢みなとタワー	加藤哲英（鳥取県美術家協会長）	夏休み絵画教室
8月	鳥取市・東郷地区公民館	清末忠人（鳥取自然に親しむ会会長）	夏休み自然体験
8月	大山町・森の国	清末忠人（鳥取自然に親しむ会会長）	大山さん講座
8月	江府町・防災情報センター	森下哲也（薬草栽培）	明徳学園
8月	米子市・福原荘	吉島潤承（紙芝居）	教養講座
9月	鳥取市・文化ホール	野田修（鳥取家政学園理事長）	尚徳大学教養講座
9月	倉吉市・未来中心	澤田勝（サックス奏者）、福田典高（画家）、高塚俊蔵（切り絵作家）、森本せつ（ステンシルアート）、藤井正幸（マジック）、玉木正枝（レクリエーション）	県民総合福祉大会
9月	米子市・成実新山地区	南京玉すだれ山陰保存会	敬老会
9月	日南町・日南中学校	倉益敬(鳥取県歌人会長)	短歌教室
9月	鳥取市・福祉人材研修センター	徳本義則（介護福祉士）	介護補助スタッフ講習
9月	鳥取市・県立図書館	原田堅吉（鹿野城ガイド）、片山長生（教育カウンセラー）、四井幸子（碧川かた研究家）、田中精夫（郷土史研究家）、田村幹夫（郷土史研究家）、小山富見男（新県史編纂委員）	大河ドラマ選考会
9月	湯梨浜町・中央公民館	松本薫（小説家）	東伯郡公民館連合会研修会
9月	米子市・夜見公民館	大原俊二（郷土史家）	大山講演会
9月	鳥取市・福祉人材研修センター	本城義照（尺八奏者）、澤田勝（サックス奏者）、河下哲志(トウフルート奏者)、清水増夫（映画上映）	福祉人材研修センターベント
9月	鳥取市・福部公民館	谷本由美子（太極拳）	太極拳教室
9月	鳥取市・福祉人材研修センター	佐々木洋一（介護福祉士）	介護補助スタッフ講習
9月	鳥取市・福部コミセン	岩室久美子（終活ライフプランナー）	人権啓発セミナー
9月	江府町・防災情報センター	政岡日枝子（川柳作家）	明徳学園
9月	湯梨浜町・公民館泊分館	紙原四郎（切り絵作家）	切り絵教室
9月	鳥取市・浜坂公民館	川上巧（ものづくり）	社会人教室
9月	大山町・大山寺周辺	竹内道夫（鳥取県近代文学史研究家）、森田尾山（書道家）	大山文学碑めぐり
10月	八頭町・安部公民館	山根教子（樹脂粘土人形作家）	ものづくり教室
10月	鳥取市・県立図書館	森本良和（映画監督）	鳥取藩と西郷どんシンポ
10月	江府町・防災情報センター	山本邦彦（三徳山三仏寺法嗣）	明徳学園
10月	鳥取市・文化ホール	有本喜美男（さじ民話会）	尚徳大学郷土学習講座
10月	琴浦町・古布庄公民館	桑原正（木工作業療法士）	大人のものづくり
10月	三朝町・福祉センター	西田輝明・山崎重三（関金竹細工クラブ）	福祉まつり
10月	江府町・防災情報センター	杉原幹雄(イラストレーター)、小田隆（郷土史家）	日野軍秋の陣ふいご祭
10月	鳥取市・松泉寺	清末忠人（鳥取自然に親しむ会会長）	気高郡曹洞宗研修会
10月	鳥取市・文化ホール	玉木純一（レクリエーション・コーディネーター）	尚徳大学
10月	鳥取市・モナーク	河下哲志(トウフルート奏者)	中国市議会議長会
10月	倉吉市・体育文化会館	青亀千弘・飯田啓子（看護師）	中部高齢者健康運動会
10月	大山町・大山寺周辺	千田明（大山の地蔵研究家）	大山さん講座・地蔵めぐり
10月	倉吉市・灘手小	澤田　勝（サックス奏者）	灘手こーまい秋まつり
10月	岩美町・あすなろ	清水増夫（映画上映）	高齢者施設映画上映会
11月	鳥取市・市民体育館	瀬川和義・薮田道男・山下眞里・（鳥取ものづくり道場）	労福協ものづくり教室
11月	鳥取市・歴史博物館	清末忠人（鳥取自然に親しむ会会長）、松田章義（元児童福祉施設長）	占領期の鳥取を語る会
11月	日野町・たたら古道	佐々木彬夫（観光ガイド）、杉原幹雄(イラストレーター)	日野軍秋の陣
11月	日野町・明地峠	松本利秋（カメラマン）	日野のオシドリと雲海
11月	鳥取市・文化ホール	田中精夫（大河ドラマを推進する会代表）	市民大学歴史講座
11月	鳥取市・なごみ苑	清水増夫（映画上映）	高齢者施設映画上映会
11月	江府町・防災情報センター	多羅尾整治（古代史研究家）	明徳学園
11月	米子市・ふれあいの里	徳本義則（介護福祉士）	介護補助スタッフ講習
11月	江府町・道の駅奥大山	手島征夫（江府町文化協会長）	アラカシ群落を往く
11月	日南町・石見地区	温湯正人（ウォーキング指導者）	奥日野ロゲイニング
11月	日野町・後谷	長住武美（造園現代の名工）、佐々木彬夫（観光ガイド）	奥日野大人の遠足
11月	米子市・産業体育館	近藤盛一（マジック）、近藤勢津子（腹話術）、房安寿美枝（折り紙作家）	とっとり介護フェア
11月	米子市・文化ホール	森井偲訓（刀剣研究家）	大山さん講座
11月	湯梨浜町・公民館泊分館	藤井正幸（マジック）、森本せつ（ステンシルアート）	公民館まつり
11月	江府町・防災情報センター	倉益敬（鳥取県歌人会長）	明徳学園特別講座
12月	鳥取市・文化ホール	森本良和（映画監督）	市民大学歴史講座
12月	米子市・弓ヶ浜中学校	荒井玲子（看護師）	弓ヶ浜中学人権学習
12月	米子市・公民館宇田川分館	後藤俊夫（小説家）	老人大学
12月	三朝町・三喜苑	澤田　勝（サックス奏者）	クリスマス会
12月	鳥取市・市教委国府町分室	アール・ファイブ（ポップス・バンド）、胡桃の会（二胡）	クリスマスコンサート
12月	江府町・江府小学校	杉原幹雄(イラストレーター)	明徳学園交流学習
12月	湯梨浜町・アロハホール	西村光司・石川達之・柳井沙羅（歌手）	ゆりはま歌の力コンサート

	日程	活動場所	登録者	活動内容	日記掲載ページ
2018年	1月	智頭町・心和苑	清水増夫（映画上映）	高齢者施設映画上映会	
	1月	江府町・江府小学校	古瀬美保子（合唱団Glanz代表）	明徳学園	1
	1月	倉吉市・河北小学校	伊藤美都夫（元県議会議長）	修学旅行事前学習	2
	1月	岩美町・駅前コミセン	片山長生（教育カウンセラー）	岩美町の大河ドラマ	3
	1月	鳥取市・文化ホール	橋谷田岩男（漆研究家）	歴史講座	4
	2月	鳥取市・ニューオータニ	小山富見男（新県史編纂委員）	新年会	5
	2月	倉吉市・倉吉交流プラザ	淀江さんこ節保存会	ふるさと再発見講座	6
	2月	江府町・防災情報センター	安達佳恵（気功太極拳）	明徳学園	7
	2月	倉吉市・社会福祉協議会	鳥取県健康マージャン連盟	健康マージャン大会	8
	2月	鳥取市・因幡万葉歴史館	北尾勲（鳥取県歌人会顧問）、田中道春（万葉集朗唱の会会長）	万葉茶会	9
	3月	倉吉市・小鴨公民館	脇坂幸司（講談）	シニアクラブ	10
	3月	鳥取市・歴史博物館	小山富見男（新県史編纂委員）	占領期の鳥取を学ぶ会	11
	3月	鳥取市・因幡万葉歴史館	小泉幸子（香道家）	香道体験講座	12
	3月	鳥取市・鳥取空港	中部ものづくり道場	空港ロード開通記念	13
	3月	鳥取市・因幡万葉歴史館	澤田勝（サックス奏者）	和歌うたコンサート	14
	3月	鳥取市・県立図書館	四井幸子（碧川かた研究家）	碧川かた研究会	15
	3月	琴浦町・琴浦町社協	玉木純一（レクリエーションCD）	介護ボランティア研修会	16
	3月	米子市・ANAホテル米子	石村隆男（コンベンション理事長）、川越博行（米子下町ガイド）	米子城フォーラム	17
	3月	倉吉市・未来中心	中部ものづくり道場	ワークショップ	
	3月	鳥取市・米里公民館	清末忠人（鳥取自然に親しむ会会長）	教養講座	
	4月	季刊誌「志あわせへ」	紙原四郎（切り絵作家）	フロント表紙（4回）	
	4月	江府町・防災情報センター	木下登士彦（ひなの館ガイド）	ひな祭りコレクション	18
	4月	日野町・たたらの楽校	杉原幹雄（イラストレーター）	始業式記念講座	19
	4月	鳥取市・県立博物館	森本良和（映画監督）	明治維新シンポジウム	20
	4月	鳥取市・文化ホール	森本良和（映画監督）	郷土歴史講座	
	4月	鳥取市・県民文化会館	小山富見男（新県史編纂委員）	澤田美喜に学ぶ	21
	4月	日南町・御墓山	奥日野ガイド倶楽部	奥日野5山	22
	4月	鳥取市・県立図書館	片山長生（元高校教員）	三愛のクニヘ研究会	23
	5月	倉吉市・鳥取短大	高田典裕（接遇教育インストラクター）	社会人マナー講座	24
	5月	大山町・大山寺参道	千田明（大山の地蔵研究家）	大山地蔵フェア	25
	5月	大山町・大山寺豪円湯院	大原俊二（郷土史家）、伯耆伝承隊	豪円僧正を語る	26
	5月	米子市・春日公民館	根平雄一郎（境港歴史研究会代表）	教養講座	27
	5月	湯梨浜町・浅津ゲートボール場	玉木正枝(介護予防運動士)、飯田啓子(元看護師)	因伯シルバー大会	28
	5月	鳥取市・宝林堂	森田尾山（書家）	森田尾山書展	29
	5月	北栄町・レークサイド大栄	玉木正枝(介護予防運動士)、飯田啓子(元看護師)	因伯シルバー大会	
	5月	鳥取市・久松公民館	廣澤孝彦（鳥取市観光大学講師）	鈴の音大使教育講習	30
	5月	日野町・古民家沙々木	坂上達也（クロマチックハーモニカ奏者）	古民家コンサート	31
	5月	若桜町・響きの森	星見清晴（鳥取県地学会会長）	ふるさと探訪会	32
	5月	北栄町・中央公民館	岩室久美子（パソコン検定試験官）	高齢者パソコン教室	33
	5月	北栄町・中央公民館	玉木純一（レクリエーションCD）	高齢者ニュースポーツ教室	
	5月	岩美町・役場	玉木純一（レクリエーションCD）、山下眞一郎（マジック）、佐々木洋一（ハーモニカ）	高齢者学級	34～36
	5月	湯梨浜町・はわい夢広場	玉木純一（レクリエーションCD）	シニアスポーツを楽しもう	
	5月	倉吉市・社会福祉協議会	鳥取県健康マージャン連盟	健康マージャン	37
	5月	鳥取市・県立図書館	北村隆雄（小鴨シニアクラブ）、吉島潤承（紙芝居）、田中精夫（郷土史家）	大河ドラマ候補発表会	38
	5月	倉吉市・未来中心	日本将棋連盟鳥取県キッズ	将棋大会	39
	5月	倉吉市・未来中心	穐久仙十郎（鳥取県囲碁連盟会長）	囲碁大会	40
	5月	鳥取市・福祉人材センター	徳本義則（介護福祉士）	介護補助スタッフ講習	
	5月	鳥取市・市民会館	澤田勝（サックス奏者）、金曜会（謡曲）	金婚式	41
	6月	鳥取市・文化センター	小山富見男（新県史編纂委員）	郷土歴史講座	42
	6月	鳥取市・福祉人材センター	佐々木洋一（介護福祉士）	介護補助スタッフ講習	
	6月	米子市・福米東公民館	根平雄一郎（境港歴史研究会代表）	教養講座	
	6月	倉吉市・未来中心	石川達之（防災士、フォークシンガー）	職員研修会	43
	6月	米子市・福生西公民館	根平雄一郎（境港歴史研究会代表）	教養講座	
	6月	米子市・和田公民館	根平雄一郎（境港歴史研究会代表）	教養講座	
	6月	鳥取市・美吉町ふれあい会館	内田克彦（大河ドラマを推進する会代表）	教養講座	44
	6月	鳥取市・とりぎん文化会館	みずばしょうコーラス、山の手コーラス	100曲マラソン	45
	6月	鳥取市・文化センター	四井幸子（碧川かた研究家）	郷土歴史講座	46
	6月	鳥取市・文化センター	ギターアンサンブル・アミーゴ	ギャラリーコンサート	47
	6月	伯耆町・八郷小学校	近藤勢津子（腹話術）	高齢者学級交流授業	48
	6月	日南町・花口	奥日野ガイド倶楽部	たたら古道を歩く	49
	6月	大山町・大山寺	鷲見寛幸（大山町教育長）、矢田貝繁明（大山自然歴史館長）	大山講座（大山の自然）	50
	6月	鳥取市・文化ホール	松弘美会	民謡ふるさと巡り	51
	6月	北栄町・中央公民館	岩室久美子（パソコン検定試験官）	高齢者パソコン教室	
	6月	北栄町・中央公民館	玉木純一（レクリエーションCD）	高齢者ニュースポーツ教室	
	6月	岩美町・役場	山下眞一郎（マジック）、佐々木洋一（ハーモニカ）	高齢者学級	
	6月	鳥取市・福祉人材センター	岩室久美子（パソコン講師）	アビリンピック審査員	
	6月	鳥取市・福祉人材センター	ハッピー・ウクレレ・ハーモニー	アビリンピック・アトラクション	52
	7月	鳥取市・ひなの館	鳥取ベンチャーズ	リサイタル	53
	7月	米子市・福米東公民館	根平雄一郎（境港歴史研究会代表）	教養講座	
	7月	鳥取市・文化ホール	近藤盛一（マジック）	健康講座	54
	7月	米子市・公会堂	ジョイフルプラザ	郷土・ダンス・合唱講座	55
	7月	鳥取市・散岐公民館	山根教子（樹脂粘土人形作家）	人形づくり教室	
	7月	鳥取市・福部中央公民館	桂小文吾（落語家）	文化協会記念講演会	56
	7月	鳥取市・さざんか会館	牧野芳光(県文連文芸分野座長)、北尾勲（短歌）、岸本俊彦（俳句）、森山盛桜（川柳）、胡桃の会（二胡）	ごちゃまぜ講座	57
	7月	江府町・防災情報センター	倉益敬（鳥取県歌人会会長）	明徳学園	
	7月	鳥取市・わらべ館	伯耆伝承隊	夏休み体験教室	58
	7月	鳥取市・とりぎん文化会館	箏・てまり会	結成25周年コンサート	59
	7月	日南町・阿毘縁	伯耆国たたら顕彰会	伯耆安綱ゆかりの地巡り	60
	7月	北栄町・中央公民館	岩室久美子（パソコン検定試験官）	高齢者パソコン教室	
	7月	北栄町・中央公民館	玉木純一（レクリエーションCD）	高齢者ニュースポーツ教室	
	7月	岩美町・役場	菊川貴裕（生きがいづくりアドバイザー）	高齢者学級	
	7月	島根県・隠岐島	倉光信一郎（鳥取短大講師）	学校司書研修会	
	7月	岩美町・役場	山下眞一郎（マジック）、佐々木洋一（ハーモニカ）	高齢者学級	
	7月	大山町・保健福祉センター	劇団ふたり	ことぶき学級	61
	7月	伯耆町・溝口公民館	森則俊（木彫作家）	夏休みものづくり教室	

日程	活動場所	登録者	活動内容	日記掲載ページ
7月	鳥取市・大茅公民館	サーフライダーズ	納涼祭	62
7月	鳥取市・鳥取空港	鳥取ベンチャーズ、藤井正幸（マジック）、鳥取ものづくり道場	ツインポート・フェスタ	63
7月	鳥取市・文化センター	クインビー・ジャズ・オーケストラ	ギャラリーコンサート	64
7月	鳥取市・文化センター	鳥取ものづくり道場	手づくりまつり	65
7月	南部町・公民館	倉益敬(県歌人会会長)	夏休み短歌教室	
8月	湯梨浜町・中央公民館	角秋勝治（郷土作家研究家）	歴史講座	
8月	鳥取市・因幡万葉歴史館	中永廣樹（鳥取県前教育長）	万葉集講座	66
8月	琴浦町・古布庄公民館	西田輝明（関金竹細工クラブ）	大人のものづくり	
8月	境港市・夢みなとタワー	清末忠人（鳥取自然に親しむ会会長）	大山の昆虫教室	67
8月	鳥取市・パレット	鳥取ものづくり道場	鳥取商工会議所事業	68
8月	南部町・公民館	倉益敬(県歌人会会長)	夏休み短歌教室	
8月	鳥取市・文化センター	木谷清人（鳥取市文化財団理事長）	郷土歴史講座	69
8月	倉吉市・上灘公民館	岡村洋次（元新聞記者）、高橋孝之（映像ネットワーク会社社長）	市町村社協広報研修	70
8月	鳥取市・文化ホール	鳥取ベンチャーズ、APON、アール・ファイブ、一音会、松弘美会、 みずばしょうコーラス、鳥取県大衆音楽協会、どじょっこの会、 美保踊りの会、花えみの会、鳥取ものづくり道場、陶の会、 いけばな小原流鳥取支部、廣澤孝彦（鳥取市観光大学講師）、 野田哲夫（俳句選者）、岡村洋次（放哉の会事務局長）	生涯現役まつり	71～72
8月	米子市・市内	米子美術家協会、米子工芸会	大山芸術祭	73
8月	鳥取市・佐治人権センター	山口輝幸（竹細工）	夏休みものづくり教室	74
8月	米子市・真誠会	根平雄一郎（境港歴史研究会代表）	教養講座	
8月	米子市・崎津公民館	根平雄一郎（境港歴史研究会代表）	教養講座	
8月	北栄町・中央公民館	岩室久美子（パソコン検定試験官）	高齢者パソコン教室	
8月	北栄町・中央公民館	玉木純一（レクリエーションCD）	高齢者ニュースポーツ教室	
8月	江府町・防災情報センター	鈴木稔（俳人協会）	明徳学園	
8月	鳥取市・県立博物館	鳥取歴史振興会	「維新の魁」完成上映	75
8月	岩美町・役場	山下眞一郎（マジック）、佐々木洋一（ハーモニカ）	高齢者学級	
8月	米子市・加茂川	米子観光まちづくり公社、春蘭会	大山講座・米子地蔵まつり	76
8月	米子市・中央隣保館	近藤勢津子（腹話術）	地蔵まつり	
8月	倉吉市・関金温泉	中部ものづくり道場	たたら操業	77
8月	米子市・日野川ほか	石丸なつ子（植田正治写真美術館講師）	日野川源流写真教室	78
8月	鳥取市・吉成	中尾三郎(ビジネス書法士)	賞状筆耕	
8月	米子市・コンベンション	田中みつとし（トランペット奏者）	県民総合福祉大会	79
9月	鳥取市・文化センター	片山長生（教育カウンセラー）	郷土歴史講座	
9月	米子市・さなめホール	北村隆雄（小鴨シニアクラブ）、吉島潤承（紙芝居）、田中精夫（郷土史家）	大河ドラマ選考会	80
9月	鳥取市・モアスマイル富安	山下眞一郎（マジック）	敬老会	81
9月	鳥取市・文化センター	濱田英一（鳥取県地域社会研究会顧問）	郷土歴史講座	82
9月	米子市・福原荘	キタローズ（尺八楽団）	敬老会	83
9月	鳥取市・県福祉人材センター	鍛治木いつ子(鳥取県栄養士会顧問)	調理補助講習	84
9月	鳥取市・まさたみの里	山下眞一郎（マジック）	敬老会	
9月	江府町・防災情報センター	政岡日枝子（川柳作家協会）	明徳学園	
9月	鳥取市・因幡万葉歴史館	根鈴輝雄（倉吉博物館長）	万葉集講座	85
9月	鳥取市・風紋広場	バードベンチャーズ、西小路晴子（カラオケ講師）	西日本災害チャリテイー	86
9月	鳥取市・用瀬町	橋谷田岩男（漆研究家）	八頭郷土文化研究会	87
9月	北栄町・中央公民館	岩室久美子（パソコン検定試験官）	高齢者パソコン教室	
9月	北栄町・中央公民館	玉木純一（レクリエーションCD）	高齢者ニュースポーツ教室	
9月	岩美町・役場	山下眞一郎（マジック）、佐々木洋一（ハーモニカ）	高齢者学級	
9月	鳥取市・県福祉人材センター	徳本義則(介護福祉士)	介護補助スタッフ講習	
9月	鳥取市・因幡万葉歴史館	鳥取雅楽会、アールファイブ	雅楽舞楽の宴	88
10月	鳥取市・県福祉人材センター	徳本義則(介護福祉士)、佐々木洋一(介護福祉士)	介護補助スタッフ講習	
10月	鳥取市・文化センター	内田克彦（大河ドラマを推進する会代表）	郷土歴史講座	89
10月	鳥取市・県福祉人材センター	佐々木洋一(介護福祉士)	介護補助スタッフ講習	
10月	鳥取市・河原あすなろ	鳥取コミュニティシネマ	高齢者映画上映会	
10月	琴浦町・まなびタウン	石川達之（防災士、フォークシンガー）	方言ナイト	90
10月	米子市・真誠会	根平雄一郎（境港歴史研究会代表）	教養講座	
10月	鳥取市・気高人権センター	花えみの会	人権文化祭	91
10月	鳥取市・公文書館	伊藤康（学芸員）	明治150年展	92
10月	鳥取市・佐治アストロパーク	田中みつとし（トランペッター）	星空コンサート	
10月	鳥取市・玄忠寺	竹内道夫（文芸家）、佐藤翔風（詩吟）	荒木又右衛門祭	93
10月	鳥取市・文化センター	清末忠人（鳥取自然に親しむ会会長）	自然講座	94
10月	倉吉市・小鴨公民館	坂本寛豊（終活講師）	シニア研修講座	95
10月	鳥取市・文化センター	片山長生（教育カウンセラー）	郷土歴史講座	96
10月	湯梨浜町・羽合温泉羽衣	鍛治木いつ子(鳥取県栄養士会顧問)	羽衣天女伝説の夕べ	
10月	伯耆町・畑池公民館	米子マジック同好会	敬老会	
10月	鳥取市・県民ふれあい会館	民謡きくの会・虹の会	10周年記念	97
10月	鳥取市・有隣荘	中永広樹（県体協会長）	源氏物語講座	
10月	米子市・ふれあいの里	鷲見寛幸（大山町教育長）	大山1300年講演会	
10月	鳥取市・津ノ井小学校	小谷博徳（元高校教諭）	人権教育保護者研修会	98
10月	米子市・産業体育館	荒井玲子（看護師）	西部高齢者健康運動会	
10月	米子市・コンベンション	遠藤甫人（鳥取県俳句協会長）、佐藤夫雨子（米子俳句協会長）、由木みのる（俳句誌選者）、中村襄介（ホトトギス同人）鷲見寛幸（大山町教育長）	大山を詠む（俳句大会）	99
10月	米子市・コンベンション	森田尾山（書家）	大山さん文芸祭典	
10月	米子市・コンベンション	淀江さんこ節保存会	食と農のフェスタ	
10月	米子市・コンベンション	米子田植唄保存会	食と農のフェスタ	
10月	日南町・阿毘縁地区	温湯正人（ロゲイニング指導）	にちなんロゲイニング	
10月	琴浦町・河本家住宅	眞田廣幸（倉吉文化財協会長）	秋の公開イベント	100
10月	米子市・公会堂	伯耆国たたら顕彰会、石村隆男（コンベンションビューロ理事長）	全国たたらサミット	101
10月	北栄町・中央公民館	岩室久美子（パソコン検定試験官）	高齢者パソコン教室	
10月	北栄町・中央公民館	玉木純一（レクリエーションCD）	高齢者ニュースポーツ教室	
10月	米子市・皆生温泉	淀江さんこ節保存会、桂小文吾（落語家）	中四国リーダー研修会	
10月	岩美町・役場	山下眞一郎（マジック）	高齢者学級	
10月	岩美町・あすなろ	佐々木洋一（ハーモニカ）	高齢者学級	102
10月	琴浦町・河本家住宅	小谷惠造（河本家保存会長）	秋の公開イベント	103
10月	鳥取市・末恒公民館	田中久大（郷土誌すえつね編集委員長）	郷土誌発行記念講演会	104
10月	鳥取市・若葉台公民館	河下哲志(トウフルート奏者)	文化祭	
10月	米子市・中央隣保館	南京玉すだれ山陰保存会	文化祭	105
10月	鳥取市・豊実公民館	バードベンチャーズ	地区まつり	106
10月	南部町・農業者トレセン	港ベンチャーズ、米子マジック同好会	ボランティアフェスティバル	107

日程	活動場所	登録者	活動内容	日記掲載ページ
10月	鳥取市・県社会福祉協議会	牧野芳光（鳥取県川柳作家協会長）	介護川柳審査会	
11月	鳥取市・県立図書館	沖廣俊（いなば国府ガイドクラブ）	国府町歴史遺産再発見	
11月	米子市・ふれあいの里	田中文也（古代史研究家）	古代史講座	108
11月	倉吉市・灘手小	淀江さんこ節保存会	灘手こーまい秋まつり	109
11月	北栄町・中央公民館	岩室久美子（パソコン検定試験官）	高齢者パソコン教室	
11月	北栄町・中央公民館	玉木純一（レクリエーションCD）	高齢者ニュースポーツ教室	
11月	日野町・町内	伯耆国たたら顕彰会、梅林敏彦（農業）	平成のふいご祭り	110
11月	鳥取市・なごみ苑	鳥取コミュニティシネマ	高齢者映画上映会	111
11月	鳥取市・メモワールイナバ	澤田勝（サックス奏者）、山根澄子（大正琴）	終活フェスタ	112
11月	鳥取市・文化センター	内田克彦（大河ドラマを推進する会共同代表）	尚徳大学	113
11月	鳥取市・万葉歴史館	甲斐清明(元高校教師)	万葉集講座	114
11月	江府町・奥大山古道	佐々木満（奥日野古道保存会長）	奥大山ウォーク	
11月	倉吉市・倉吉交流プラザ	波田野頌二郎（河本緑石研究会長）	生涯学習講座	115
11月	鳥取市・青谷支所	鳥取雅友会	青谷上寺地遺跡活用	116
11月	日野郡・日南町	奥日野ガイド倶楽部、多田重美（大石見神社宮司）	奥日野神社めぐり	117
11月	鳥取市・大茅公民館	桂小文吾(落語家)	公民館まつり	118
11月	鳥取市・文化センター	田中精夫（大河ドラマを推進する会共同代表）	郷土歴史講座	119
11月	倉吉市・鳥取短大	高田典裕（接遇教育インストラクター）	社会人マナー講座	
11月	鳥取市・やすらぎ	鳥取コミュニティシネマ	高齢者映画上映会	
11月	米子市・夜見公民館	吉島潤承（紙芝居）	さわやか人生大学	
11月	鳥取市・県社会福祉協議会	小谷明男（吉野そばの会）	そば打ち研修会	120
11月	米子市・伯耆町・日野町	奥日野ガイド倶楽部、杉谷愛象、高橋蝉夫（米子の宝88選委員会）	富次精斎を訪ねて	121
11月	鳥取市・高齢者福祉センター	鳥取流しびな真向会、のばなの会	市民活動フェスタ	122
11月	鳥取市・県民ふれあい会館	鳥取姫柿愛好会	姫柿盆栽展	123
11月	倉吉市・鶴乃嵜	まちゼミ・鶴乃嵜	倉吉まちゼミ	124
11月	倉吉市・倉吉ワイナリー	まちゼミ・倉吉ワイナリー	倉吉まちゼミ	125
11月	鳥取市・産業体育館	鳥取県フォークダンス連盟	連盟10周年フェア	126
11月	鳥取市・おおちだにアパート	小山富見男（新県史編纂委員）	戦前の歴史地図研究	127
11月	智頭町・町総合センター	田中みつとし（トランペッター）	ふれあいコンサート	
11月	鳥取市・文化センター	有本喜美男（さじ民話会）	郷土歴史講座	
11月	伯耆町・岸本公民館	劇団ふたり	高齢者学級	
11月	倉吉市・写真のカワラジョー	まちゼミ・写真のカワラジョー	倉吉まちゼミ	128
12月	日南町・菅沢	古民家net	古民家deくつろいday	
12月	鳥取市・ホテルモナーク	山下眞一郎（マジック）	忘年会	
12月	鳥取市・県立博物館	田村昭夫（鳥取昆虫同好会長）	自然シンポジウム	129
12月	倉吉市・伯耆しあわせの郷	山本福寿（智頭の山人塾長）	木育講座	130
12月	倉吉市・未来中心	小鴨太一車歴史文化部会、林かおる（ピアニスト）	公民館まつり	131
12月	鳥取市・神戸公民館	河下哲志(トウフルート奏者)	冬の祭典	132
12月	鳥取市・県立博物館	清水増夫（映画上映）	まわる映写機めぐる人生	133
12月	日野町・黒坂	梅林敏彦（農業）、渡部敏樹（農業）	家庭菜園肥料づくり講座	134
12月	鳥取市・湖山西公民館	山下眞一郎（マジック）	クリスマス会	135
12月	米子市・米子観光案内所	桂小文吾（落語家）	いも煮寄席	
12月	北栄市・中央公民館	岩室久美子（パソコン検定試験官）	高齢者パソコン教室	
12月	北栄町・中央公民館	玉木純一（レクリエーションCD）	高齢者ニュースポーツ教室	
12月	鳥取市・市立図書館	有本喜美男（さじ民話会）、小林龍雄（鳥取県民話サークル会長）	民話を聞く会	
12月	米子市・日本海新聞西部本社	清末忠人（鳥取自然に親しむ会会長）	大山講座・大山さんの自然	136
12月	鳥取市・イオン鳥取北店	本城義照（尺八）	年忘れコンサート	137

みんなで元気よく歌いましょう　　古瀬美保子さん

2018 年 1 月 18 日

江府町の高齢者大学「明徳学園」で童謡や唱歌などを歌う講座があり、合唱団 Glanz 代表の古瀬美保子さんが講師を務めました。約４０人が参加。「富士山」や「赤とんぼ」など約２０曲を元気よく一緒になって歌いました。

「私の声に負けないように大きな声で元気よく歌いましょう」。古瀬さんの呼びかけで講座が始まりました。古瀬さんは「赤とんぼ」を作詞した三木露風の母・碧川かたが鳥取県出身であることなど、それぞれの歌にまつわるエピソードを紹介しながら、歌唱指導しました。歌いながら、リズムに合わせて肩たたきをする場面もあり、体を動かしながらリズムに合わせて歌うことで、参加者には脳や体にも良いトレーニングになったようです。

また、古瀬さんは「コスモスの花」などを独唱で披露。会場に響き渡るきれいな歌声に、参加者は拍手喝采でした。古瀬さんによると、合唱団として歌を披露するには、最低でも半年くらいの準備期間が必要だそうで、「準備をしっかりして、今度は是非合唱団の歌声も聴いてください」と意欲的でした。

古瀬美保子さん

一緒になって歌う参加者のみなさん

平和な国であり続けられるように　　伊藤美都夫さん

2018 年 1 月 20 日

倉吉市の河北小学校で「戦争体験に学ぼう」という授業があり、元鳥取県議会議長の伊藤美都夫さんがゲストティーチャーを務めました。この授業は、さまざまな分野の方を地域から招いて学ぶ「ふるさと学習」の一環で行われました。

授業を受けたのは、広島への修学旅行を控えた5年生約70人。広島での平和学習に向けて、伊藤さんから戦争体験の話を聞きました。伊藤さんは終戦の時7才でしたが、6人いるお兄さんたちから聞いた戦争体験や、戦時中に実際に体験したことなどを話しました。

6人のうち2人は戦争で亡くなられ、1人は広島の原爆を体験したそうです。広島での惨状をお兄さんから聞いた伊藤さんは、「その恐ろしさは生々しく、今でも忘れられない」と言います。また、戦争から生還したお兄さんも、捕虜として捕らわれていたため、栄養失調の状態だったそうで、その姿を見た伊藤さんは、戦争の悲惨さを肌で感じた瞬間だったと話しました。

戦争体験で一番印象に残っているのが、何気ないときに見せた母親の涙だったと言います。戦争というものは、一般の人たちの普通の暮らしさえも一変させる、平和を一瞬で奪ってしまうものだと、その涙を思い出すたびに痛感させられたそうです。

伊藤さんは最後に「みなさんは平和な国に生まれ、平和な日々を送っている。けれどいつ戦争が起こるかわからない。平和な国であり続けられるために、自分たちはこれからどうしたらいいかを考えてほしい」と伝えました。

伊藤美都夫さん

戦争体験を語る伊藤さん

岩美を世界平和の聖地に　　片山長生さん

2018 年 1 月 21 日

鳥取県にゆかりがある大河ドラマや朝ドラを実現する運動が本格化してきました。郷土史家やドラマファンでつくる推進する会は、その候補に岩美町出身の外交官、澤田節蔵・廉三の兄弟と孤児救済の美喜夫人の物語「三愛のクニへ」、童謡「赤とんぼ」の作者・三木露風の母親で婦人参政権運動に取り組んだ碧川かたの生涯を描く「赤とんぼの母」を選び、PRに乗り出していますが、岩美町の駅前長寿会（向家仁会長）の新春の集いで、片山長生さん（元高校教諭）が「官民一体となって澤田ファミリーの功績をドラマにして、岩美を世界平和の聖地にしましょう」と呼びかけました。

「三愛のクニへ」は岩美町出身の外交官、澤田節蔵・廉三の兄弟を軸にした物語です。第1次世界大戦の悲劇を繰り返さないために国際連盟が1920年に発足したにもかかわらず、第2次世界大戦が起こってしまいます。節蔵は国際連盟の日本の事務局長として国連脱退に抵抗しますが、失脚します。そして敗戦後、廉三は国際連合の初代国連大使として日本の国際社会復帰を果たします（1956年）。三菱財閥創始者の孫娘で廉三夫人の美喜は、占領軍（GHQ）抵抗のなかでエリザベス・サンダース・ホームをつくって孤児救済を進め、廉三提唱の三愛（人類愛・祖国愛・母子愛）を実践していきます。その拠点の一つが、いまも残る岩美町牧谷・熊井浜の別荘「鷗鳴荘」です。

片山さんによると、推進する会がNHK鳥取放送局に候補作品のドラマ化実現を申し入れたところ、①地元を中心に鳥取県がどれだけ盛り上がるか②脚本家のストーリーづくりのための本づくりが欠かせない—と指摘されたそうで、岩美町民による「三愛のクニへ」の勉強会を立ち上げ、澤田ファミリーの功績を伝える語り部づくりを広げることにしています。

片山さんは「澤田兄弟が多感な青年時代に日露戦争があり、岩美町の田後や東浜には日本海海戦で亡くなったロシア人の遺体が打ち上げられた。その仏様を地元の人は丁寧に葬った。岩美町はまさに人類愛の聖地。高齢者と若者、官民が力を合わせて、世界から人がやってくる世界平和の聖地づくりを進めましょう。ドラマ化にご協力を」と訴えていました。

片山長生さん

「三愛のクニへ」のポスター

佐治漆を復活させよう　　橋谷田岩男さん

2018 年 1 月 23 日

鳥取市民大学は漆器専門店を営む漆芸家の橋谷田岩男さんを招き、「鳥取漆器・佐治漆の生産と流通の変遷」について学びました。佐治谷は日本有数の漆の産地として知られるものの、安価な中国漆や化学塗料などに押されて消滅してしまいました。橋谷田さんらは佐治漆研究会をつくり、漆産業の復活を目指して苗木づくりなどに取り組んでいます。

橋谷田さんによると、佐治漆の最盛期は幕末のころ。加瀬木や加茂など佐治川右岸を中心に漆の木が5千本余り植えられ、漆液が1千kgほど採取されたそうで、鳥取藩の大きな財源だったといいます。明治35年の県統計年鑑には県産漆は1691kg、その9割ほどが佐治を中心にした八頭郡産とあります。ただ、戦後は安価な中国漆に市場を奪われ、佐治産は昭和42年にゼロになってしまいました。

ちなみに直近の国産漆生産量（平成26年、農水省調べ）は1003kg。県別では①岩手645kg②茨城154kg③栃木120kg④長野38kg⑤山形24kg—の順で、かつて1千kgを産出した佐治の漆産業の大きさがよくわかります。

佐治の漆は用瀬・智頭・鳥取に集められ、海路で大阪や能登などに運ばれたとみられていますが、鳥取藩にも木村宗春や田中稲月などの優れた漆工、蒔絵師が育ったといいます。昭和10年の鳥取県の漆器製造販売額は約14万円、いまの金額に換算すると2億8千万円ほど。漆工は125人、うち鳥取市には65人いたそうで、その製品は京阪神・下関・中国東北部などに売られたといいます。日本の英語表記がジャパン（漆器）と言われるごとく、漆器製品は欧州貴族のあこがれでした。

橋谷田さんによると、いま国産漆は日本の消費量のうち、わずか2%ほどしかないといいます。そこで文化庁は国宝・重要文化財の建造物の保存、修理に使う漆は国産漆を使うことにしたそうです。漆生産の適地、歴史的産地が復活する好機がやってきました。橋谷田さんや佐治町民は平成28年に佐治漆研究会（山本達夫会長）を立ち上げ、苗木づくりに乗り出しました。漆液は10年生の木で牛乳瓶1本程度（200cc）しか採れないそうで、産地復活までには息の長い取り組みになりますが、漆と和紙の連携や漆の実のコーヒーなど6次産業化にも挑戦したいと張り切っています。

橋谷田岩男さん

佐治漆研究会のパンフレット

歴史・文化の魅力を鳥取から発信！　　小山富見男さん

2018 年 2 月 11 日

鳥取市のホテルニューオータニで鳥取華道連合会（入江邦子会長）の総会があり、大河ドラマの舞台を鳥取に誘致する運動を進めている小山富見男さん（新県史編さん委員）が「大河ドラマと鳥取・花」と題して講演。約140人が聴講しました。

小山さんは「鳥取にも歴史に名を残した人物はいるが、大河ドラマにあまり取り上げられていない。もっと地方の視点を取り入れてほしい」と要望したうえで、昨年誕生した「歴史大河ドラマを推進する会」の取り組みなどを報告しました。

このなかで東京五輪の前年に予定されている大河ドラマ「いだてん」の時代考証で、県内の関係者が智頭町出身で日本初のマラソン大会優勝者の綾木長之助さんに関する膨大な資料をNHKに送って鳥取をPRしていることなどを明らかにし、「今後は県民一体となった運動、魅力発信が必要になっている」と強調しました。

小山さんは大河ドラマと花の魅力についても触れ、「華道は、それぞれの流派の美学や哲学、世界観に基づいて、どのように花が脚色されていくのか、それが醍醐味と言える。大河ドラマの脚本も同じで、脚本家それぞれの時代の捉え方によって脚色が加えられ、同じ題材でも脚本家それぞれの味が出る。そういう点では、まさに華道家は脚本家である」と独自の視点を示しました。

また、小山さんは「グローバル化の時代、何より自国の文化を知り、身につけておかなければ、世界の人たちと対等に話ができない」とし、「華道も日本人により浸透していかなければならないものであり、この鳥取から全国、世界へと華道を広めていってほしい」と訴えました。

歴史（大河ドラマ）と文化（華道）の魅力を鳥取から―参加者はその可能性に大きな期待を寄せているようでした。

小山富見男さん

講演会の様子

地域のお宝で地域づくり　　淀江さんこ節保存会

2018 年 2 月 11 日

鳥取県立生涯学習センターの生涯学習講座「地域のお宝再発見！～歴史的・文化的資源を活用した地域づくりをめざして～」が倉吉交流プラザであり、淀江さんこ節保存会（奥田晃巳事務局長）が実践発表などを行いました。参加者は約60人。

淀江さんこ節は江戸時代の中頃、田植え唄などの労働歌として歌われ始め、幕末から明治にかけて、港町に停泊する船乗りや旅人をもてなすお座敷芸として一大ブームを巻き起こしました。淀江は古くから港町として人や物、文化が集まる場所であり、淀江さんこ節も他の地域の伝統芸能の影響を受けながら、現在まで受け継がれています。

実践発表のなかで奥田事務局長は、「世界に通じるさんこ節に」を合言葉に、公演をとおした出会いを大事にすることで、お座敷芸「さんこ節」というお宝を磨いていると報告しました。人に観てもらうことで評価され、その評価をもとにさらに磨きをかけているというわけです。

また、倉吉市・小鴨公民館の波田野頌二郎館長も太一車など先駆的な農機具改良を行った中井太一郎の功績を公民館活動に取り入れ、住民の活力を引き出している様子を報告しました。

基調講演した鳥取県埋蔵文化財センターの中原斉所長は「地域づくりには宝を見抜くアンテナ、磨く勇気、そして人とのつながりを大事にしていくことが必要ではないでしょうか」とまとめました。

奥田晃巳事務局長

講演会の様子

腕振り運動で健康増進　　安達佳恵さん

2018 年 2 月 15 日

江府町の高齢者大学「明徳学園」が町防災・情報センターであり、米子市の安達佳恵さんから「気功・太極拳で健康増進」を学びました。約60人が参加しました。

安達さんは元保健師。長寿遺伝子が①食べ物②運動③瞑（めい）想④人との交わり―を通じて伸ばせることを知り、気功・太極拳に取り組んで、各地の教室で普及に努めてきました。

明徳学園では「いつでも」「どこでも」「だれでも」できる腕振り運動（スワイショウ）を紹介しました。やり方はいたって簡単。両足を腰幅に開いて、足先を真っ直ぐにして立ち、肩の力を抜いて、伸ばした両腕をひたすら前後に振るだけ。この運動は寝床でも、座ったままでもよく、毎日20分続ければ、血行がよくなって肩こり、冷え症、便秘などに効果があり、風邪予防にもなるそうです。

この腕振り運動を「デンデン太鼓」のように腰をひねって左右でやれば、背骨を軸にした体幹がつくられ、体にまとわりつくように両腕を強く「バシンバシン」とやることでウエストづくりにも効果てきめんといいます。これも毎日続けることが大切なようです。

安達さんは気功法も伝えました。眼は仏さまのように半分開き、舌は上あごにつけ、大脳の〝気〟をヘソ下の〝丹田〟に集めるイメージで、両手を心臓や肺、胃や腸などに当て、それらを〝気〟で洗って活性させていくといいます。受講生は見よう見まねで、真剣に挑戦しました。

「人の丹田には薬をつくる田んぼがあり、エネルギーがわいてくるところ」と安達さん。手首の周りの肩こり解消のツボや洗顔時に美男美女をつくるマッサージのツボなども指導し、「いつまでも元気で、いい男、いい女でいてください」と締めくくりました。

安達佳恵さん

手を打ち合うだけで肩こりも解消

2018 年 2 月 16 日

「お金をかけない」「お酒を飲まない」「たばこを吸わない」がモットーの健康マージャン。高齢者の文化・スポーツの祭典「全国健康福祉祭（ねんりんピック）」の正式種目になっているものの、鳥取県は不参加が続いてきました。その汚名返上に向けて県健康マージャン連盟（阿部泰典会長）が平成28年に誕生し、競技の普及と仲間づくりが進んでいますが、倉吉市の倉吉福祉センターで第1回健康マージャン親睦大会が開かれました。

大会を開いたのは倉吉市老人クラブ連合会（中林正樹会長）。中林会長は県健康マージャン連盟の参与も務め、この春、ねんりんピックの県予選となる因伯シルバー大会の健康マージャンを担当することになっており、そのリハーサルを兼ねて、市内の老人クラブ会員の親睦大会を開きました。66歳～86歳の24人が参加しました。

競技に先立って中林会長は「健康マージャンは競技相手に注目しながら指先や頭を使うので、仲間づくりや健康づくりができ、高齢者の福祉事業として全国で盛んに教室が開かれるようになっています」とあいさつし、ゲームの開始時には「お願いします」、終了後には「ありがとうございました」のあいさつを忘れない▽対局中の「口三味線」や対局相手の批判など言動には注意を払い、局終了後の「解説」も慎みましょう―など競技の心得を説きました。

親睦大会は①東南まわしの半荘4回戦、半荘の制限時間は50分②持ち点3万点の加減法（順位点）③食いタン、後付けあり④ドラは表、裏、カン、カン裏あり⑤点棒がなくなってもそのまま続行―など、ねんりんピックのルールに合わせて行われ、昼食をはさんでおよそ3時間の〝頭脳プレー〟が続きました。

大会参加の最高齢者・田中次郎さんは1回戦プラス点の好スタート。「マージャンをするのは30年ぶり。いまは公民館で月2回やっています。仲間が増えて楽しいですよ」と健康マージャンの効能に満足そうでした。

なお、健康マージャンの卓は手積み方式で、鳥取県社会福祉協議会は10卓用意して希望者に貸し出しています。

競技マナーを指導する鳥取県健康マージャン連盟の中林正樹参与

健康マージャン大会の卓を囲む倉吉市のみなさん

大伴家持生誕祭の幕開け　　田中道春さん・北尾勲さん

2018 年 2 月 18 日

因幡国司で日本最古の歌集「万葉集」を編さんした歌人・大伴家持は、2018年が生誕1300年。家持ゆかりの因幡万葉歴史館（鳥取市国府町）では、その記念行事が続いていますが、旧正月の2月18日には盛大な万葉茶会がありました。

家持は因幡の旧正月に「新（あらた）しき年の始めの初春の今日降る雪のいや重（し）け吉事（よごと）」と詠み、万葉集の最後に収めていますが、この歌をシニアバンク登録の田中道春さんが万葉衣装姿で元気よく朗唱して茶会は始まりました。

やはり万葉衣装でお抹茶、お菓子のサービスをしたのは同館ボランティアグループの「吉事の会」。鳥取雅友会（森川道弘楽長）が「越天楽」などの雅楽を演奏するなかで、参加者は厳かで、正月気分たっぷりのお茶会を楽しみました。

また、家持大賞審査員の北尾勲さん（鳥取県歌人会顧問）による短歌づくり教室もあり、7歳から92歳の20人ほどが挑戦。〝歌づくりの里〟らしく、「家持の生誕祭の幕開けを祝う茶会の人なかに入（い）る」（杉本義貞さん）、「鮮やかな万葉衣装まといし三人の吹きたる笛の音静かに聞きぬ」（田中和子さん）、「家持の雪思わせる地に集い歌詠まんとす児らのまぶしき」（平尾智さん）などが次々生まれ、子どもたちも「四年間国府の保育園通い家持の歌たっぷり覚える」（松本真子さん）と、感性豊かな作品を披露していました。

鳥取雅友会のみなさん

北尾勲さん

にぎわう万葉茶会

美しい田園風景をつくった男　　脇坂幸司さん

2018 年 3 月 2 日

倉吉市の小鴨シニアクラブ（北村隆雄会長）は小鴨公民館に地元の講釈師・松風軒倉山（脇坂幸司）さんを招いて公開講談会「日本型稲づくりの礎　老農・中井太一郎」を開き、日本の田園風景をつくった郷土の偉人に学ぶとともに、テレビドラマなどによる太一郎の顕彰活動を話し合いました。およそ100人が聴講しました。

中井太一郎（1830～1913年）は久米郡小鴨村（倉吉市）の出身。幕末から明治時代にかけて農業改良に一生を捧げた人です。日本で初めて「田植え定規」を考案し、全国に「正条植え」を普及して歩くとともに、中耕除草機「太一車」を開発して雑草取りという重労働から米づくり農家を解放し、米の生産性向上に大きな足跡を残しました。

稲を等間隔で植える方法は、いまでは田植え機に引き継がれ、省人化や病害虫に強い米づくりを実現し、併せて稲穂が整然と並ぶ日本の美しい田園風景をもたらしました。また、「太一車」が原点になっている中耕除草機は、有機栽培による米づくりの拡大や東南アジア、アフリカなどの米づくりでも引っ張りだこになっており、いまも昔も鎌鍬同様、稲作に欠かせない大切な農具であり続けています。

そこで地元の倉吉西中と倉吉東中は平成29年秋、合作で太一郎の功績を紙芝居やDVDにして郷土学習の教材をつくる一方、小鴨シニアクラブの有志も太一郎物語の寸劇をつくり、顕彰活動を展開中です。

この顕彰活動に弾みをつけるため、講談会が開かれたもので、日ごろは倉吉名所の赤瓦商店街・豊田亭で「淀屋」や「八犬伝」などの講談を上演している脇坂さんに新作「労農・中井太一郎の一席」をつくってもらい、公演の運びになりました。

講談時間はおよそ20分。太一郎の生い立ち、米づくりの苦労、因伯で2万人が餓死したといわれる天保の大飢饉（申年がしん）、明治初めの地租改正の不服従運動‥‥時折り「ババンバンバン」と張り扇を打ち鳴らし、名調子が続きます。

太一郎は50歳を過ぎてから「田植え定規」を考え、除草機「田打転車」の改良に精魂を傾け、ついに62歳のときに「太一車」の開発に成功、特許を取得しました。①雑草が取れる②同時に土を掘り起こして肥料をかき混ぜることができる③しかもそれらがひとりでできる―。脇坂さんは「革命的な農機具開発は太一郎の熱意と伯耆の鉄づくりの歴史と稲扱千刃をつくりだした倉吉の鍛冶技術が集まってできたもの」と講釈し、太一郎の句「仇をなす田の草討ち取る車かな」を紹介しました。

会場には「鳥取県を舞台に！　歴史大河ドラマを推進する会」の関係者も訪れ、太一郎物語のテレビドラマ化や「太一米」づくりなどを提言し、盛り上がりました。

松風軒倉山（脇坂幸司）さん

中井太一郎と太一車のイラスト

占領下の鳥取県を解明しよう　　小山富見男さん

2018 年 3 月 3 日

歴史の空白がある太平洋戦争直後の鳥取県について、県公文書館と鳥取市歴史博物館は県民の協力を得て「占領期の鳥取を学ぶ会」をつくり、実態解明に乗り出していますが、その活動報告会が市歴史博物館であり、平成30年度も引き続き県民参加を増やして調査することを確認しました。

県内には占領下の資料が少なく、「鳥取県史」の空白期とされてきましたが、県公文書館が国立国会図書館から進駐軍の軍政隊レポートの写しを入手し、解明できる糸口を見つけました。そのレポートは県内の行政・公衆・福祉・労働・経済・教育などの様子や出来事を連合国総司令部（GHQ）に毎月報告したもので、1946年8月～49年11月の3年4カ月にわたる英文の記録（約700ページ）です。

この翻訳を県民の協力を得て県公文書館・市歴史博物館の共同事業で進めることになり、平成29年7月に「占領期の鳥取を学ぶ会」をつくり、月1回のペースでボランティアで解明作業を続けてきました。翻訳指導をしたのは鳥取市の澤田晶子さん。これまでに昭和22年4月までのレポートを解読しました。また、「学ぶ会」は進駐軍がいたころ少年だった2人から体験談を聞いたほか、いまも残る進駐軍将校の元宿舎を訪ねたりしました。

活動報告会はシニアバンク登録の小山富見男さん（県史編さん委員）が進行し、GHQ が関心を寄せていたのはコレラやチフスなどの感染症対策、米子鉄道管理部などの労働組合活動、朝鮮人の帰還計画の実行など。進駐軍は鳥取市報などを通じて市民生活に深くかかわり、なじんでいたこともわかってきました。澤田さんはかすれた英文タイプと格闘した体験をもとに、「解読と読解のコツ」について発表。英文の読み方を知りたい人には生きた教材になると、参加のメリットを報告していました。

「学ぶ会」は平成30年度も月1回のペースで開き、英文翻訳の県民協力を増やすとともに、大正末～昭和15年生まれの戦中・戦後の体験談交流を進めたいとしています。

小山富見男さん

「占領期の鳥取を学ぶ会」
活動報告会

日本三大芸道・香道に親しむ　　小泉幸子さん

2018 年 3 月 4 日

大伴家持生誕1300年の記念行事・香道体験講座が鳥取市の因幡万葉歴史館であり、志野流香道鳥取教場の小泉幸子さんが講師を務めました。18人が参加しました。

香道は華道、茶道と並ぶ三大芸道の一つ。奈良時代に仏教とともに日本に伝えられました。当初は供え香（仏事に供えるお香）として儀式などに用いられましたが、平安時代には衣服や室内に香りを漂わせる薫物（たきもの）として貴族に広まり、室町時代の東山文化で香木（炭で炷（た）くと香りのする木）の香りを鑑賞する香道が体系化され、今日まで受け継がれています。

香りを嗅ぐことを香道では「聞く」といいます。静寂のなか、心を落ち着かせて香りに耳を傾けるという意味だそうです。香道には香木を炷いて香りを味わう聞香（もんこう）と、香りの違いを嗅ぎ分ける組香（くみこう）の二つがあり、この日の参加者は小鳥香（ことりこう）と琴玉香（きんぎょくこう）という組香を楽しみました。

小鳥香は5種類の香木を紙に包んだものを2セット作り、セットの中から一つずつを入れ替え、炷いたものを順に聞き、同じ香りのある、なしを当てるというもの。小鳥香の場合、指定された五文字からなる鳥の名前（「ほととぎす」など同じ文字が2つ含まれる鳥）のなかから解答するなど、解答の仕方にも趣向が凝らされています。

琴玉香は最初に2種類（琴・松風）の香木を炷いて聞き、香りを覚えます。そして琴と松風を混ぜ合わせたなかから5つを取り出して順番に聞き、どちらの香りかを当てるというもの。琴と松風を題材にした短歌をもとに考案されたそうで、家持誕生祭にちなんだ風流な遊びになりました。

小泉さんは「香道は芸道なので、作法など厳格なものもありますが、何より香りを楽しむことから香道に親しんでください」と呼びかけていました。

＊　　＊　　＊

小泉さんが所属する志野流は志野宗信を流祖とし、約500年続いています。茶道の家元も兼ねており、鳥取藩支藩の池田仲雅が志野流の茶道をたしなんだことがきっかけで、茶道とともに香道が鳥取に広まっていったそうです。

小泉幸子さん

香りを楽しむみなさん

みんなで飛ばそう紙飛行機　　中部ものづくり道場

2018 年 3 月 10 日

鳥取市の鳥取砂丘コナン空港と鳥取港を結ぶ県道鳥取空港賀露線（愛称・かにっこ空港ロード、１．６km）が開通しました。「空の駅」づくりが進む鳥取空港と「食のみやこ」の拠点整備が進む鳥取港が直結。県民は空と海のツインポート誕生を多彩なイベントで祝いました。

このうち鳥取空港の国際会館では紙飛行機づくりがあり、中部ものづくり道場の岡本尚機さんと福田愛治さんが大勢の家族連れや子どもたちに手ほどきしました。

紙飛行機といっても機種は多彩。A4判のコピー紙で作る飛行機はセミ、イカ、トンビ、ツバメ、ジェット機、曲芸機などいろいろ。岡本さんらは「機体は長くて、胴体は広くて、翼は広い方が安定して真っ直ぐ飛びます」と指導し、参加者は主にセミ型、イカ型の飛行機づくりに取り組みました。

できあがった紙飛行機は、鳥取空港から羽田空港や韓国・務安空港の〝的〟をめがけて投げ飛ばしましたが、思わぬところに飛んで、なかなか思い通りにはいきません。その都度、岡本さんらは主翼や尾翼の調整などを指導しました。また、機首の下に切れ目を入れて輪ゴムで飛ばすと、勢いよく遠くまで飛び、子どもたちを喜ばしていました。

岡本さんによると、紙飛行機のギネス記録はコリンズさん（アメリカ）がつくった「スザンヌ号」で、27秒、69．1m飛んだそうです。

まっすぐ飛ぶかな？

にぎわう紙飛行機づくり

万葉の里で「和歌うた」コンサート　　澤田勝さん

2018 年 3 月 11 日

因幡国司で日本最古の歌集「万葉集」をまとめたとされる大伴家持は2018年が生誕1300年。これを記念して因幡国庁があった鳥取市国府町ではイベントが続いていますが、国府町コミュニティセンターで早苗ネネさんの「和歌うた」コンサートがあり、万葉の里はいにしえの歌心に染まりました。シニアバンクからは地元の澤田勝さんが出演、得意のサックスでオープニングを飾りました。

家持は天平宝字3年（759年）の正月に「新（あらた）しき年の始めの初春の今日降る雪のいや重（し）け吉事（よごと）」と詠み、万葉集最後の歌（4516首）に収めました。家持が因幡の地で詠んだ唯一の歌とされ、「千の風になって」を作曲した新井満さんがこれにメロディーをつけて、町民は親しみを込めて歌っています。

生誕1300年記念事業実行委員会（木村肇会長）は、万葉の里の取り組みをさらに広げるため、万葉集や百人一首、源氏物語など古人の歌や詩に曲を乗せて歌手活動をしている早苗ネネさんを招き、「和歌うた」コンサートを開きました。早苗さんはポップ・デュオ「じゅん＆ネネ」のひとり。いまでは「和歌うた」を商標登録するほど、百人一首すべてに曲をつけてCD化するなど、いにしえの歌の魅力発信をライフワークにしています。

「和歌うた」コンサートは、休憩をはさんでおよそ3時間。澤田さんがサックスで家持の正月祝い歌、得意の「糸」、「じゅん＆ネネ」のヒット曲「愛するってこわい」の3曲を披露し、スタートしました。早苗さんは「田子の浦にうち出でてみれば白妙の富士のたかねに雪は降りつつ」（山部赤人）、「花の色は移りにけりないたづらにわが身世にふるながめせしまに」（小野小町）など和歌の組曲を次々に歌い上げます。ステージには歌のイメージ映像が流れ、会場はいにしえの世界に包まれました。

コンサート後半は出演者全員が万葉衣装で登場。早苗さんの解説とともに、額田王や大海人皇子などの恋歌などが続きます。ちょうどこの日が東日本大震災7周年とあって、犠牲者への黙とう、平和を訴える「さよなら戦争」の大合唱、アンコールで「愛するってこわい」のサービスもあって、盛り上がりました。早苗さんは「家持先生のゆかりの地に招かれ光栄。万葉集の歌にももっと曲をつけて、また来たい」と約束していました。

澤田勝さん

早苗ネネさん

「赤とんぼの母」の研究会発足　　四井幸子さん

2018 年 3 月 13 日

童謡赤とんぼの母・碧川かたのドラマ化を目指して研究会が発足、鳥取市の県立図書館で初会合がありました。「赤とんぼの母」のドラマ化は兵庫県たつの市で先行していますが、鳥取県でも「大河ドラマを推進する会」がNHKの朝ドラ候補に名乗りを上げたばかり。研究会の誕生でドラマ化に向けた県民運動に弾みがつきそうです。

碧川かた（1872～1962年）は鳥取県生まれ。草創期の日本の看護師で婦人参政権運動などに取り組んだ女性解放の先駆者。童謡赤とんぼの作詞者・三木露風（たつの市出身）の母親で、「赤とんぼの母」と呼ばれています。

その生涯は①看護師として自立②幅広い社会運動③夫と実践した男女共同参画④家族ぐるみで守った親子愛⑤生涯現役の生き方―など現代社会に通じるテーマに彩られており、ファンは多く、鳥取市のわらべ館横には顕彰碑が設けられています。

「赤とんぼの母」のドラマ化はシニアバンクに登録する元看護師の四井幸子さん（岩美町）が提唱。「大河ドラマを推進する会」でその生涯を発表し、朝ドラ候補として選定されました。ただ、朝ドラとなると、県民の盛り上がりはもちろん、史実を踏まえた130話程度の物語が必要で、県内の郷土史家や「赤とんぼの母」研究者、ファンなどに呼びかけて研究会を発足させました。

初の研究会には13人が参加。毎月開催を決めるとともに、今後の日程を確認しました。「赤とんぼの母」は多方面で活躍したことで、その足跡は鳥取―たつの―東京―小樽―東京―京都など全国各地に残っており、研究者も分散していることから、情報収集にも努めることにしています。

たつの市では平成29年春に「碧川かたを朝ドラの主人公にする会」ができ、官民挙げて署名運動などに取り組んでおり、運動1周年の3月末には市民劇「赤とんぼよ永遠に」を開催するなど、盛り上がっています。研究会はたつの市との連携に加えて、因幡万葉歴史館で6月末に「碧川かた資料展示会」、7月7日には「赤とんぼの母」を研究する女性小説家を招いて講演会を開くことにしています。

研究会の連絡先は☎0857-73-1051、四井代表まで。

四井幸子さん

「碧川かたを朝ドラに」のポスター

心が通うコミュニケーション　　玉木純一さん

2018 年 3 月 14 日

琴浦町社会福祉協議会の介護ボランティア全体研修会（いきいきふれあいサロン世話人交流会と共催）が町社会福祉センターであり、福祉レクリエーション・ワーカーの玉木純一さんから「相手の人と心を通わすコミュニケーション」について学びました。27人が参加しました。

琴浦町では平成25年から介護ボランティア活動を推進しています。40歳以上の町民が対象で、介護ボランティアの活動をとおして、生きがいややりがいを感じてもらうとともに、自ら介護状態になるのを未然に防ごうというのがねらいです。現在29人が登録し、町内の高齢者施設などでリハビリや配食などの活動をしています。

研修会は毎年開催しており、玉木さんからコミュニケーションの基本的な考え方や高齢者との接し方などについて学びました。玉木さんは高齢者施設でのレクリエーション指導の経験があり、講演は具体的で説得力があります。

それによると、コミュニケーションの心得は相手の気持ちになる▽お互いに理解し合う▽表情・声・視線に気をつける。とくに高齢者の場合は①穏やかな表情、笑顔②好ましい言葉づかい（ほめ言葉）③優しい態度―の3つの心がけが大切と力説していました。

講演の後は参加者みんなでレクリエーション。玉木さんが作詞した「新♥人生唱歌」を童謡や唱歌などに合わせて楽しく歌いました。玉木さんは「今日の話を思い出し、お互いに気持ちのよいコミュニケーションを取っていきましょう」と呼びかけました。

玉木純一さん

楽しく歌う参加者のみなさん

海に浮かぶ天空の米子城　　石村隆男さん・川越博行さん

2018 年 3 月 18 日

鳥取県経済同友会西部地区（松村順史代表幹事）は米子市のANAクラウンプラザホテル米子で米子城フォーラムを開き、2つの天守がそびえた米子城や江戸時代の町並みを残す米子市街地の価値と魅力について討論し、「海に浮かぶ天空の米子城は米子の宝」と発信することを申し合わせました。

フォーラムは米子城発掘を担当する市文化課学芸員の濱野浩美さん、同友会のふるさと教育特別委員長の石村隆男さんが米子城についてそれぞれ講演し、そのあと米子観光まちづくり公社理事長の川越博行さんとアニメやゲームをつくっている米子ガイナックス社長の赤井孝美さんが加わって、「大山を望む米子城と城下町」について討論しました。会場には大勢の歴史ファンが訪れ、耳を傾けました。

米子城は応仁の乱のころに砦として築かれたのが始まりと伝えられ、出雲・西伯耆・隠岐の領主となった吉川広家が1591年ごろ築城を始め、安来市の月山富田城から移ってきます。関ヶ原の戦い（1600年）の後、吉川は岩国に転封となり、代わって中村一忠が5層と4層の2つの天守を持つ米子城と城下町を形づくりました。お城は一国一城令で壊されることなく明治初めまで残り、いまでは石垣だけになってしまったものの、戦国時代をいまに残す城郭として、平成18年に国史跡になりました。

濱野さんによると、米子城は全方向に櫓を構え、全国でも珍しい「登り石垣」を設けるなど、城山のあちこちで防御の工夫が施され、謎多き城だといいます。また、湿地だった城下は山砂を1．5mほど埋め立てて整備したもので、その町割りは今もそのまま残っており、地下は江戸時代が眠った状態で、古絵図でまち歩きが楽しめる古都だそうです。

石村さんは、吉川広家が米子城を中海そばの立山（湊山）に設けたのは、「大山とともに生きるまちづくり」の手本を示したものと紹介。港の確保や領国経営に加え、「霊峰大山から陽が昇り、中海・島根半島に日が沈む、東方浄瑠璃浄土・西方極楽浄土の両方に出会えるところだから」と、信仰の視点があったことを解説しました。

吉川家文書によると、立山は当時、入山禁止の地で、大山寺の豪円の祈祷で霊力が除かれ、築城の運びになったと伝えられています。それにしても豪円は秀吉の備中高松城水攻めの雨乞いといい、国宝・松江城築城の祈祷といい、各地でその足跡を残しています。

討論のなかで川越さんは、4層の天守は写真も図面も残っており、木造で復元可能と問題提起したうえで、「米子城取り壊しの際、風呂のたきぎになったというが、ウソだ。明治10年ごろに建てられた6棟の町家に転用されていることが古民家調査で分かった。米子城とともに売り出したい」と、まち歩きガイドの今後の取り組みを紹介していました。また、赤井さんは吉川広家の大河ドラマ化を提案していました。

石村隆男さん

川越博行さん

米子城の総構え

かつて中海から見えた米子城と大山
（イメージ写真）

こだわって続ければ人は集まる　　木下登士彦さん

2018 年 4 月 7 日

４月初めに江府町で奥大山ひなまつりコレクションがありました。JR江尾駅周辺の住宅や商店には、おひなさまや色とりどりの人形が飾られ、にぎわいました。町防災・情報センターで流しびな講演会もあり、伝統行事へのこだわりが地域の個性を引き出すことを学びました。

奥大山ひなまつりコレクションは町文化協会（手島征夫会長）などが春の訪れを祝って開いているもので、住宅や商店、事業所の玄関やウインドーに、おひなさまや人形などを飾ってもらい、まち歩きを楽しんでもらうとともに、町をにぎやかにしようというのがねらいです。春の奥大山観光の目玉になっており、およそ60カ所で〝家宝〟のひなさんや天神さん、それぞれが集めた人形やこけしなどが並べられ、もちつきや特産品販売もあって、道行く人の目を楽しませました。

講演会は流しびなの先進地に学び、まつりを充実させるために開いたもので、鳥取市の「もちがせ流しびなの館」の企画広報部長・木下登士彦さんが「流しびなと地域づくり」について講演、白石祐治町長や観光関係者などが聴講しました。鳥取県社会福祉協議会・とっとりいきいきシニアバンク「生涯現役」共催。

木下さんによると、用瀬の流しびなは江戸時代から続く旧暦３月３日一日だけの行事です（今年は4月18日）。さん俵に男女一対の紙びなを乗せ、椿、菜の花、桃の小枝などを添えて、無病息災を祈りながら千代川に流すもので、近年はこの日だけで5千人～8千人の観光客やカメラマンが詰めかけているといいます。

用瀬には常設の「流しびなの館」があり、日本各地のひな人形やひなまつりの歴史などを伝えていますが、旧暦3月3日のひな流しの日は、たくさんの観光客が訪れることから、「地域活性化のためにも行事実施日を増やそう」という声があるそうですが、昔から「この日だけ」にこだわり続けています。なぜか。旧暦3月3日は「大潮の日」に当たり、災いを遠くまで運び去る最適の日だからだそうで、用瀬の住民は観光客が帰った夕方、家族で千代川に出て、ひな流しを続けているそうです。

木下さんは「観光客の目線に立っていないが、伝統行事を守り抜いているうちに、行事が光り輝き、住民に誇りと自信が生まれている」と紹介していました。ホンモノはいつも不易、個性豊かで魅力にあふれています。

木下登士彦さん

奥大山ひなまつりコレクション

刀工・安綱の生産拠点は奥日野？　　杉原幹雄さん

2018 年 4 月 7 日

日本刀の始祖といわれ、国宝「童子切」をつくった伯耆安綱一門の生産拠点は奥日野だったのではないか―。伯耆国たたら顕彰会と日南町大宮まちづくり協議会は、日野・日南町の「たたらの楽校」で伝説の刀工「安綱」を語るトークセッション（討論集会）を開き、多くのたたら研究者や刀剣ファンで盛り上がりました。

討論のたたき台となったのが、県日野振興センターが委託制作した電子紙芝居「一心清浄伯耆安綱伝」。たたら顕彰会の佐々木幸人副会長が「平家物語」や「太平記」などをもとにストーリーをつくり、同会の山本裕二さんが監修、企画制作会社・地域未来（杉原幹雄代表）が脚本化し、約50枚の水彩画をつくり、ナレーションなどを入れて仕上げました。

ストーリーは日南町下阿毘縁大原地区の「昔、安綱という刀工がいて、山伏だった」という伝承をもとにしたもので、将軍の依頼で国宝「童子切」や重要文化財「鬼切」などの銘刀が誕生し、蝦夷の蕨手刀（わらびてとう）をヒントに反りが入った日本刀ができあがるいきさつなどが展開します。安綱一門のなかには安綱を名乗った人物が4人いるほか、出身地伝承も伯耆（鳥取県中西部）に7カ所、うち4カ所は日南・日野町にあり、日本一の砂鉄が取れた印賀鋼の産地・奥日野こそ安綱一門の生産拠点、門外不出の技術伝承の場だったのではないかと結んでいます。

この紙芝居をもとに討論が行われ、「焼き入れのときの水の温度など作刀の秘密は弟子にも教えなかった。古い時代、鉄づくりや作刀は奥地で行われたと考えるのが自然」（佐々木さん）、「刀づくりが盛んだった大和鍛冶の刀で、いまだに安綱より古い日本刀が見つかっていない。反りのある日本刀を完成させたのは、やはり伯耆国の刀匠」（山本さん）―などの意見があったほか、会場からは米子市や倉吉市の安綱伝承などが紹介されていました。

奥日野のたたら製鉄ゆかりの電子紙芝居は、「たたら場のお引っ越し」「喜八郎の決断」「伯耆国の流通革命」に次いで4作目となりました。杉原さんは「古事記に登場する船通山のヤマタノオロチや江戸時代にたたら技術集・鉄山必要記事を残した下原重仲（江府町出身）なども紹介したい」と意欲的です。

杉原幹雄さん

伝説の刀工・伯耆安綱を語る３人
（たたらの楽校・根雨学舎）

伯耆安綱伝

維新は薩長因備が立役者　　鳥取歴史振興会

2018 年 4 月 8 日

明治維新150年を記念して、鳥取市の県立博物館で薩長因備シンポジウムがありました。鳥取歴史振興会（森本良和会長）が主催したもので、ゲストにNHK大河ドラマ「西郷どん」の時代考証を務める志學館大学教授の原口泉さん、西郷隆盛のひ孫・西郷隆夫さんらが参加し、「維新の立役者は薩長因備（薩摩・長州・因州・備前）」だったことを宣言しました。歴史ファン約300人が聴講しました。

原口さんは基調講演で、イギリスがアヘン戦争で国土の44倍もある清国に勝ち、植民地化した幕末の世相について説きました。これらの外圧に対抗するため、薩摩藩の島津斉彬などが中心になって「雄藩」連合による国家運営を模索する一方、鉄の大砲づくりなど産業の近代化を急いだといいます。

この時にできた山口・萩反射炉や鹿児島・集成館など8県に点在する日本の産業革命遺産（製鉄・製鋼、造船、石炭産業）は2015年に世界遺産に登録されました。鳥取（因州）藩も他藩に先駆けて六尾反射炉（北栄町）で大砲生産に励み、この大砲が明治維新の緒戦・鳥羽伏見の戦いで大活躍しました。絵巻にあるように、因州兵は長州兵の前面で戦い、大砲を使い物にならないくらいに酷使して官軍勝利をもたらしたそうです。六尾反射炉も残っていれば、世界遺産の候補になっていたはずといいます。

さて、これまでの通説は、明治維新の原動力は「薩長土肥」とされてきました。しかし、それは新政府ができてからの表現で、鳥羽伏見の戦いのころは、土佐藩は「薩摩と幕府の私戦」として動かず、肥後藩の参戦は江戸上野の戦いからだったといいます。これら官軍の戦いをリードしたのが西郷隆盛。西郷が京都を出立する際、尼僧・太田垣蓮月から「あだ味方、勝つも負けるも哀れなり、同じ御国の人と思えば」という和歌を託され、その思いが江戸城無血開城につながったのではと解説していました。

ひ孫の西郷隆夫さんは「敬天愛人」を座右の銘にする「西郷どん」について、著書や写真を残さず、ミステリーのなかでいまも鹿児島県人のなかに生き続けており、人を引き合わせる素養があり、戦略上手で「知行合一」で行動し、維新後は農業立国の夢を思い描いていたのではないか、とその人となりを紹介していました。

鳥取歴史振興会は明治維新に果たした鳥取藩の功績を後世に伝えるため、「維新の魁　鳥取藩」を映画化。11月には10作目「鳥取藩13番隊山国隊」で総仕上げする予定です。

「身内の顔を集めて西郷さんの顔は作られた」と、隆盛のひ孫・西郷隆夫さん

薩長因備シンポジウム

鳥羽伏見の戦い

サンダース・ホーム　　小山富見男さん

2018 年 4 月 21 日

鳥取県退職公務員連盟の女性部（米澤洋子部長）は、鳥取市のとりぎん文化会館で市民公開講座「エリザベス・サンダース・ホーム物語～GHQの占領と澤田美喜」を開きました。郷土の歴史を知り、男女の役割を考えようというもので、元鳥取敬愛高校校長の小山富見男さんが講師となり、第2次世界大戦の占領期に占領軍兵士と現地女性との間に生まれた子どもが世界で40万人にものぼることなど、戦争の悲惨さを学びました。

小山さんは新県史編さんの現代部会長。県公文書館や鳥取市歴史博物館の「占領期の鳥取に学ぶ会」で、連合国総司令部（GHQ）の軍政隊レポートをもとに、太平洋戦争直後の空白の県史解明を進めています。

講演で小山さんは戦時下の県内の出来事を紹介。満蒙開拓団や青少年義勇軍が満州などに出かけ、鳥取県の義勇軍は全国都道府県で最多の送出率だったこと、神戸市や兵庫県から県内各地に学童の集団疎開が行われたこと、鳥取市の市街地地図とともにB29の空襲予告があったこと—など異常な毎日だったことを伝えました。

日本が占領されていたのは、昭和20年9月2日の降伏文書調印から昭和27年4月28日のサンフランシスコ講和条約・日米安保条約発効までのおよそ6年半。この間、新憲法制定のほか、女性の解放、教育の民主化、労働者団結権の保障、農地解放、財閥解体などがありましたが、占領軍兵士と日本人女性の間に生まれた子どもが孤児となり、社会問題化しました。昭和28年の厚生省調べだと、その数は約4千人とされていますが、少なくとも2万人はいたとする説もあります。小山さんによると、孤児は、西ドイツに9万4千人、イタリアに2万5千人、日本が一時占領した東南アジアに7万5千人、世界中で合わせて40万人にもなるとされています。

日本で孤児救済に立ち上がったのが、岩美町出身の外交官・澤田廉三の妻・美喜です。海運王で三菱財閥の創業者・岩崎弥太郎の孫で、神奈川県大磯の別荘に養護施設エリザベス・サンダース・ホームや聖ステパノ学校を設立。約2千人を養育し、アメリカへの養子縁組を数多く実現するとともに、ブラジルへの移住などで入所者の暮らしを守りました。

また、廉三の別荘が岩美町熊井浜にあり、ホームの子どもたちが訪れて海水浴や地引網などを楽しみ、町民も温かく迎え入れて親しく交流したそうです。岩美中学校では毎年のように、修学旅行で大磯を訪れ、美喜の功績を学んでいるといいます。小山さんは「いつの時代も、戦争を起こしてはなりません」と結びました。

小山富見男さん

澤田廉三・美喜夫妻

熊井浜の思い出

奥日野五山ツアースタート！　　奥日野ガイド倶楽部

2018 年 4 月 22 日

奥日野五山（御墓山・宝仏山・毛無山・船通山・大倉山）を巡る恒例の登山ツアーが日南町の御墓山を皮切りにスタートし、奥日野ガイド倶楽部の佐々木彬夫さんがガイドを務めました。１２人が参加、御墓山から牛ノ首山、猿隠山にかけて尾根を縦走し、心地よい日差しと風を感じながら約6kmの春の登山を楽しみました。鳥取県社会福祉協議会・とっとりいきいきシニアバンク「生涯現役」共催。

奥日野は数々の神話の舞台となった場所です。古事記には、イザナミノミコトは出雲の国（島根県）と伯耆の国（鳥取県）の境にある比婆山に葬られたとの記述があり、島根・鳥取県境に位置する御墓山はイザナミの御陵（墓）との言い伝えが残っています。

また奥日野五山の一つ、船通山はスサノオノミコトがヤマタノオロチを退治し、三種の神器のひとつ、天叢雲剣（アメノムラクモノツルギ）が出現した場所とされています。その神話にちなんで毎年宣揚祭が行われていますが、戦前までは御墓山の南麓で行われていたそうです。この天叢雲剣の出現は、奥日野一帯において古代からたたら製鉄が盛んであったことを証明しているとも言われ、現在でも御墓山の所々にたたら製鉄の跡が残っています。

佐々木さんは「神話や歴史の風も感じながら、登山を楽しんでもらえれば」と話していました。

恒例となっているこのツアーをきっかけに仲間の輪も広がっており、参加者がお互いの近況を話し合ったり、新たな仲間づくりの場ともなっています。途中、昼食を交えながら、約4時間気持ちよく歩き終えた参加者は、「次回もまた参加したい」と満足そうでした。

奥日野五山ツアーは今後、宝仏山、毛無山、船通山、大倉山と5月下旬まで続きます。詳しくは奥日野ガイド倶楽部（℡0859－72－1350）へ。

佐々木彬夫さん

参加者のみなさんで記念撮影

「三愛のクニへ」も研究会発足　　片山長生さん

2018 年 4 月 29 日

岩美町出身の外交官兄弟、澤田節蔵・廉三と廉三の妻・美喜、3人の活躍をドラマ化する研究会が発足しました。名づけて「三愛（母子愛・祖国愛・人類愛）のクニへ」研究会。1年かけて3人のエピソードなどを探り、原作（小説・評伝）づくりを進めます。

澤田節蔵（1884～1976年）は満州国問題で追いつめられた際、「世界の孤児になるな」と最後まで日本の国際連盟からの脱退に抵抗した外交官です。戦後は文化放送の会長、東京外国語大学の初代学長を務めました。弟の廉三（1888～1970年）は昭和天皇の通訳や外務次官を歴任。戦後は初代国連大使として日本の国際社会復帰に活躍しました。その妻・美喜（1901～1980年）は三菱財閥の創業者・岩崎弥太郎の孫。神奈川県大磯の別荘に孤児救済のための養護施設「エリザベス・サンダース・ホーム」をつくり、約2千人を養育しました。

昨年、鳥取県を舞台にしたNHKの大河ドラマを推進する会が誕生しましたが、岩美町の元高校教師・片山長生さんらが「鳥取には戦争の世紀を懸命に生きた3人がおり、その郷土愛や人類愛などを広く知ってもらいたい」と提案し、「赤とんぼの母」碧川かたの生涯とともに候補に選ばれました。

推進する会がNHK鳥取放送局へドラマ化を要望したところ、地元や鳥取県の盛り上がり、シナリオのもとになる出版物などが採択条件になることがわかり、片山さんの呼びかけで研究会をつくることになったものです。

研究会は県立図書館に郷土史家や地元の人などが集まって発足。毎月テーマを設けて3人のエピソードを調べることにしています。節蔵・廉三・美喜それぞれに回顧録や随筆集、評伝などはあるものの、①日清・日露戦争時の澤田兄弟と岩美②昭和天皇と澤田兄弟③太平洋戦争と3人④エリザベス・サンダース・ホームと澤田夫妻と岩美―など、いろいろな場面で3人はどう動き、何を考えたか、そんなエピソードがドラマ化には欠かせないためで、その成果は日本海新聞制定の「とっとり文学賞」に応募し、発表したいとしています。

いまNHK大河ドラマの誘致運動は、全国で40カ所ほどあると言われています。東京五輪前年の2019年には、日本が五輪に参加し、開催国になっていく物語「いだてん」が決まり、2020年には明智光秀など戦国の英傑たちを描く「麒麟が来る」が予定されています。「三愛のクニへ」を通じて、「岩美が世界平和の聖地になれば」という片山さん。長い挑戦が始まりました。研究会（☎0857・72・0505）への参加は随時自由。

片山長生さん

澤田節蔵（右）・廉三の外交官兄弟

澤田美喜

就業体験前のあなたへ　　高田典裕さん

2018 年 5 月 9 日

夏休みの就業体験を控えて、倉吉市の鳥取短期大学でインターンシップ研修があり、1年生の20人が接遇インストラクターの高田典裕さん（米子市）から社会人の心得やビジネスマナーを学びました。

鳥取短大の就職活動支援は入学と同時に始まっており、学生の自主性や勉学意欲向上などを狙いに職場・仕事体験に積極的に取り組んでいます。鳥取短大生を受け入れる県内企業は、現在約150社（事業所）。夏・春休みを中心にIT企業や食品会社、NPO 法人などで仕事体験が続いているそうです。

研修講師を務めたのは、米子市内のデパートやスーパーなどに約40年間勤め、接遇インストラクターの資格を持つ高田さん。社会人やビジネスマンの身だしなみをはじめ、あいさつ、時間、コミュニケーションなどについて、その心得を説き、実践を交えて指導しました。

高田さんは「人の第一印象は身振り・顔つき・服装などの見た目と声の調子で90％以上決まるので、身だしなみは大事。多少汚れていてもいいから、ズボンにはいつも折り目を入れておきましょう。目は口ほどにモノを言うので、あいさつのときはアイコンタクトを忘れない。職場体験先での自己紹介は、声の高さを『ソ』の音階にして元気よく」とアドバイスしていました。

高田さんによると、企業イメージと自分の第一印象を高めるのは、敬語が使えるかどうかだそうです。そこで高田さん作成の資料を基に、別表のようなビジネス用語の問題をつくってみました。どれだけできますか。挑戦してみてください。この文章の末尾に模範解答例を掲載しましたので、参考になさってください。

さて、社会人にとって遅刻は厳禁。始業10分前にはオフィスに到着したいもの。もし遅れるようなら事前に電話連絡が必要です。メールやラインはご法度。ビジネスの約束は5分前到着が基本。予定の時間で行動できる人が、「仕事が早い人」「仕事ができる人」と見られると高田さん。「職場体験の日程が決まれば、受け入れ先に事前に電話でごあいさつしておきましょう」とツボを伝えていました。以下は模範解答例

①わたくし②文語・弊社、口語・当社、わが社③文語・貴社、口語・御社、～会社様④申し訳ございません⑤かしこまりました、承知いたしました⑥おっしゃる通りです、左様でございます⑦少々お待ちくださいませ⑧ただ今、見てまいります⑨存じません、存じ上げません⑩申し伝えておきます⑪恐れ入りますが、再度お越しくださいませ⑫こちらから参ります⑬後ほどお電話いただけますでしょうか⑭いかがでしょうか⑮こちらでよろしいでしょうか⑯いたしかねます⑰わかりかねます⑱〇〇様でしたら、私も存じ上げております⑲ただいま、少々お時間よろしいでしょうか⑳××様でいらっしゃいますね

高田典裕さん

以下の番号の言葉を
望ましいビジネス言葉にすると…

①	わたし、ぼく、おれ
②	うちの会社
③	あなたの会社
④	すみません
⑤	わかりました
⑥	その通りです
⑦	しょっと待って
⑧	いま、見てきます
⑨	知りません
⑩	言っておきます
⑪	もう一度来てください
⑫	こちらから行きます
⑬	後で電話してください
⑭	どうですか
⑮	これでいい？
⑯	できません
⑰	わかりません
⑱	○○さんなら私も知っているわ
⑲	いま、ちょっといいかしら
⑳	××さんですね

望ましい敬語表現は？

大山とお地蔵さんの歴史をたどる　　千田明さん

2018 年 5 月 13 日

大山開山1300年祭にちなんで、大山周辺ではさまざまな記念行事やイベントが開かれています。大山の歴史や自然を学ぶ「大山講座」もそのひとつで、大山町の豪円湯院で第1回「歴史散歩～大山の地蔵をめぐる～」があり、郷土史家の千田明さんが講師を務めました。20人が参加。新日本海新聞社・伯耆国「大山開山1300年祭」実行委員会主催、鳥取県社会福祉協議会・とっとりいきいきシニアバンク「生涯現役」共催。

この日はあいにくのしのつく雨。地蔵めぐりができず、急きょ豪円湯院での座学となりました。千田さんによると、地蔵菩薩は水を恵み、現世の苦しみから万物を救うと信じられ、そのご加護を求めて各地に地蔵信仰が広まりました。「大山さんのおかげ」という言葉も生まれ、いまでも大山周辺のみならず、県境を越えて岡山や広島の住民にも脈々と受け継がれています。

大山寺山内には33体の地蔵があります。千田さんは自著「大山の地蔵」で、それぞれのいわれやエピソードを紹介しています。

それによると、夏山登山道に建てられている立正地蔵（地図⑩）は、登山者の安全や遭難者の慰霊を願っており、利生（りしょう）地蔵（地図⑪）は浄水（利生水）が湧き出た場所のそばにあり、女性がこの水を毛髪につけると美人になるとの言い伝えから、多くの参拝者があるそうです。信仰の聖地への入口にある金門地蔵（地図⑱）は、岩山を切り裂いたような絶壁と樹木に覆われ、かつてはその景観に負けないほど大きな地蔵であったといいます。

千田さんは「この講座をきっかけに、今度は天気のよい日に地蔵をめぐってみてください」と呼びかけていました。

千田明さん

大山寺中興の祖・豪円を語る　　吉島潤承さん・大原俊二さん

2018 年 5 月 13 日

大山開山1300年を記念して、大山寺中興の祖・豪円ゆかりの金山寺（岡山市）から大山寺に日本刺しゅうの般若心経が贈られました。これを祝って大山圏域の活性化を目指す大山悟道場（稲田二千武代表世話人）は、奉納式と帰山祭を開き、紙芝居やシンポジウムで豪円の功績を語り合い、学びました。

豪円（1535～1611年）は戦国時代から江戸時代初めの天台宗の僧です。伯耆国汗入郡寺内村（現在米子市淀江町）の生まれ。大山寺や比叡山で修行し、織田信長の焼き討ちにあった延暦寺、火事で廃墟になった金山寺、戦乱などで荒廃した大山寺を次々に復興させました。

豪円は比叡山延暦寺の復興では正親町天皇、豊臣秀吉、徳川家康などの支援を受け、備前の名刹・金山寺の再建は城主・宇喜多直家・忠家に頼み、大山寺は毛利元就や吉川広家などの後援と家康の3千石安堵の朱印状で乱世を乗り切ってきました。その政治力、行動力は見上げたものです。

豪円は比叡山の大僧正に上り詰め、金山寺で76歳の生涯を閉じますが、秀吉の高松城水攻めでは雨乞い、広家が築城した米子城は湊山と名づけ、松江城落慶の折には祈祷札を収めるなど、数々のエピソードを残しています。

帰山祭では、伯耆伝承隊の吉島潤承さんが豪円の生涯を電子紙芝居で紹介し、「名僧豪円をNHKの大河ドラマに推挙しよう」と呼びかけました。また、郷土史家の大原俊二さんらによるシンポジウムがあり、3山を復興した豪円の功績にうん蓄を傾けました。このなかで大原さんは、豪円が大山寺の中興の祖と呼ばれるわけについて、「豪円は信仰対象がバラバラで争いが絶えなかった大山の中門院・南光院・西明院を一つの宗教集団にまとめるため西楽院を設け、その初代座主についたが、寺領3千石の朱印状は、その西楽院に出されたものだった」と解説していました。

寄贈の般若心経（縦45㎝、横60㎝）は日本刺しゅう協会の前副会長、山川かつ子さんが5年がかりで制作したもので、紺地に金糸で心経262文字はじめ276文字が縫い込まれており、大山寺は宝物館に展示し、公開するそうです。

吉島潤承さん

大原俊二さん

刺しゅうされた般若心経

豪円僧正画像
（岡山県金山寺蔵）

大山開祖の末えいは、あのタレント？　　根平雄一郎さん

2018 年 5 月 17 日

米子市の春日公民館で春日ふるさとセミナーがあり、根平雄一郎さん（境港歴史研究会代表）から大山開山1300年の歴史を学びました。演題は「大山歴史浪漫の旅」。30人が聴講しました。

根平さんの大山研究のスタイルは歴史や説話の舞台を訪れる現場主義。大山寺縁起絵巻に登場する下野国（栃木県）岩船山高勝寺、大山信仰が盛んな山陽路、718年に大山寺を開祖した金蓮上人の出身地・玉造温泉などを訪れ、その研究成果を発表しています。わかりやすい講演内容が人気で、郷土学習講師として引っ張りだこです。

根平さんが大山寺の縁起紹介で欠かさないのが、室町時代の「牛を使った代かき」絵図。苗運び、田楽太鼓たたき、牛扱いを同時に頼まれた坊さんが、1人でこなしている様子を描いたもので、困っている人を救うという地蔵菩薩の姿をよく表しています。この絵図は近年、県立高校の入試問題や大学入試のセンター試験などに使われましたが、根平さんは「大山開山1300年は全国の関心事になっている証拠」と紹介していました。

大山の地蔵菩薩は、衆生を救う仏であると同時に牛馬の守護神でもあります。平安時代に基好上人がそのように告知し、やがて博労座で日本を代表する牛馬市が開かれるようになり、明治36年には年間1万頭もの牛馬を取引したといいます。大山は「地蔵信仰が育んだ日本最大の牛馬市」で日本遺産になりました。

この大山信仰は地元にとどまらず、岡山・広島県など山陽方面にも広がり、根平さんは尾道市の千光寺、笠岡市の海蔵寺、瀬戸内市の大賀島寺などを訪ねて、〝大仙さん〟が盛んにまつられている様子を追っています。また、庄原市などでは牛馬や家内安全を願って「大山供養田植」（国指定重要無形民俗文化財）などのイベントが根強く続いていることも報告していました。

根平さんは金蓮上人のルーツと末えい探しを玉造温泉で行い、温泉旅館の長楽園や長生閣などを経営する長谷川ファミリーが末えいであることを突き止め、湯薬師堂には鎌倉時代につくられたとみられる金蓮上人像が秘仏としてまつられているといいます。

その長谷川ファミリーの一人が俳優の長谷川博己さん。2018年10月から始まるNHK連続テレビ小説はチキンラーメンを開発した安藤百福さんをモデルにした「まんぷく」ですが、その主人公を長谷川さんが務めるといいます。また、2020年のNHK大河ドラマ「麒麟がくる」では、やはり長谷川さんが主人公の明智光秀役になるといいます。根平さんは「節目の年に、大山さんのおかげかも」と感じています。

根平雄一郎さん

大学入試のセンター試験にもなった
大山寺縁起絵巻の牛の代かき（室町時代）

救護の出番がないのが一番　　飯田啓子さん・玉木正枝さん

2018 年 5 月 18 日

因伯シルバー大会（鳥取県、鳥取県社会福祉協議会主催）のグラウンド・ゴルフ大会が北栄町のレークサイド大栄であり、飯田啓子さんと玉木正枝さんが救護係を担当しました。

この大会はスポーツや文化活動をとおして、60歳以上の方々の仲間づくりや生きがいづくりを目的として行われており、ねんりんピック（全国健康福祉祭）の県予選も兼ねています。今年は県中部を中心に12種目の競技が行われ、全国大会への切符をかけた熱戦が繰り広げられています。

いずれの会場でも看護師などの方に救護係をお願いしていますが、飯田さんと玉木さんは5月13日のゲートボール大会でも救護係を担当しました。飯田さんは看護師、玉木さんはヘルパー2級の資格をそれぞれお持ちで、現在は地域のお世話をされるなど、高齢の方への対応はお手の物です。二人とも「私たち救護係の出番がないことが一番」と口をそろえ、そのことを願いながら、参加者のプレーを見守りました。

全国大会がかかっていることもあり、参加者がヒートアップする場面はしばしば。この日は気温が高く、熱中症も心配されましたが、幸い参加者のケガなどはなく、無事終了。途中、大会役員が虫刺されに遭いましたが、二人とも消毒などテキパキと対処されました。

玉木正枝さん

飯田啓子さん

治療にあたる飯田さん

大山は俺の道しるべ　　森田尾山さん

2018 年 5 月 18 日

大山開山1300年を祝って、伯耆書院は鳥取市の宝林堂ギャラリーで森田尾山書展を開きました。大山にちなんだ写真や俳句や書、さらに特産品などを多くの人に見てもらい、大山の素晴らしさを知ってもらい、自慢してもらおうという連携型書展で、ユニークな試みが注目を集めました。同展は大山町の大山公民館でも開かれました。

森田さんは大山のふもと、米子市淀江町の書家（日展会友）。麓人会のメンバーで、サッカー・ガイナーレのユニフォームづくりや応援書展などで活躍しているほか、大山山ろくに250カ所ほどある文学碑や句碑などの調査、拓本どりを続けています。

麓人会は戦後間もなく、米子市周辺の画家や写真家などの美術グループと短歌や俳句や小説などの文芸作家グループが一緒になってつくった〝異業種〟文化集団で、その交友の広さと行動力で鳥取県西部の文化活動をリードしています。

大山が開山1300年になるのを機に、県民に大山の魅力を広く紹介するため、コラボ書展が企画されたもので、森田さんにとって鳥取市では初の個展です。

会場には森田さんの全紙サイズの「大山は俺の道しるべ」「日本海」の2作品が並んだほか、農民俳人として知られた故・美甘みつはるさんの大山ゆかりの俳句を森田さんの書で紹介。「田草取る大山の裾這ひまはり」など20句を色紙にして展示しました。また、日本写真協会会員の松原幹夫さんとのコラボは、四季折々の大山の写真に大山ゆかりの俳人の句を載せたもので、種田山頭火の「へうへうとして水を味ふ」は逆さ大山の写真と組み合わせるなど、森田さんらしい斬新な企画や挑戦を展開しています。

会場の中央には大山の銘菓や銘酒や名水など、特産品の数々も並べられました。美術展覧会では珍しい試みです。このうち、大山の名水として「奥大山の天然水」「いろはす」「奥大山」「よなごの水」「ミライズ」「天然水結」を一堂に並べ、大山の豊富な水を紹介するとともに、地下1200mからくみ上げられた岩層封純水・水素水も展示するなど、大山の底知れぬ恵みを披露していました。森田さんの「大山さん」に寄せる熱い思いがひしひしと伝わるコラボ書展でした。

森田尾山さん

大山の写真と書のコラボ
（写真は松原幹夫さんの逆さ大山、句は種田山頭火）

鳥取観光の顔となれ　　廣澤孝彦さん

2018 年 5 月 19 日

世界最大の傘踊り・鳥取しゃんしゃん祭りの「鈴の音大使」養成特訓が始まりました。鳥取市の久松公民館で鈴の音大使の勉強会があり、鳥取観光の講義やマナー研修がありました。こんご傘踊り特訓を経て鳥取しゃんしゃん祭りの本番（8月13日～15日）に備えます。

第20代の「鈴の音大使」に選ばれたのは、上田夢莉さん・博田舞さん・森七海さんの3人。祭り本番から向こう1年間、鳥取市の観光の〝顔〟となって、鳥取市の姉妹都市（姫路・岩国・郡山・釧路の4市）など県内外で鳥取市の魅力をPRします。それに備えての養成特訓です。

観光講座の講師はシニアバンクの廣澤孝彦さん（鳥取市観光大学講師）。華道未生流、茶道裏千家の先生であるとともに、長くバスガイドの養成や教育を続け、いまでも県内外で観光ガイドとして活躍中です。

廣澤さんは鳥取しゃんしゃん祭りの由来から説明しました。江戸時代の雨乞い踊りが祭りのルーツであることや明治40年に日進小学校近くで温泉が出て、当時としては山梨県甲府市と並んで湯がわく県都と呼ばれ、かつての市内はたくさんの温泉旅館でにぎわったことを紹介しました。また、鳥取自慢の鳥取砂丘にも触れ、広さは猿ヶ森砂丘（青森県）や吹上砂丘（鹿児島県）などに負けているものの、起伏があり、天然記念物に指定され、生きている砂丘としては日本一と解説しました。

さらに鳥取県は明治9年からおよそ5年間、島根県に併合されて消滅したものの、市民などの運動で復活したこと、鳥取藩32万石は将軍家を除いて全国12番目の大藩だったこと、戦国時代の鳥取城では豊臣秀吉の兵糧攻めがあったことなど歴史勉強の大切さも伝えました。

鳥取市街地は城下町ながら、古い建物がありません。県立図書館などの一角にある箕浦家の武家門や久松公園の仁風閣くらいです。鳥取大震災（昭和18年）と鳥取大火（昭和27年）、2度の大災害でまちの大半が破壊されたためで、そのたびに市民は粘り強く復興に励んできました。鳥取大火の反省に立って若桜街道は広げられ、通りの両側は鉄筋やモルタル造りのまち並みになり、当時の防災モデル都市として注目されました。若桜街道・本通は日本の道百選の第1号に認定されています。その石碑が若桜橋のたもとにあります。

廣澤さんは「聴いて学んだら、見て確認してください。そんな生き方をお勧めします。お客様への目配り・気配り・心配りを忘れず、喜びの種をまいて鳥取の観光の顔になってください。疲れたときは丸いものを見てください。四角のものを見ると、ストレスがたまります」と、「鈴の音大使」の心得をアドバイスしていました。

廣澤孝彦さん

鈴の音大使
（左から上田さん・博田さん・森さん）

鳥取市の若桜街道は日本の道百選

哀愁の古民家コンサート　　坂上達也さん

2018 年 5 月 19 日

日野町の古民家・沙々樹で古民家コンサートがあり、クロマティック・ハーモニカ奏者の坂上達也・和佳子さん父娘がクラシックやポップスなどを1時間にわたって演奏。およそ40人が哀愁のメロディーに酔いました。

古民家・沙々樹は江戸時代末期に建てられた住宅で築およそ190年。出雲街道の難所のひとつ、間地峠の改修などで活躍した庄屋さんです。いまはオーナーの佐々木彬夫さんが代表を務める奥日野ガイド倶楽部の事務所として利用されているほか、宿泊体験や古民家寄席・コンサート・民話を聞く会などに活用されています。

コンサートは平成24年から始まり、11回目の今回はヨーロッパのハーモニカ、クロマティック・ハーモニカの演奏です。半音も出せるので、どんな曲目も演奏可能だそうで、そのとりこになった坂上さんは通信教育で練習し、平成13年の世界ハーモニカ連盟日本支部のコンテストで3位に入賞して演奏家として認定されました。娘の和佳子さんも平成15年のコンテストで優勝し、国内外で活躍。近年は父娘で地元はじめ、中国地方でハーモニカ教室を開き、コンサート活動などを続けています。

コンサートは土間や居間、上りの間、表の間などの大空間を使って行われ、神棚、囲炉裏、古時計、太い梁（はり）など古色の会場がハーモニカの哀愁の音色を引き立てました。演奏曲目は父の達也さんが「鉄道員のテーマ」「この世の果てまで」「グノーのアヴェマリア」など、和佳子さんがヒット曲の「糸」「川の流れのように」「いい日旅立ち」など。奏者と客席が目前とあって、息遣いが聞こえ、演奏のたびに緊張感が走り、繊細で力強い音色が続きます。アンコールは父娘で「上を向いて歩こう」。息の合ったハーモニーが見事でした。

主催者の佐々木さんは「地元はもとより、お客様は米子や鳥取などからもおいでいただきました。その満足そうなお顔を見ると、やってよかったと喜んでいます」と話していました。

坂上達也さん

囲炉裏もある古民家コンサート

若桜氷ノ山のジオパークは？　　星見清晴さん

2018 年 5 月 20 日

八頭郡若桜町の出身者などでつくる鳥取若桜会（中尾恭治会長）は氷ノ山へふるさと探訪を行い、23人が参加しました。鳥取地学会会長の星見清晴さんがガイドしました。鳥取若桜会は毎年、ふるさと探訪やグラウンド・ゴルフ大会などで会員の親睦を図りながら、郷土の発展を願い活動しています。

今年のふるさと探訪は、地質的な面から鳥取・若桜の魅力を探ろうと企画されました。鳥取から若桜町の氷ノ山に向かう道中、八東川の徳丸ドンドや鳥取の三大名石の諸鹿石や三倉石が採れた場所などに立ち寄り、星見さんがその歴史や特徴などについて説明。参加者は熱心にメモを取りながら、星見さんの話に耳を傾けていました。

星見さんによると、鳥取の平野部は6千年前まで霊石山付近まで湾の状態で、湖山池周辺では中世のころまで、その湾を利用して日本海とつながり、近畿地方との交易が盛んに行われていたそうです。また、日本海沿岸に点在する砂丘や砂浜は、多くは氷ノ山や扇ノ山から運ばれた砂が堆積したもので、中国山地の花崗岩（砂）は急こう配の日本海側に多く流れ出て、なだらかな山陽側には砂丘が形成されなかったといいます。

地形の違いは気候にも影響します。若桜町は雪が多く、同じ山間地の智頭町と比べてもその積雪量は大きく違います。北西の谷の奥にある若桜町には日本海からの冷たい季節風が入り込み、それが氷ノ山にあたって雪雲を発達させるのに対し、智頭町は河原や用瀬にある山々がついたてとなって、冷たい風をさえぎるためだそうです。

氷ノ山のふもと、若桜町つく米地区と但馬・小代地区を結ぶ国道482号が近年中に通行可能になることを踏まえて、参加者からは「若桜の氷ノ山も山陰ジオパークに編入させられないか」との質問があり、星見さんは「ジオパーク認定には地元住民の熱意と盛り上がりが大切だが、なかなか難しいのではないか」と残念がっていました。

若桜の魅力を満喫した参加者は、氷ノ山の氷太くんで昼食を囲んだ後、満足そうに帰途に着きました。

星見清晴さん

八東川どんどの滝

三倉石（若桜町内の住宅内）

参加者のみなさんで記念撮影

部活のように楽しくやろう　　岩室久美子さん

2018 年 5 月 21 日

北栄町シニアクラブ（道祖尾良子会長）のコース別学習が始まりました。延べ168人が歌唱、絵手紙、習字、絵画など8コースに分かれて、来年2月まで生涯学習に励みます。シニアバンクからはパソコンで岩室久美子さん、ニュースポーツで玉木純一さんが講師陣に入っています。パソコン教室をのぞきました。

岩室さんはレクリエーション介護士、終活ライフケアプランナー、パソコン検定公認試験官。珍しい肩書をいろいろお持ちで、終活講演会やパソコン指導などで大忙しです。北栄町のパソコン教室は2年目、受講生は昨年より増えて23人になりました。

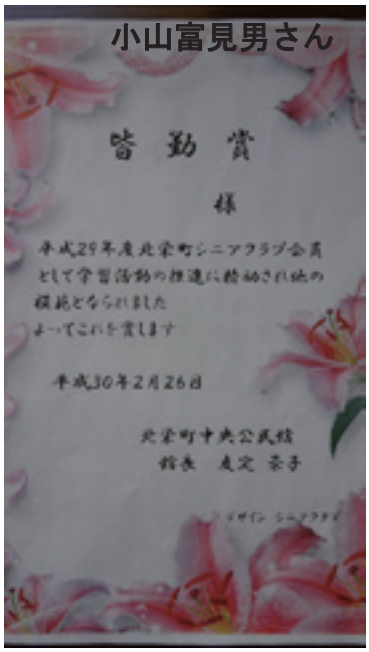
昨年の教室は名刺づくり、うちわづくり、残暑見舞いのはがきづくり、確定申告書づくり、シニアクラブ会員のための皆勤賞の証書づくりなど盛りだくさんのテーマに挑戦しましたが、スキルがまちまちで結果が伴わず、今年はチラシづくりに絞って教室を運営することにしました。

ただ、チラシづくりといっても、パソコンの作業工程はたくさんあります。文字の入力、文字や色の変更、文字飾り、写真やイラストの取り込み、ワードアートの使用、インターネットの活用など。一点集中で結果を出し、スキルアップを図る作戦です。

岩室さんは受講生に厳しく注文します。「部活のように楽しくやりましょう。そのためにも先生が話しているときは集中すること。そうしないと先に進めません」と。

開講日のこの日は、昨年の皆勤賞証書づくりを思い出しながら、インターネットで「イラスト、額、無料」を検索し、デスクトップのフォルダーに取り入れる作業を繰り返し行いました。パソコン・スキルは日々の積み重ね、「一日にして成らず」です。

岩室久美子さん



シニアクラブ作成の皆勤賞

パソコン教室（北栄町中央公民館）

やってみよう！　という気持ちが大事　　玉木純一さん

2018 年 5 月 22 日

岩美町の「センスアップいわみ高齢者大学」の開講式が町役場であり、「心も体も元気をめざして！　健康レクリエーション」と題して、福祉レク・ネットワーク鳥取代表の玉木純一さんが講演しました。89人が受講しました。

玉木さんは、いきいきサロンなどの講師を年間150回務めるなど、県内ではひっぱりだこの先生。はきはきした声とテンポのよさ、ユーモラスな話が高齢者に人気です。

この日も元気な声が会場に響き渡りました。もちろんマイクなしです。まずは簡単なゲームで体と頭をほぐします。その後、「北国の春」など懐かしいメロディーに合わせた運動で、手と頭と口を使って、脳を刺激します。認知症予防につながる運動です。参加者にはなじみの歌とあって、会場には大きな歌声が響きました。体の動きもなめらかで、玉木さんからはおほめの言葉もありました。

玉木さんは「年をとると、新しいことに挑戦しようとしなくなる。やってみよう！　という気持ちが大事。体を楽しく動かして、人生を輝かせてください」と呼びかけました。

高齢者大学は12月まで10回の講座が続きます。

玉木純一さん

座ったままで懐メロ体操
（いわみ高齢者大学）

だれでも簡単マジック　　山下眞一郎さん

2018 年 5 月 22 日

岩美町の「センスアップいわみ高齢者大学」の自主学習クラブ・手品クラブが町中央公民館であり、山下眞一郎さんが講師を務めました。クラブ員は5人。クラブで習得したマジックは地元の公民館祭りで披露する予定で、生きがいづくりにつながっています。

山下さんが講師を務めるのは今年からです。自己紹介を兼ねて、簡単にできるマジックを披露しましたが、だれもがだまされ、「なんで、なんで」と不思議顔。タネ明かしをされると、「なんだぁ～」と納得しますが、いざ自分でやってみるとなかなかできません。山下さんは「タネがわかると、だれでもできた気になってしまう。身につけるためには何回も繰り返し練習することが大事です」と、クラブ活動の気構えを説きました。

山下さんによると、マジックの鉄則は①現象をはじめに言わない②同じことを2回しない③タネを明かさないで、見ている人の視線をずらすこと―だそうです。

この日は、紙コップや封筒を使ったマジックを練習しましたが、まだまだ自信がない様子。クラブ員は「家に帰って何回も練習します」と意欲的でした。

手品クラブは10月まで6回続き、今後はクラブ員が持っているマジック道具を使いながら、新しい技を習得していくそうです。

山下眞一郎さん

手品クラブ

ハーモニカは感動の楽器　　佐々木洋一さん

2018 年 5 月 22 日

岩美町中央公民館のセンスアップいわみ高齢者大学が開講。自主学習クラブ活動がスタートしました。クラブ活動はカラオケ、民謡、フラダンス、脳トレなど7つ。10月まで活動を続けます。シニアバンクからは手品で山下眞一郎さん、ハーモニカで佐々木洋一さんが講師に招かれています。ハーモニカ・クラブを訪ねました。

クラブ員は8人。佐々木さんは今年からの担任講師。講師といっても、介護福祉士や介護支援専門員（ケアマネ）を長く勤め、ハーモニカは病院や施設慰問のボランティアで演奏してきた程度。「本格的な勉強をしていないので断ろうと思ったが、ハーモニカ仲間と過ごせるなら」と講師を引き受けたといいます。

佐々木さんはボランティア活動を続けるうちに気づいたことがあります。「認知症の人がハーモニカの音に合わせて歌ったり、手をたたいたりされるんです。歌詞カードなしで。その表情も変わるんです。ハーモニカの音色には思い出を呼び覚ます〝魔法〟がある、感動の楽器だと考えるようになった」そうです。

ですから佐々木さんは、童謡唱歌や懐かしの歌謡曲のメロディーをひたすら演奏してきました。「聴く人は子供のころの音を求めている。テクニック不要。素朴がいい」と。ハーモニカ・クラブでもクラブ員の賛同を得て、童謡唱歌を中心に練習し、10月の仕上げ学習では町内の高齢者施設を慰問し、成果発表することにしています。

それに向けて、ハーモニカ・クラブは活動を開始しました。「おぼろ月夜」「みかんの花咲く丘」「茶摘み」「村まつり」…次々に曲目を変えて合奏が続きます。佐々木さんには韓国・中国・ロシアの環日本海の言葉で「ふるさと」を歌いたいという夢があるそうです。クラブ員のハーモニカ演奏をバックに歌える日が来るといいですね。期待しています。

佐々木洋一さん

ハーモニカ・クラブ

目指せ初の全国大会　　鳥取県健康マージャン連盟

2018 年 5 月 26 日

因伯シルバー大会の健康マージャン大会が倉吉市の倉吉福祉センターであり、60歳以上の44人が参加しました。全国健康福祉祭（ねんりんピック）の県予選を兼ねており、県代表の名誉をかけて熱戦を繰り広げました。

因伯シルバー大会は鳥取県・鳥取県社会福祉協議会の主催で、今年で28回目。5月12日から27日まで県中部を中心に開かれ、卓球、テニス、グラウンド・ゴルフ、囲碁、将棋など12種目を展開。これにマラソン、太極拳、水泳など9種目を加えて、それぞれの成績優秀者が鳥取県代表としてねんりんピックに出場しています。

健康マージャンが因伯シルバー大会に登場したのは平成28年から。鳥取県チームはまだ、ねんりんピックに参加しておらず、大会を主管する鳥取県健康マージャン連盟（阿部泰典会長）は「今年こそ、なんとかデビューしたい」と願っています。（鳥取県は平成 30 年度の大会に参加しました）

県予選を兼ねた因伯シルバー大会には、倉吉・鳥取・境港・湯梨浜の4市町から44人（うち女性4人）が参加しました。過去最高の参加者数ながら、参加者は偏在しています。「健康マージャンは仲間づくりや認知症予防にもなります。国民文化祭でも正式種目になりました。鳥取県もねんりんピックの開催が控えています。県内全市町村に健康マージャンの指導者を早く整備し、普及させなくては」と阿部会長は言います。

さて、因伯シルバー大会です。ゲームは半荘東南まわし（制限時間50分）。4ゲームの総合ポイントで順位を競い、会長の阿部さん（境港市）が全試合勝ちっぱなしで2位以下に大差をつけて優勝。2位には山本和典さん、3位には高橋英雄さん（いずれも鳥取市）が入りました。最高齢者の山田平さん（倉吉市）には特別賞が贈られました。

倉吉市から参加の鈴木昭子さんは「公民館で週2回マージャン卓を囲んでいますが、頭を使うので、夜はよく眠れますよ」と健康マージャンの効用を話してくれました。

鳥取県健康マージャン連盟の役員のみなさん

全国大会目指して「今日も絶好調」

大河ドラマ・朝ドラ候補はこれだ！　吉島潤承さん・北村隆雄さん・田中精夫さん

2018 年 5 月 27 日

鳥取県ゆかりの人物をNHKなどのテレビドラマに推挙する運動を展開中の「歴史大河ドラマを推進する会」は、鳥取市の県立図書館で総会を開き、新たな候補3つを報告しました。9月の「とっとり県民の日」に選考会を開き、放送実現に向けて県民運動をおこすことにしています。鳥取県社会福祉協議会・とっとりいきいきシニアバンク「生涯現役」共催。

歴史大河ドラマを推進する会は既に、大河ドラマに岩美町出身の外交官、澤田節蔵・廉三の兄弟と孤児救済を進めた廉三の妻・美喜の物語「三愛のクニへ」、朝ドラに婦人参政権運動の先駆けとなった看護師・碧川かたの生涯を描く「童謡赤とんぼの母」をそれぞれ決め、NHK などにドラマ化を要請していますが、これを県民運動に広げるために、引き続き候補ドラマ発掘を進めています。

新たに発掘したのは、①織田信長によって焼き討ちにされた比叡山延暦寺や毛利・尼子の争いのなかで焼失した大山寺などを復興し、大山寺中興の祖といわれる豪円和尚②日本で初めて「田植え定規」を考案し、全国に美しい田園風景を広げるとともに、田の草取りから農民を解放する中耕除草機（太一車）を開発した久米郡小鴨村の中井太一郎―の２人です。これに昨年落選した山陰の小大名・亀井茲矩も、安来市の山中鹿介の大河ドラマ化運動と連携する形で再挑戦することになり、合わせて3候補がそろいました。

大山寺圓流院の前館長・吉島潤承さんが豪円和尚、小鴨地区振興協議会歴史文化部会長の北村隆雄さんが中井太一郎、郷土史家の田中精夫さんが鹿介・茲矩の義兄弟について提案理由を報告しました。このうち北村さんは今でも使用されているアルミ製の「太一車」を持ち込み、減農薬の米づくりに欠かせない農具として米づくり農家に重宝されていることや東南アジア、アフリカなどで利用が広がり、鳥取発の技術が世界の食糧危機対策に貢献していると強調していました。

歴史大河ドラマを推進する会は9月８日、米子市淀江町のさなめホールで「歴史大河ドラマ候補選考会」を開き、来場者による投票で鳥取県発の新たな候補を決めることにしています。先行する「三愛のクニへ」「童謡赤とんぼの母」は、それぞれに研究会ができて、主人公の調査研究や原作づくりが進んでおり、新しい歴史大河ドラマや朝ドラ候補の誕生で、県民のテレビドラマ化への関心はますます高まりそうです。

吉島潤承さん

豪円和尚

北村隆雄さん

田中精夫さん

尼子再興を目指す鹿之介・茲矩の義兄弟

中井太一郎と水田中耕除草機

将棋ブームにのって　　日本将棋連盟鳥取県キッズ支部

2018 年 5 月 27 日

　因伯シルバー大会の将棋大会が倉吉未来中心であり、日本将棋連盟鳥取県キッズ支部（山田収支部長）のみなさんが運営にあたりました。３２人が参加し、勝ち進んだ3人が「ねんりんピック富山大会」（１１月）に出場します。

　いま棋界は藤井聡太七段などの活躍で、盛り上がっています。鳥取県には中部のキッズ支部はじめ、東・西部にも支部があり、それぞれ道場を開いて将棋の普及を図っていますが、いずれの支部道場にも子どもから大人まで入門の問い合わせが増えているそうです。山田支部長は「このブームにのって、もっともっと将棋人口を増やしたい」と意気込んでいます。

　この日は畠山成幸八段による指導対局もあり、大会はさらに盛り上がりました。因伯シルバー大会でプロによる指導対局があるのは今回が初めてで、指導を受けた小学6年生の鎌田雄吏くんは「プロと対局してとても楽しかった。勝てるようにもっと強くなりたい」と満足そうでした。

因伯シルバー大会将棋大会

畠山八段と鎌田くんとの指導対局

全国大会出場を励みに　　稙久仙十郎さん

2018 年 5 月 27 日

因伯シルバー大会の囲碁大会が倉吉未来中心であり、鳥取県囲碁連盟会長の稙久仙十郎さんらが運営にあたりました。24人が出場。ねんりんピック（全国大会）につながる大会とあって、白熱した対局が繰り広げられました。

鳥取県囲碁連盟は県内各地で囲碁教室を開催しているほか、公民館や障がい者施設などで指導を行い、囲碁の普及に努めています。

稙久さんは長年、因伯シルバー大会の運営に携わっており、大会の進行などはお手のもの。対局の組み合わせなど要領よく行っており、出場者も集中して対局に臨めたようです。「出場者のみなさんは、全国大会への出場を励みにがんばっている。その姿を見るのが自分の励みにもなっている」と、やりがいを感じています。

大会参加者の最高齢者は88歳。勝ち進んだ男性2人、女性1人が11月のねんりんピック富山大会に出場することになりました。

稙久さんはいつも裏方ばかり、全国大会に出場したことがありません。「2023年のねんりんピック鳥取大会にはぜひ出場したい」と意欲的でした。

稙久仙十郎さん

因伯シルバー大会囲碁大会

いつまでもお元気で　　金謡会・澤田勝さん

2018 年 5 月 31 日

「いつまでもお元気で、仲良くお過ごしください」―。鳥取市で平成30年度の金婚・ダイヤモンド婚の記念祝賀会があり、結婚50年の金婚夫婦282組、60年のダイヤモンド婚夫婦144組に記念品が贈られました。これを祝ってシニアバンク登録の金謡会が謡曲で、澤田勝さんがサックス演奏で花を添えました。

ことしのダイヤモンド婚夫婦は昭和33年、金婚夫婦は昭和43年に結婚されたみなさんです。式典は5月31日と6月1日の2日に分けて行われ、鳥取・国府・福部地区は鳥取市民会館、河原・用瀬・佐治地区は河原町コミュニティセンター、気高・鹿野・青谷地区は青谷町総合支所でありました。

データによると、昭和33年は1万円札が発行され、東京タワーが完成した年。昭和43年はメキシコ五輪のサッカーで日本が銅メダルに輝き、テレビで「ゲゲゲの鬼太郎」や「お笑い頭の体操」などが放送開始されました。ちょうど日本経済が高度成長（昭和29年～昭和48年）していたころのご成婚。戦中・戦後の混乱や貧しさも体験済みのみなさんで、「昭和の日本」とともに歩いてこられた世代です。

鳥取市民会館の会場では深澤義彦市長、下村佳弘議長が「中核市の発展に引き続きご協力ください」と感謝とお祝いの言葉を贈り、ダイヤモンド婚は沖田博敬・愼子ご夫妻、金婚は常田享詳・明美ご夫妻がそれぞれ代表して謝辞を述べました。

慶祝アトラクションは喜多流金曜会（小谷務会長）が謡曲の「養老」と「小鍛冶」を披露し、豊かに住める喜びを吟じました。金曜会の賛助出演は20年以上も続いています。国府町の澤田勝さんは得意のサックスで「花街の母」「九段の母」「岸壁の母」の母メドレーを感情豊かに奏でました。

澤田勝さん

金謡会のみなさん

鳥取市の金婚・ダイヤモンド婚記念祝賀会

鳥取藩は義経役だった？　　小山富見男さん

2018 年 6 月 1 日

鳥取市の高齢者大学・尚徳大学は市文化センターで郷土学習講座を開き、明治維新150年にちなんで小山富見男さん（鳥取地域史研究会長）から「因州藩（鳥取藩）の戊辰戦争とその殉死者」について話を聞きました。約130人が聴講。このなかで小山さんは「明治維新にいち早く加勢した鳥取藩だったが、源義経のように武芸一辺倒で新政府づくりから外れてしまったように思う」と持論を紹介しました。

戊辰戦争（1868～1869年）は薩摩・長州・土佐藩などを中核にした新政府軍と、旧幕府勢力や奥羽越列藩同盟が戦った内戦です。明治元年の干支が戊辰の年だったことからの命名で、鳥羽・伏見の戦い、甲州勝沼の戦い、宇都宮城の戦い、上野戦争、北越戦争、東北戦争、箱館戦争などが主な戦いです。

この戊辰戦争で亡くなったのは13，122人。会津藩3，016人、仙台藩1，176人など旧幕府軍が中心で、鳥取藩は92人だったといいます。

小山さんは前職の鳥取敬愛高校時代、生徒とともに現地を訪ねて、戊辰戦争で亡くなった鳥取藩士の墓地探しを行い、没年、戦死場所、菩提寺などを調べました。その研究の手掛かりになったのが、長瀬村（湯梨浜町）から出陣した農兵・鳥羽久三郎の「道中心覚帳」の宿泊地記録。

それによると、鳥取藩の東征軍は甲州勝沼（山梨県）で新選組の近藤勇らが率いる部隊と戦い、最初の戦死者が出ています。最も多くの犠牲者が出たのは野州・安塚・宇都宮城（栃木県）の戦いで15人。その1カ月後には上野戦争（東京都）で14人が亡くなっています。野州・安塚の戦いの絵図には、因幡二十二士のリーダーで維新後、初代鳥取県権令（いまの県知事に相当）になった河田景与が抜刀して敵陣に切り込み、形勢逆転した場面が描かれています。

新政府は戊辰戦争の論功行賞で、薩摩藩と長州藩にはそれぞれ10万石、土佐藩に4万石、鳥取・岡山藩などに3万石を贈り、その功績に報いる一方、旧幕府軍の会津藩は28万石から3万石に減らして青森県の下北半島に移し、仙台藩は62万石から28万石、庄内藩は17万石から12万石にそれぞれ減らすなど厳しく仕置きしました。

ただ、新政府は藩禄を失った不平士族の反抗に悩まされます。新政府の官吏は8，186人、鳥取藩からはわずか41人しか採用されませんでした。鳥羽伏見の戦いで薩長軍にいち早く加勢し、維新の流れをつくった鳥取藩にとっては不本意な評価でした。

小山さんは「鳥取藩は武芸を尊び、経済や文化への関心を二の次にしてきた。ちょうど鎌倉幕府ができる際、政権から源義経が外されたが、鳥取藩にもそれに似たものを感じます」と、鳥取藩の気風を残念がっていました。

小山富見男さん

激戦の野州・安塚の戦い

戊辰戦争　戦死者・・・13,122人

【西　軍】・・・4,843人		【東　軍】・・・・8,262人	
1. 薩摩藩	643人	1. 会津藩	3,016人
2. 山口藩	585人	2. 仙台藩	1,176人
3. 秋田藩	455人	3. 幕　府	1,138人
4. 熊本藩	246人	4. 水戸藩	618人
5. 高知藩	150人	5. 二本松藩	344人
5. 福岡藩	150人	6. 庄内藩	331人
7. 佐賀藩	120人	7. 長岡藩	302人
8. 金沢藩	128人	8. 米沢藩	297人
9. 広島藩	113人	9. 彰義隊	257人
10.水戸藩	105人	10.盛岡藩	154人
16.鳥取藩	92人	11.桑名藩	132人

戊辰戦争の戦死者

幸せは気づくもの　　石川達之さん

2018 年 6 月 7 日

鳥取県内の老人ホームやケアハウスなどでつくる県老人福祉施設協議会（村尾和広会長、113施設）の職員研究会が倉吉市の未来中心であり、心の元気講演家・石川達之さん（湯梨浜町）が介護の仕事に励むみなさんに歌と体験談で元気を届けました。140人が聴講しました。

石川さんは元消防士。仕事や人生経験をもとに得意のギターで歌をつくり、人権・子育て・心の健康などをテーマに県内外で歌入りの講演をしています。その内容は笑いと涙を誘い、元気になると評判で、東伯耆言葉でつくった歌もユニークとあって人気を集めています。

この日の講演は人の幸せとは何か、人が心を弱らせ落ち込んでいるときの寄り添い方などで、挿入歌は「疑問」「里帰り」「梨のうた」の3曲を披露しました。

このなかで、石川さんは命の現場で仕事をしている消防士たちがストレスのなかで励んでいることを伝え、「癒やしてくれるのは家族、ただ一緒にいるだけで幸福になれる。とくに子どもの力はすごい」と述懐。ストレス解消法は「話す」「笑う」「スポーツ」「飲む」「歌う」「ギャンブル」「休む」などいろいろあっても、家族や友達や子どもたちがいてこそできること。「幸せはつかむものではなくて、気づくものではないか」と話しました。

その子どもたちも親元を離れます。〝子離れ〟の心境を「里帰り」という歌で紹介しました。こんな歌です。

♪腹が立つのは我慢ができても、寂しいのは我慢ができない。そんなときは、いつでも帰っておいで。お母ちゃんがごっつぉうしてやるけぇ。元気でがんばれ！

石川さんは介護現場の職員が腐心している傾聴や接遇について、自らの体験を踏まえてアドバイスしました。元気なときには何でもない言葉でも、落ち込んでいる人には、一層ダメージになることもあるそうです。「あなたより、もっと大変な人がいるから」「終わったことは忘れればいい」「神様が良くしてくれる」「子どものために、がんばりなさい」など。自死を思いとどまる人の多くは自らの存在や居場所が認められた時だといいます。「心のなかの思いを伝えるのが言葉。言葉は大切に」と締めくくりました。

石川達之さん

鳥取県老人福祉施設職員研究会

朝ドラは毎朝見ましょう　　内田克彦さん

2018 年 6 月 13 日

鳥取市吉成の財ノ木美吉自治会館で美吉町ふれあい会（林眞弘会長）があり、「鳥取県を舞台に！　歴史大河ドラマを推進する会」共同代表の内田克彦さんから「テレビドラマから読む鳥取秘話」を聞きました。内田さんは「朝ドラを見て10年後に思い出すのは楽しいもの。認知症予防のためにも、毎朝見ましょう」と、朝ドラの効能を説きました。

内田さんは地域史を研究するかたわら、NHKの大河ドラマや朝ドラ（連続テレビ小説）から鳥取のゆかりを探しだすことを趣味にしており、それが高じて鳥取県人を主人公にした歴史大河ドラマを実現する運動の旗振り役を務めています。

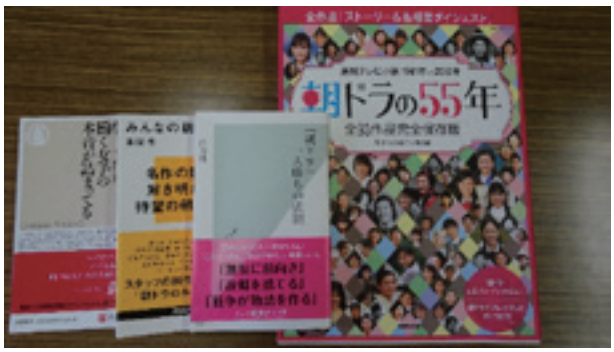
この日の「鳥取秘話」は朝ドラからスタート。平成29年後半の「わろてんか」では夫婦漫才で一世を風びしたミスワカナ（鳥取市生まれ）が「リリコ」役で登場したことや、平成26年前半の「花子とアン」の主人公・村岡花子の初恋の人は岩美町出身の外交官・澤田廉三だったが、ドラマでは金沢出身の帝大生として描かれていたと報告。平成22年から朝ドラの放送時間が8時15分から8時に繰り上がったが、NHKは視聴率が見込める「ゲゲゲの女房」をぶつけて、移行を乗り切った一など、ドラマの内容はもちろん、俳優、裏話などをあれこれ交えて紹介しました。

次いで大河ドラマ。鳥取城の飢え殺しが取り上げられたのは「黄金の日々」（昭和53年）。呂宋助左衛門役の松本幸四郎（当時は市川染五郎）が2回にわたって「鳥取兵糧戦」「飢餓地獄」を紹介しました。それに比べて、36年後の「軍師官兵衛」（平成26年）では「鳥取城は落ちた」というテロップだけ。鳥取市教育委員会は「なぜ取り上げなかったのか」とNHKにクレームを寄せたといいます。内田さんは「太閤ヶ平は織田信長を迎えるための陣城だったという説が有力になっている。そうなると鳥取城攻防戦の物語は変わってくる．今後のドラマ化を期待したい」と話していました。

ふれあい会の参加者は高齢の女性がほとんど。「見てました」という朝ドラファンが多く、ところどころで内田さんとやり取り、思い出話に花が咲きました。

内田克彦さん

吉成美吉町ふれあい会のみなさん



人気の朝ドラ本

童謡・唱歌100曲マラソン　　山の手コーラス・みずばしょうコーラス

2018 年 6 月 15 日

童謡・唱歌100曲マラソンが鳥取市のとりぎん文化会館でありました。延べ1500人が3時間余りにわたって、「赤とんぼ」や「どんぐりころころ」など100曲を歌いつなぎ、さわやかな気分になりました。

鳥取は「ふるさと」や「春の小川」などを作曲した岡野貞一、「大黒様」や「金太郎」などをつくった田村虎蔵の出身地で、「童謡・唱歌のふるさと鳥取」と自慢しています。そのシンボルが2つ。童謡とおもちゃの県立「わらべ館」（平成7年開館）と童謡・唱歌の100曲マラソンです。

このマラソンは童謡・唱歌の普及と合唱グループの交流を目的に平成2年から始まったもので、来場者だれもが主役です。出演団体のリードで歌い続け、100曲の〝完唱〟を目指します。フィナーレは「ふるさと」の大合唱です。

平成30年は童謡が誕生して100年、岡野貞一の生誕140年。その記念の年は29団体が出演しました。シニアバンクからは鳥取市の「山の手コーラス」（山田美枝子代表）と「みずばしょうコーラス」（植田洋子代表）が舞台に立ちました。

山の手コーラスは修立小学校区の女性たち37人。9月のグループ創立30周年記念コンサートを控えて特訓中で、「こいのぼり」「お猿のかごや」など4曲を披露しました。みずばしょうコーラスは日進小学校区の18人。尾前加寿子さんの指揮で「肩たたき」「茶摘み」などをアクション入りで元気よく歌い、客席をリードしました。みずばしょうコーラスのみなさんは8月12日、市文化センターである「とっとりいきいきシニアバンク『生涯現役』」まつりにも出演されます。

山の手コーラス

童謡唱歌１００曲マラソン

みずばしょうコーラス

ドラマ化の署名始まる　　四井幸子さん

2018 年 6 月 15 日

鳥取県を舞台にした大河ドラマを推進する会は、岩美町出身の外交官・澤田節蔵、廉三の兄弟と美喜の活躍のドラマ「三愛（母子愛・祖国愛・人類愛）のクニへ」を大河ドラマ候補、鳥取市出身の看護師で婦人参政権運動に取り組んだ碧川かたの生涯を描く「赤とんぼの母」を朝ドラ（連続テレビ小説）候補に決め、NHK などに働きかけていますが、それぞれ研究会を作って原作づくりに乗り出すとともに、ドラマ化実現に向けて署名運動も始まりました。

推進する会によると、全国の大河ドラマ候補は約40本、朝ドラ候補は100本余りあるそうで、それぞれ官民挙げてドラマ化の誘致運動が進められているといいます。その決め手になるのは、地元の盛り上がりとドラマ制作に欠かせない原作の存在。大河ドラマだと50話、朝ドラは130話程度の物語が必要で、主人公やその周辺の史実や資料集めが求められるといいます。

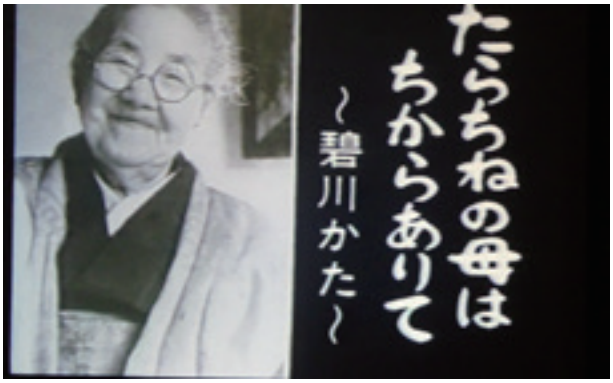
「三愛のクニへ」「赤とんぼの母」それぞれ郷土史家やファンなどを集めて研究会ができているのはそのためで、新たな史実や人脈がわかるなど、研究会活動の成果が生まれつつあります。推進する会には郷土史発掘の期待もかかります。

「碧川かたの生涯を広める会」の四井幸子代表はこの日、鳥取市の高齢者大学・尚徳大学で「かたの父は鳥取藩家老の和田邦之助」と題して講演し、このなかで養父の堀正（江戸時代は堀元九郎）は、和田家の重臣ではなく、鳥取藩直属の重臣だったことを明らかにしました。研究会活動の成果のひとつで、堀元九郎のひ孫・堀啓次郎さん（東京都）が「元九郎奔る～幕末鳥取藩士の手記」を著し、碧川かたや三木露風のことも紹介しています。

「元九郎奔る」には因幡二十二士事件はじめ、鳥取藩が官軍にいち早く加勢し、中核部隊となって戊辰戦争を戦い、活躍した様子が書き込まれており、幕末史の貴重な資料になりそうです。それによると、元九郎は戊辰戦争や西南戦争で河田景与の参謀という重責を務めながらも、高知・兵庫・長崎県などの地方警察官僚を転々とするだけだったそうで、薩長主導の明治維新の陰にも触れています。

かたの実父、家老の和田邦之助は因幡二十二士事件のリーダーという濡れ衣を着せられて失脚し、かたは養女に出され、波乱の生涯が始まります。

四井幸子さん



鳥取放送文化ライブラリーから

鳥取市のわらべ館そばに建つ
碧川かた顕彰碑

クラシックギターしませんか　　ギターアンサンブル・アミーゴ

2018 年 6 月 16 日

鳥取市の文化センターでギャラリーコンサートがあり、ギターアンサンブル・アミーゴ（岸清志代表）のみなさんがクラシックから童謡まで多彩なギター音楽を届けました。

ギャラリーコンサートは文化センターの自主事業で今年で4年目。市民に生の音楽に触れてもらうとともに、鳥取市や県東部の若手音楽家の育成を目的に開いており、子どもからお年寄りまで、だれもが楽しめるアットホームなコンサートとして定着しています。

今年はギターアンサンブル・アミーゴを皮切りに、クインビージャズオーケストラ（7月）、サックスの竹田歌穂さん（8月）、鳥取ブラスプレイヤーズ（9月）、鳥取ウインドシンフォニカ（10月）、湯浅いづみさん・綿口裕美子さん・中原美幸さんのミニコンサート（11月）―合わせて6回開かれます。いずれも入場無料。

アミーゴのコンサートにはおよそ100人が集まりました。岸代表によると、アミーゴはスペイン語で「仲間」や「友達」。毎週土曜日の夜7時から修立公民館で練習しており、ギター初心者の体験時間もあるそうで、いつでもお仲間になってくださいと呼び掛けています。

この日のコンサートの曲目は旧チェコスロバキアの「ビア樽ポルカ」、生誕140周年の「岡野貞一メドレー」、アイルランドの祭り「リスドゥンバーナへの道」のほかにソロで石原裕次郎のヒット曲「北の旅人」など。アンコールはクラシック音楽の人気曲「ラデツキー行進曲」。元気のよい手拍子が会場を包みました。

ギターアンサンブル・アミーゴ

鳥取市文化センターの
ギャラリーコンサート

「落ちない自信」に要注意！　　スマイルせつこさん

2018 年 6 月 18 日

伯耆町・岸本公民館の高齢者学級「松栄学級」は町内の八郷小学校で交流授業を行い、楽しいひと時を過ごしました。

授業内容は腹話術と心・頭・体のトレーニング。松栄学級は約30人、八郷小は5年生の15人が参加し、交流しました。

腹話術は大山町・中山公民館を拠点に活動しているスマイルせつこ（近藤勢津子）さんが人形の「のんちゃん」（5歳）を相手に掛け合いました。神奈川県で90歳のおばあさんが運転する車が信号を無視して歩行者に突っ込む悲惨な事故がありましたが、これを引き合いにして腹話術が進みました。

「信号の色は？」「赤白黄色！」「それはチューリップ」「そうだ赤青黄色だ」「そう、赤は？」「止まれ、黄色は注意して進め、青は進めだな、エッヘン」

「でもね、子どももお年寄りも足が速くないので、黄色は止まった方がいいな。青も飛び出さず、左右を確認してから渡った方がいいわね」

「この前、おじいさんの車に乗ったときに、信号が黄色になったのでスピードを上げて走り抜けたよ」「まあ、運転技術は落ちているのに、自信だけは落ちないのね。危ないわねえ！」

腹話術で笑った後は、心と頭と体のトレーニング。町社会福祉協議会・認知症予防専門士の森脇大介さんの指導でじゃんけんゲームや伝言ゲーム遊びを楽しみ、子どもたちは朝の歌「きっととどける」を歌って、おじいさん、おばあさんに元気を届けました。

「のんちゃん」とスマイルせつこさん

八郷小学校の交流授業

かつて奥日野は鉄の産地だった　　奥日野ガイド倶楽部

2018 年 6 月 23 日

大正時代まで全国屈指の「たたら製鉄」の産地だった奥日野。その遺跡を訪ねる「たたら古道ウォーキング」がありました。奥日野ガイド倶楽部（佐々木彬夫代表）の皆さんが案内し、20人が日南・日野町の森のなかの「たたら街道」を歩きました。鳥取県社会福祉協議会・とっとりいきいきシニアバンク「生涯現役」共催。

伯耆国たたら顕彰会の調べによると、旧日野郡の「たたら製鉄」の遺跡は420カ所あり、日南町で250カ所、日野町で125カ所確認されています。この遺跡の多さは、「たたら製鉄」の燃料・木炭調達のためで、原料になる木材が枯渇すると、「たたら場」を引っ越ししなければならないためです。

引っ越しといっても、道路づくり、土地造成、水路整備、鉄づくりの工場となる「高殿」、その地下構造づくり、鉄を加工する大鍛冶場や作業場、そこで働く人や家族のための住居などの建設が必要で、まさに森のなかのまちづくりです。

その数ある遺跡のなかで、日南・日野の町境にある都合山たたら遺跡（約2ha）が、「たたら場」の遺構をよく伝えていることがわかり、観光資源として活用するため、日野町は一帯を保存するとともに、スマートフォンやタブレットなどの端末で、たたらの操業現場を動画で再現するバーチャルガイドのサービスを始めています。

たたら古道ウォーキングは日南町花口から入り、森のなかの「たたら街道」を歩いて都合山たたら遺跡を目指し、日野町上菅駅に抜ける約7kmのコースです。街道は整備されているものの、利用されたのは昔のこと。いまでは地元の皆さんが草刈りなどで手入れしているおかげで、2時間ほどで完歩することができます。

佐々木代表によると、都合山たたらで暮らしたのは約200人。そこでつくった鉄製品や原料、食料品などを運んだのは、もっぱら馬で、岡山の新見まで持ち込んで舟で瀬戸内へ、境港からは北前船で大阪へ、鉄を積みだした境港はたたら製鉄のおかげで港湾整備が進んだなどと説明しました。

「たたら街道」の道中には、ところどころに大きな炭焼きの跡やイノシシが寄生虫駆除のために泥かぶりをする「ヌタバ」などがあり、参加者はそれらの解説を聞きながら、たたらで栄えていたころの奥日野のにぎわいを想像していました。

たたら古道巡り
（都合山たたら遺跡で）

奥日野ガイド倶楽部代表の
佐々木彬夫さん

都合山たたら遺跡の
バーチャルガイド

大山の自然は魅力がいっぱい　　鷲見寛幸さん・矢田貝繁明さん

2018 年 6 月 23 日

大山開山1300年祭に伴う大山講座「大山の自然とその魅力」が大山町の大山寺周辺であり、約100人が大山の植物や成り立ち、魅力などを勉強しました。新日本海新聞社など主催、鳥取県社会福祉協議会・とっとりいきいきシニアバンク「生涯現役」共催。

講師は清末幸久さん（鳥取県立博物館主幹学芸員）のほかに、シニアバンク登録の鷲見寛幸さん（大山町教育長）と矢田貝繁明さん（大山自然歴史館長）の3人。それぞれ午前、午後に分かれて得意分野を解説しました。

このうち鷲見さんは、大神山神社の参道周辺をガイド。鳥取県の木になっているダイセンキャラボクやダイセンキスミレなど、大山特有の植物を紹介しました。それによると、ダイセンキャラボクはイチイの変種で、イチイは20mにもなる高木ながら、ダイセンキャラボクは高さ50cmから2mと低いのが特徴。日本海側の秋田県から鳥取県の雪が多く積もる高山でみられ、大山では8合目あたりにある群生地が天然記念物に指定されています。参加者はそれらが大山に適応しながら育ってきた様子を聞き、楽しいひと時を過ごしました。

矢田貝さんは賽（さい）の河原、佐陀川左岸沿いの遊歩道などを巡り、大山の植物の紹介とともに、大山の成り立ちや自然循環の仕組みなどを解説しました。

それによると、大山は約100万年前から1万数千年前までの噴火でできた山で、長年の風雨にさらされてだんだんと崩壊が進み、登山者がふもとからリュックサックに石を入れて運び上げる「一木一石」運動で頂上を保護していることを説明。また、キノコが腐った木を分解して土にしたり、木の成長を助けたりして樹木と共生している仕組みやブナ林が豊かな地下水を生み出す自然循環の役割を果たしていることなどを解説。参加者は熱心にメモを取り、耳を傾けていました。参加者の一人は、「解説を聞くことで大山の魅力をより深く知ることができました」と、満足そうでした。

矢田貝繁明さん

大山の植物と魅力について
学ぶ参加者のみなさん

鷲見寛幸さん

民謡を歌い継いで30年　　民謡松弘美会

2018 年 6 月 24 日

鳥取市文化ホールで民謡松弘美会（佐藤松弘美会主）の「民謡ふるさとめぐり」があり、姫路・岡山・鳥取の民謡グループや一門の賛助出演もあって、満席の会場は大いに盛り上がりました。

松弘美会の「民謡ふるさとめぐり」は平成元年から始まり、今年で30回目。いつもの年を上回る記念発表会となりました。

出演したのは松弘美会の約30人のほかに、民謡ほっと（HOT）連携（姫路・岡山・鳥取）を組む「日本民謡姫路連合会」「岡山県民謡民舞連盟」「鳥取県民謡連合会」、一門からは鳥取市出身で「わかとり音頭」の歌手・佐藤松千恵さん（千葉県）、アメリカで日本民謡を普及する佐藤松豊さん（ロサンゼルス）も駆けつけ、花を添えました。

記念発表会は松弘美会総出演で「松寿四季三番叟」「お江戸日本橋」などを三味線で合奏してスタート。岡山は「千屋の牛追い唄」、姫路は「兵庫酒造り祝い唄」、鳥取は「貝殻節」や「宇野三ツ星盆踊り唄」などが踊りや寸劇入りで続き、ゲストの松千恵さん、松豊さんも「ソーラン節」や「長崎ぶらぶら節」をつややかに披露し、会場を埋めた500人を楽しませました。

松弘美会の名取さんたちも日ごろの精進の成果を発表。会主の松弘美さんも「安来節」などを歌い上げ、元気の限り民謡を歌い続けていくことを誓っていました。フィナーレは出演者全員で日本全国めでたいなの「めでたい音頭」で締め、3時間余りに及んだ「民謡ふるさとめぐり」は幕を閉じました。

佐藤松弘美さん

民謡松弘美会のみなさん

千屋の牛追い唄
（岡山県民謡民舞連盟）

お疲れさまでした　　ハッピー・ウクレレ・ハーモニー

2018 年 6 月 28 日

鳥取県障がい者技能競技大会（アビリンピック鳥取大会）が鳥取市の県立福祉人材研修センターであり、62人がパソコンデータ入力やビルクリーニングなどで技を競いましたが、アトラクションでハッピー・ウクレレ・ハーモニーの皆さんが癒やしの音楽で競技者の健闘をたたえました。

アビリンピック鳥取大会は鳥取労働局や鳥取県などの共催。障がい者の技能向上と就業拡大をねらいに開かれており、成績優秀者は全国大会へ進みます。今年は11月に沖縄県であり、その予選となる鳥取大会は21種目中7種目で競いました。

競技終了後、審査時間を利用して競技者慰労のためのアトラクションがあり、シニアバンク登録のハッピー・ウクレレ・ハーモニー（小幡潔代表）がウクレレを演奏しました。リードボーカルの石谷安世さんが「皆さんは元気を出したので、歌でくつろいでください」とエールを送り、一緒にアニメソングや「上を向いて歩こう」「未来へ」「365日の紙飛行機」などのヒット曲15曲を歌いました。

このなかで、石谷さんは「ウクレレはポルトガル生まれの楽器。ハワイに渡り、その弾き方がちょうどノミがはねているように見えたため、ハワイの言葉でノミはウク、はねるはレということで、ウクレレになったそうです」などとウクレレの歴史を紹介していました。

ハッピー・ウクレレ・ハーモニーは、わらべ館のコンサートなどに参加しているほか、鳥取市の若桜街道にあるベーカリーマーケット「こむ・わかさ」で毎月、歌声喫茶を運営しており、仲間になって楽しくやりましょうと呼び掛けていました。

なお、アビリンピック鳥取大会の「ワード・プロセッサ」競技で、シニアバンク登録のパソコン教室講師の岩室久美子さんも試験官で活躍しました。

ハッピー・ウクレレ・ハーモニーのみなさん

ウクレレ・コンサート

ますますパワーアップ！　　鳥取ベンチャーズ

2018 年 7 月 1 日

鳥取市用瀬町の流しびなの館ホールで鳥取ベンチャーズのリサイタルがあり、満席の100人はテケテケ・サウンドを楽しみました。

鳥取ベンチャーズは平成22年の結成。現在、メンバーは宮部兼壽代表（ドラムス）、北浦生雄さん（サイドギター）、細田佳宏さん（リードギター）、西川嘉則さん（ベースギター）、土居孝さん（マネジャー）の5人。毎年、このホールでリサイタルを開いており、今年で8回目。年配のファンが多く、夏の恒例イベントになっています。この日も会場は満席で、県内はじめ神戸や岡山などからバンド仲間が駆けつけました。

リサイタルはおよそ2時間、アンコールを含めて30曲演奏しました。今年は「テルスター」や「トゥモロウズ・ラブ」などスローなものにも挑戦したそうで、楽譜なしで次々繰り出すリズムやメロディーは、半端ない練習量のたまもの。コピーバンドとは思えない、テケテケ・サウンドを存分に聴かせました。

「パラダイス・ア・ゴー・ゴー」では土居マネジャーがポテトチップスのカンにコメを入れてシェーカー代わりにするパフォーマンスも。アンコールでは宮部代表がドラムソロで得意の「キャラバン」を披露しました。ギターが好きで毎年来場している男性は「鳥取にもすごいバンドがありますね。ますますスキルアップ、パワーアップしています」と喜んでいました。

鳥取ベンチャーズは鳥取コナン空港空の駅完成記念イベント（7月28日）、鳥取市文化センターである「とっとりいきいきシニアバンク『生涯現役』まつり」（8月12日）などに出演予定です。

鳥取ベンチャーズ

満席の会場にテケテケ・サウンド響く

一日十笑　　マジカル近藤さん

2018 年 7 月 10 日

鳥取市民大学の健康講座が鳥取市文化センターであり、鳥取県体操協会副会長のマジカル近藤（近藤盛一）さんが、得意のマジックと社交ダンスで「笑いは健康の源」を指南しました。約30人が参加しました。

リズム感を大切にされる近藤さんのマジックはいつも軽快です。あのマジック BGM の定番「チャ、ラララララ～」（ポール・モーリアの代表曲「オリーブの首飾り」）が流れるなか、ステップを踏みながら、スカーフやヒモの芸でスタートです。風船を針で刺したり、おもちゃのハトを出したり、その都度、受講生は大喜びです。

圧巻だったのは、赤白の布がバトンになり、そのバトンで、おもちゃの象の鼻をこすると、あら不思議。バイオリンの名曲「チゴイネルワイゼン」の演奏が始まりました。会場は拍手喝采です。近藤さんは「マジックで何回笑いましたか。高齢者の健康法は一日十笑。笑えば免疫力がアップし、がん予防などに効果があるそうです」

笑い足りない分は社交ダンスでというわけで、男女ペアを組んで、マンボのステップを習いました。流れてきた曲はドリフターズのズンドコ節。元気で、陽気で、笑い声が絶えない、ひと時が過ぎました。70歳代の男性は「母ちゃんとはいつもケンカばかり。今日は久しぶりに女性の手を握り、よかったです」と興奮気味でした。

近藤盛一さん

ダンスで健康！

みんな一緒に元気講座　　ジョイフル・プラザ

2018 年 7 月 11 日

米子市に元教師たちでつくるシニア世代のための生涯学習講座「ジョイフル・プラザ」があります。市公会堂で2カ月おきに社会・国語・体育・音楽の4講座を開いています。ことし受講生と教師仲間の拡大を目指してシニアバンクに登録されました。7月の授業をのぞきました。

講師陣は音楽が畠山和子さん、体育が青山典代さん、国語が小谷章公さん、社会が篠田建三さんの4人。いずれも元高校教師、気の合った仲間です。

ジョイフル・プラザの提案者は畠山さん。シニア世代の孤立化を防ぎ、生涯学習のきっかけになればと始めました。「みんな一緒に元気講座」がモットーです。今年で6年になりました。

〝授業料〟は1回900円（年間6回）。集中力が途切れぬようにと、それぞれ小学校並みの45分間授業です。年に2回ほど、野外学習もあるそうです。受講生は米子・境港・安来市などから集まり、1回20人前後が受講しています。登録者は200人ほどあるそうです。

さて、その授業風景―。米子周辺の歴史や地理を学ぶ社会の今回のテーマは「米子城はいつつくられたか」。篠田さんによると、吉川広家が米子城の築城と米子港・深浦港の整備に乗り出し、城下18町のうち14町ほどをつくり、関ケ原の戦いの後、中村一忠の家老・横田内膳村詮が米子城と城下町を完成させたそうです。この時、周辺の城下から商人たちが呼び集められ、合わせて「大工町」「塩町」「茶町」「糀町」「博労町」など職人や町人の町もできたといいます。

体育は公会堂のホワイエであり、「与作」や「人生に涙あり」などの音楽に合わせてストレッチ。「見上げてごらん夜の星を」の曲でダンス・パフォーマンスを楽しみました。「いつもプラス思考でいきましょう」と、青山さんは受講生を励ましていました。

畠山さんは「友達と連れ立って参加されると長続きしますよ」と受講を呼び掛けています。お問い合わせは080－6348-0753へ。

合唱指導の畠山和子さん

郷土講座の篠田建三さん

青山典代さんの
ダンス講座

笑いは人生の宝　　桂小文吾さん

2018 年 7 月 15 日

鳥取市の福部町文化協会（前川澄雄会長、12団体）は創立10周年。町コミュニティーセンターで記念事業として米子市の落語家・桂小文吾さんの独演会を開きました。

記念式典には70人が参加。福部未来学園の子どもたちでつくる、ふくべ傘踊り愛好会（横山明会長）の誕生披露や小文吾さんの独演会（講演、落語、踊り）がありました。小文吾さんは京都市出身。15歳で落語の世界に入り、20歳で舞台役者を経験、28歳で山陰に移り住み、いま81歳。米子市児童文化センターで落語講師を務めるほか、シニアの笑劇団を主宰するなど生涯現役で活躍中、上方落語協会会友。

講演のテーマは「笑いは人生の宝」。殺人や自然災害など悲しい事件事故が続く世相を引き合いに、軽妙な話術が進みます。ストレス解消には「笑い」、なかでも物語性のある落語が一番と説き、「笑えば、快楽物質が出てきて免疫力を高め、ウイルスやがん細胞をやっつけてくれる」と強調。毎朝、腹式呼吸で「ワッハッハッハ」と笑うだけで、深呼吸5回分と同じ効果がありますと、実演入りで推奨。「笑う門には福来る」と言うように「笑福式呼吸で笑いのあるまちづくりを進めましょう」と呼びかけました。

次ぎはステージの高座で落語です。演題は「鯉泥棒」。鯉料理店に押し入った強盗が鯉の懐石料理と地酒にすっかり酔ってしまって、盗んだはずのお金をすべて支払うという話で、会場は笑いの連続でした。文化協会10周年を祝って小文吾さんは得意の踊りも披露。扇子と刀で「竜虎伝」を舞い、来場者は「たくさん笑わしていただきました」と大喜びでした。

桂小文吾さん

踊り上手の桂小文吾さん

新たに発足した「ふくべ傘踊り愛好会」

ごちゃまぜ講座　　北尾勲さん・岸本俊彦さん・森山盛桜さん

2018 年 7 月 16 日

短歌・俳句・川柳のごちゃまぜ講座が鳥取市のさざんか会館であり、短詩型文芸の愛好者８０人が歌づくり、句づくりに挑戦しました。シニアバンク登録者も大勢参加し、短歌は北尾勲さん、俳句は岸本俊彦さん、川柳は森山盛桜さんが指導講演しました。

ごちゃまぜ講座は鳥取県文化団体連合会が短詩型文芸の愛好者拡大を目指して開いているもので、今年で8回目。短歌・俳句・川柳それぞれの特徴や違いを専門家から学んで、未経験の分野へも進出してもらおうというのがねらいです。

北尾さんは「短歌づくりは絵を描くように３１文字（５・７・５・７・７）の構図を考え、リズムに乗せてつくるもの。その景色のなかに思いを込めると、人に伝わりやすい」と説明。「日本一大きな池に雪が舞い白い古墳に変わる島あり」（中江三青）、「畑仕事続けて昼のおむすびは一味違う青空の味」（浦川スエ子）などのように、情景が浮かぶ歌づくりを勧めていました。

岸本さんは「俳句は１７音（５・７・５）、季語を用いてつくる〝有季定型〟なので、歳時記は必携の書。しかも古語を使うという3つの約束ごとがあります」と、俳句づくりの基本を紹介。山陰の句誌から「幼（おさな）の手強く握りて蛍狩」（西川裕子）、「一と部屋にゐてクーラーの好き嫌ひ」（遠藤裕子）など、初夏の俳句を例にポイントを解説しました。

森山さんは「川柳は人間の感情や行動を５・７・５で表現する文学。着想７～８割、まとめ方が２～３割、思わず膝ポンするようなものが最良」と説明。「ピーポーの音が止むから胸騒ぐ」「お迎えはいつでもいいが今日は嫌」「本当の歳を見抜いている鏡」などの良い句、「雨垂れが止んだ天気が良くなるぞ」「酒呑んで酔ってそのまま寝てしまう」などの良くない句をそれぞれ紹介。だれでも知っていることや当たり前のことを言うのは良くないそうで、後日の推敲こそが大切と強調していました。

講座の後、参加者は短歌・俳句・川柳づくりに挑戦しました。お題は「虹」。最優秀賞は短歌が湯浅俊久さんの「広げたる薬数えるテーブルに七色揃い虹となりたり」、俳句は浅井ゆり子さんの「虹見ては遠くの子等に思ひ馳せ」、川柳は上田宣子さんの「虹色に咲いてあなたをおどろかす」に決まりました。

北尾勲さん

岸本俊彦さん

森山盛桜さん

ごちゃまぜ講座で入賞した
みなさん

「大山さん」をもっと知ろう　　伯耆・伝承隊

2018 年 7 月 22 日

紙芝居で鳥取県西部（伯耆）地域の文化や歴史を伝えている伯耆・伝承隊（小椋弘美事務局長）は、鳥取市のわらべ館で『紙芝居でもっと知ろう「大山さん」』と題して、日本遺産に認定された大山の地蔵信仰や牛馬市などの歴史を伝えました。親子連れなど約30人が学びました。

今年は大山開山1300年。大山はじめ、県西部はいろいろな記念イベントで盛り上がっていますが、県東部では認識が低いのが現状です。そこで東部の県民にも日本遺産・大山の歴史を知ってもらい、県内全域で開山1300年祭を盛り上げようと、紙芝居がありました。

紙芝居は伝承隊の吉島潤承さん（大山寺圓流院の前館長）が大山の地蔵信仰や牛馬市について、やさしくかみくだいてまとめたもので、学校や高齢者施設などで数多く公演されており、開催希望が絶えません。この日の紙芝居は、「お地蔵さんの話」と「牛馬市とお地蔵さん」の2本立て。吉島さんは、参加した子どもたち一人ひとりに語りかけるように、笑顔でお話を進めました。

紙芝居の後、吉島さんは参加した小学生のみんなに、「いやなこと、だれにも相談できないことがあったら、身近にいらっしゃるお地蔵さんに語りかけてください。お地蔵さんはいつもみんなの心のよりどころです」と伝えました。

伯耆の県民は、親しみを込めて大山を「大山さん」と呼んでいます。お地蔵さんのおかげに感謝しているからです。伯耆・伝承隊は「中部へもどんどん出かけて、県内全体に大山さんのおかげを伝えていきたい」と張り切っています。

吉島潤承さん

紙芝居「牛馬市とお地蔵さん」

美しい音色で感謝　　箏・てまり会

2018 年 7 月 22 日

箏や三弦など和楽器の普及活動を続けている箏・てまり会（菊弘瀬恭子代表）は、鳥取市のとりぎん文化会館で結成25周年を祝ってコンサートを開き、進化する邦楽を披露しました。およそ800人が鑑賞しました。

箏・てまり会は平成4年、当道音楽会の大勾当（大師範）・菊弘瀬恭子さんの教室生などで結成。和楽器、邦楽の普及振興を目的に5年おきにコンサートを開いてきました。会員は年々増え、小学生から80歳代までおよそ30人。コンサートも6回目となりました。

今回のコンサートには菊弘瀬さんの師匠、沢井箏曲院教授で邦楽音心会主宰の石垣清美さん、当道音楽会の大勾当で菊祇会会長の菊伊祇京子さん、それに尺八の二代石垣征山さんが応援出演。いずれも国内外で活躍する邦楽の名手たちです。県内からは、ぐるーぷ絲音や県三曲協会、鳥取ベンチャーズの宮部兼寿さんらが賛助出演しました。

演じた楽曲は全10曲。若手の「湧き出づる力」で始まり、お正月メロディーの定番「春の海」、源氏物語を題材にした「新浮舟」と続き、観客を雅の世界に誘いました。美保公民館の子ども箏教室の4人も出演し、お姉さん会員の応援で「四季の日々より秋の日」を見事に演奏しました。

後半は近代的な音色で多彩なアンサンブルが続きます。石垣清美さんが独奏した「箏のための協奏曲ファンタジア」は、息づまるような熱演で客席は圧倒されました。フィナーレは阿波踊りをモチーフにした「阿波の風」。総勢41人が箏、三弦、尺八、太鼓で大地を踏みしめるような祭りばやしで大団円を迎えました。

菊弘瀬代表は「箏が続けられ、感謝の気持ちでいっぱい。これからも子どもたちに伝統楽器を広め、美しい音色を残していきたい」と話していました。和楽器に興味、関心がある方は菊弘瀬代表へ（電話0857-24-4531）。

「新浮舟」を演ずる箏・てまり会のみなさん

箏・てまり会代表の菊弘瀬恭子さん

美保公民館の子ども箏教室も出演しました

伯耆安綱ゆかりの地巡り　　伯耆国たたら顕彰会

2018 年 7 月 22 日

奥日野でかつて栄えたたたら製鉄やたたら文化を地域資源として、まちづくりを進めている伯耆国たたら顕彰会（田貝英雄会長）は、日南町阿毘縁地域振興センターで「伯耆安綱ゆかりの地巡り＆トークセッション」を行いました。

伯耆安綱は反りのある日本刀の始祖ともいわれ、国宝「童子切」をはじめ、数々の名刀を鍛えた平安時代の刀工です。安綱は伯耆国（現在の県中西部）で作刀したとされ、その一門は「大原鍛冶」と呼ばれ、県中西部にその伝承が残っていますが、学術的に実証できるものはありません。

そこで安綱の伝承地のひとつ、日南町阿毘縁地区にスポットを当て、地元住民にその存在を知ってもらうとともに、安綱の伝承を共有することで、安綱ゆかりの地としての機運を高めていくことを目的に開催しました。

顕彰会の杉原幹雄さんや地元住民の案内で、安綱にゆかりのある山伏塚や、たたら製鉄の鉄穴流しが行われていた場所（写真下は明治末期～大正初期のもの）を訪れました。住民からは安綱にまつわる新たな情報が出てくるなど、安綱伝説を掘り起こす貴重な機会となりました。

続いてYoutubeで公開中の杉原さん作の電子紙芝居「伯耆安綱伝」と「伯耆国の流通革命」を鑑賞し、トークセッションで安綱や伯耆国について知識を深めました。

顕彰会は8月19日、米子市で「伯耆安綱サミット2018」を開き、大原鍛冶の伝承が伝わる倉吉市や米子市など各地の関係者が参加して、日本刀の始祖・安綱顕彰の機運を高めていく予定です。

田貝英雄さん

杉原幹雄さん

深埆の鉄穴流し（鳥取県立図書館蔵）

〝同行二人〟は楽し　　ことぶき劇団ふたり

2018 年 7 月 25 日

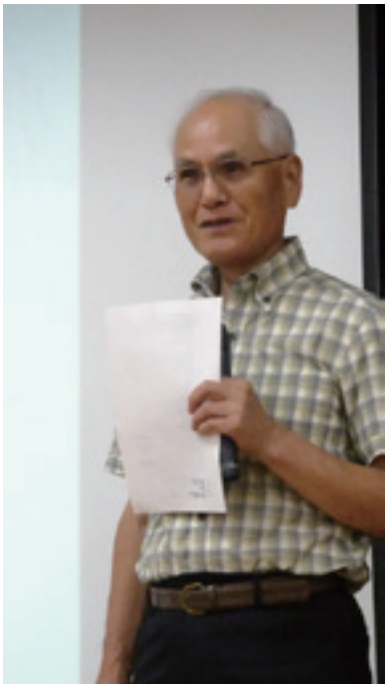
大山町の名和公民館ことぶき学級は名和保健センターであり、「ことぶき劇団ふたり」が「後醍醐天皇ゆかりの地を訪ねて」を口演しました。約80人が受講しました。

ことぶき劇団ふたりは榧野省吾さん（米子市）と島谷修さん（境港市）がつくったもの。2人は鳥取県高齢者大学ことぶき学園の卒業生。旅好きの趣味が同じとあって、一緒にあちこち巡ってきたといいます。尼子一族、後醍醐天皇、古事記、芋代官、「ゲゲゲの女房」などのゆかりの地を訪ね、四国88カ所、米子城下などを歩いて、8年ほど前から榧野さん演出、島谷さんパソコン操作で山陰の名所案内の口演会を開いています。

この日は名和長年の本拠地ということで、後醍醐天皇隠岐配流の道（美作・備中編）を解説しました。後醍醐天皇は鎌倉幕府討幕計画が露見して捕まり、京都・笠置山から隠岐島に流罪となりますが、この道中のハイライトは天皇奪還を目指す備前国の武将・児島高徳でしょう。榧野さんらは奪還作戦が展開されたといわれる播磨・備前国境の船坂山、播磨・美作国境の杉坂、院庄の作楽神社などを丹念に回り、それぞれの土地柄を写真などで紹介しました。

作楽神社は文部省唱歌「児島高徳」（岡野貞一作曲）ゆかりの地で、その曲が会場に流れると、「天勾践（こうせん）を空しうする莫（なか）れ。時范蠡（はんれい）無きにしも非（あら）ず」と元気良く歌う参加者もいました。戦前の学校教育では南朝の忠臣・児島高徳は楠木正成とともに国民的英雄でした。

また、米子市の涼善寺には勤王児島高徳の碑がありますが、榧野さんが「鳥取県の前知事・片山善博さんはその子孫」と伝えると、会場からは「へー」「ホー」の声が上がっていました。



榧野省吾さん

島谷修さん

写真や図で後醍醐天皇の足跡を紹介

〝茅の輪〟の里でテケテケ　　サーフライダー

2018 年 7 月 28 日

鳥取市の殿ダムの上流・大茅地区の栃本農村公園で盛大な納涼祭があり、おじさんバンドのサーフライダーがテケテケサウンドで花を添えました。

大茅地区は雨滝、栃本、楠城など6つの集落からなる山間地。人口は約100世帯、200人。住民の半数は後期高齢者で、小学生はわずかに2人。深刻な少子高齢化が進行中ですが、納涼祭には毎年、若い衆が孫連れで帰省してきて盛り上がります。今年も浴衣姿の子どもたちの歓声があがりました。

子どもたちを迎えたのが、大茅地区の名物〝茅の輪〟。それぞれの集落から茅の束を持ち寄って編み上げるのが習わしで、参加者は半年間の罪や災いを〝茅の輪〟くぐりで取り除きます。大茅公民館の高橋宏明館長によると、「納涼祭には欠かせない行事。もう何年も続いている」そうです。

さて、納涼祭。小さいながらも集落ごとに、百歳音頭、しゃんしゃん棒体操、炭坑節…など芸の出し物が続きます。おやじバンドのサーフライダーや智頭町からは「満点星（どうだんつつじ）」よさこいチームを招き、元気をいただきました。

サーフライダーはバンド・因幡～ず（佐田久範男代表）が母体。女性ボーカルが入ると、バンド名を変えているそうです。この日はベンチャーズメロディーのほかに、大岡越前や月光仮面の曲も届け、サービスしました。

サーフライダー

大茅の納涼祭には茅の輪が欠かせない

国府町大茅地区の納涼祭

おしゃれになった鳥取空港

鳥取ベンチャーズ・鳥取のもづくり道場・藤井正幸さん

2018 年 7 月 28 日

鳥取砂丘コナン空港のターミナルビルが完成し、7月28日、シニアバンクのメンバーも参加して空の駅フェスタがありました。近くの鳥取港マリンピア賀露も連携して食のみやこフェスタを開き、新名所・ツインポートの誕生を祝いました。

新ターミナルビルはかつての国際会館と一体化して整備したもので、延べ床面積は3倍近くに拡大。テナントも3店から7店に増え、県東部で人気のレストランやコナンショップも並び、おしゃれな空の駅が誕生しました。

フェスタは大勢の家族連れでにぎわいましたが、シニアバンクも音楽ステージやワークショップでイベント盛り上げにひと役買いました。

鳥取ベンチャーズはブルドッグや十番街の殺人、ダイヤモンドヘッドなど6曲を演奏。テケテケサウンドで〝鳥取の元気〟を届けました。藤井正幸さんは身近にある輪ゴムやロープ、割りばしなどでマジックを披露。種明かしのサービスに、30組の親子は大喜びでした。

鳥取ものづくり道場は瀬川和義さん、作野友康さん、早川元造さん、岡村真由美さんの4人がペーパーグライダーや和紙の紙飛行機づくりを指導。子どもたちは熱心にグライダーづくりに励んでいました。

テケテケサウンドで鳥取空港ターミナルの完成を祝う鳥取ベンチャーズ

ペーパーグライダーづくりを指導する鳥取ものづくり道場

マジックの種明かしをする藤井正幸さん

楽しくなった鳥取空港

シニアもがんばってます　　クインビージャズオーケストラ

2018 年 7 月 28 日

鳥取市教育福祉振興会は市文化センターにクインビージャズオーケストラを招き、ギャラリーコンサートを開きました。100人余りのジャズファンが心地よくスイングしました。

クインビージャズオーケストラ（奥谷進代表）は1976年に結成された鳥取市唯一の社会人ビッグバンド。奥谷代表はただひとりの創設メンバーで、42年間のバンドの浮沈を見届けてきました。いまメンバーは18人。30歳代や鳥取大学生が中心で、60歳代は奥谷代表だけ。「40年余りもやっているのに、クインビーの名が知られていないんです。もっと活躍の場を広げなければ」と奥谷代表。鳥取県の人材銀行「シニアバンク」の役割に期待がかかります。

さて、この日はアンコールを含めて6曲演奏しました。バンド名の由来となった「ザ・クインビー」をはじめ、ジャズの入門曲で吹奏楽で人気の「ストライク・アップ・ザ・バンド」、アメリカ・フロリダの夜景を飛行機からながめた「ナイト・フライト」などをさっそうと奏でていきました。

クインビージャズオーケストラの練習拠点は、市内浜坂の喫茶マイペースのスタジオ。毎週木曜日の夜8時から。興味のある方は仲間になりませんかと呼び掛けています。10歳代のメンバーもいます。

クインビージャズオーケストラ

満席のギャラリーコンサート

考える力を養おう！　　鳥取ものづくり道場

2018 年 7 月 29 日

「第 1 回新因幡の手づくりまつり」が鳥取市文化センターであり、400人の子どもたちが、ものづくりで夏休みの思い出を作りました。

鳥取ものづくり道場や鳥取大学、環境大学などでつくる手づくりまつり実行委員会（作野友康委員長）が開きました。ものづくり体験を通じて子どもたちの考える力、科学する心を育てようというのが目的です。かつて商店街なども加わっていた手づくりまつりの仕組みを変えて再出発したもので、ものづくりの達人や学生など80人のスタッフで運営しました。

まつりのメニューは万華鏡、マイ・ストラップ、スノードーム、オリジナル時計など25品。子どもたちはそれぞれのブースに分かれて30分～60分で作品づくりに励みました。

女の子に人気があったのは「光の七変化」や「スノードーム」など。光の七変化はガラス瓶におはじきや貝殻などを張り付け、瓶の底から光を当てれば、不思議な光を放つ置物ができるというわけで、付き添いのお母さんたちも熱心に作品づくりに挑戦していました。この置物を考案したのは松本俊行さん。「材料は100円ショップで買った瓶と海岸で拾ったガラス片や貝殻。接着に時間がかかるが、楽しいですよ」と勧めていました。

夏の自由研究に格好のイベントとあって、会場は家族連れで大にぎわい。総括責任者の土井康作さんは「ものづくりの指導者は県内に300人いて、あちこちの学校や地域で活動しています。もっと活躍の場を広げたいですね」と話していました。

にぎわう新因幡の手づくりまつり

風船で動く牛乳パックの舟づくり

親子で一緒につくるのも楽しい

歌が支えた波乱の生涯　　中永廣樹さん

2018 年 8 月 4 日

鳥取ゆかりの万葉歌人・大伴家持の生誕1300年を記念して、鳥取市の因幡万葉歴史館で万葉集講座が始まりました。鳥取県の前教育長・中永廣樹さんの「大伴家持の名歌鑑賞」で開講し、平成31年2月まで5回にわたって山陰の万葉集研究者の講義が続きます。初回は約30人が受講しました。

大伴家持（718～785年）は奈良時代の高級官吏で歌人。天皇の身辺警護を担った大伴氏の嫡男で、その生涯は藤原氏の台頭など政変のたびに波乱に見舞われました。万葉集（20巻4500首余）の編集者とされ、自らの歌を473首収めているほか、因幡国庁で新年に歌った「新しき年の初めの初春の今日降る雪のいやしけ吉事」を巻末歌にしています。

ちなみに万葉集には柿本人麻呂の歌が84首、山上憶良は60首、山部赤人は50首が収録されており、家持の歌の多さは群を抜いています。また、万葉集の17－20巻は家持の歌日記だったという見方もあります。

中永さんは万葉集にたくさんある家持の歌の中から名歌12首を選び、解説しました。多くが高校古典の教科書で紹介されている歌です。

「朝床に聞けば遥けし射水川（いみずかは）朝漕ぎしつつ唱（うた）ふ舟人」

「ますらをは名をし立つべし後の世に聞き継ぐ人も語り継ぐがね」

いずれも家持が都から遠く離れた越中（富山県高岡市）で国司をしていたころの歌です。中永さんは「万葉集は庶民的で素朴で力強いとされているが、家持の歌には現代に通じるもの悲しさがある」と解説。併せて絶唱3首といわれる巻19の巻末歌も紹介しました。

「春の野に霞たなびきうら悲しこの夕影にうぐいす鳴くも」

「我がやどのいささ群竹（むらたけ）吹く風の音のかそけきこの夕（ゆうへ）かも」

「うらうらに照れる春日にひばり上がり心悲しもひとりし思へば」

中永さんによると、家持は春愁や感傷をテーマにした珍しい歌人で、上司の左大臣・橘諸兄が引退するなど独りぼっちになった心境を歌に託していたと分析しました。

家持は因幡での「新しき年の…いやしけ吉事」の歌を最後に歌づくりを閉じたといいます。このとき家持42歳。その後、参議として朝政に加わるなど昇進を重ね、最後は不遇なうちに68歳で生涯を閉じましたが、この間の歌が1首も残っていないそうです。中永さんは「思いを込めてやめたのだろう。見事な終わり方です」と感心していました。

中永廣樹さん

家持の名歌を学ぶ皆さん

言霊の人・大伴家持
（里中満智子さん作）

ガッテン！　大山の昆虫たち　　清末忠人さん

2018 年 8 月 5 日

境港市の夢みなとタワーで開催中の「カブト・クワガタふれあい遊園地」に合わせて8月5日、夏休み自然教室「大山の自然と昆虫たち」が開かれ、自然に親しむ会の清末忠人会長がカブトムシの飼い方などを指導しました。新日本海新聞社、鳥取県社会福祉協議会などの共催。

清末さんは大山開山1300年祭の協賛イベント・ふれあい遊園地に協力して、60年余りにわたって大山周辺で集めたカブトムシやクワガタ、セミやチョウ、トンボなど200種類を超す昆虫の標本を展示しました。

自然教室には10組余りの家族が参加。清末さんの案内で標本をのぞき込んだり、遊園地内に設けられたカブトムシとの力比べやクイズなどに挑戦しました。カブトムシは自分より20倍も重いものを引っ張る力があるそうで、子どもたちはカブトムシのロボット相手に綱引きを楽しみました。

清末さんによると、カブトムシやクワガタのオスには角やのこぎりがあり、ライバルと戦うための武器だそうです。その戦い方は、カブトムシは相手の体の下に角を差し込み、はね上げる「すくい投げ」が得意。クワガタは4つに組んで譲らず、折を見て大あごを相手の足の間に差し込んで、投げ飛ばしたり、つり出したりしているそうです。

教室は夢みなとシアターに会場を移して、映像を見ながらカブトムシの飼い方を学びました。それによると、大きな水槽に畑の土を5－10cm、その上に腐葉土を10－15cm乗せ、オスとメス2匹を入れてやります。エサは 4 つ切りのリンゴがベスト、スイカは体がべとついてよくないそうです。木の枝も入れてやりましょう。そうすると、畑の土の中で卵や幼虫は育ち、夏になると羽化します。年間を通してカブトムシが楽しめ、それを記録にまとめることで、見事な自由研究になりますと勧めていました。

清末忠人さん

カブトムシと力比べ

バッタの説明をする清末忠人さん

和紙で巨大恐竜をつくろう！　　貞谷隆子さん

2018 年 8 月 5 日

鳥取市のパレットとっとり市民交流ホールで和紙で巨大恐竜を作る体験教室があり、和紙おりがみSada工房の貞谷隆子さん(鳥取ものづくり道場)が指導しました。鳥取商工会議所などが因州和紙や折り紙に親しんでもらうため開いたもので、55人の親子が参加しました。

体験教室は、子どもたちだけで巨大恐竜を折ることでスタートしました。5～6人のグループに分かれ、それぞれ大学生や中学生の〝おりがみ博士〟と一緒に、3m四方の因州和紙で巨大恐竜を作りました。

貞谷さんが折り方の手本を見せると、子どもたちははやる気持ちをおさえきれず、我先に折り紙に飛びつき、わいわいがやがや。そこで貞谷さんや“おりがみ博士”が登場し、指導しました。折り紙をおさえる役、折る役など子どもたちはそれぞれ役割を決め、みんなで協力して仕上げていきました。

大きな折り紙恐竜を作った後は、親子でミニチュア恐竜づくりに挑戦しました。60cm四方の和紙で恐竜づくりをおさらいしながら折り上げ、作品はそれぞれ持ち帰りました。

貞谷さんは「こうした体験をとおして、もっともっと和紙や折り紙に親しんでもらいたい」と話していました。

貞谷隆子さん

どんな恐竜ができるかな

巨大恐竜おりがみ完成！

指スヤ都　見シヤ茲ヲ　　木谷清人さん

2018 年 8 月 7 日

鳥取大学で公開講座「『民藝』という美学」が開かれますが、その予習を兼ねて鳥取市の高齢者大学・尚徳大学で鳥取民藝美術館常務理事の木谷清人さんが「吉田璋也と鳥取の民藝」について講演しました。このなかで木谷さんは「指スヤ都　見シヤ茲（ここ）ヲ」という言葉を紹介しました。

吉田璋也（1898～1972年）は鳥取市の名誉市民。生涯現役の医者で「民藝のプロデューサー」を自認していました。

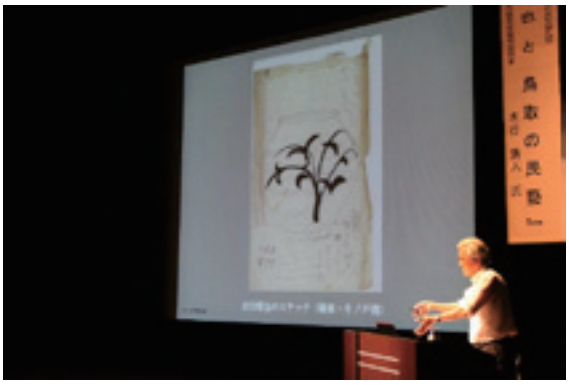
医者のかたわら、生活に使う食器や家具をはじめ、木工、金工、竹工、染織、和紙などを自らデザイン。それをつくる工人集団を組織し、その民藝品を流通・販売する「たくみ工芸展」を鳥取と東京・銀座に開き、民藝運動の普及と市民教育のための鳥取民藝美術館をつくりました。併せて民藝の器で郷土料理を提供する「たくみ割烹店」もつくりました。しゃぶしゃぶの元祖「すすぎ鍋」が食べられることでも有名です。これらの工芸展、美術館、割烹店、医院跡は鳥取駅前の民藝館通りにあります。

また、吉田璋也は文化財保護にも熱心でした。教育者・川上貞夫らと鳥取文化財協会をつくり、鳥取砂丘の天然記念物指定、鳥取城跡の史跡指定、仁風閣の重要文化財指定、湖山池の自然と景観の保護などを進めました。湖山池の丘上には八角窓の阿弥陀堂を建築、そのデザイン力を発揮しています。

木谷さんは講演で民藝とは何か、吉田璋也の民藝運動とその歴史などを解説、説明したうえで、近年は若者を中心に民藝再評価の動きが広がっていることも報告しました。相次ぐ地震や風水害などのせいか、当たり前の暮らしや個性ある地域へのあこがれが再評価の背景にあるのかもしれません。

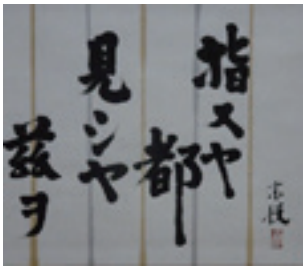
木谷さんは言います。「民藝のすばらしさを提唱した柳宗悦は『指スヤ都　見シヤ茲ヲ』と唱えました。悟りや極楽浄土や幸せは旅に出てもつかめない。それらは自らの心の中にあるからです。鳥取に停車するJR西日本のトワイライトエキスプレス瑞風は、立ち寄り先に鳥取民藝美術館と仁風閣と鳥取砂丘を選びました。いずれも吉田璋也が保存運動などでがんばったところです。鳥取にも最高のVIPをおもてなしするところはあります。何もないというのは、もうやめましょう」と。

鳥取大学の公開講座は16日まで4日間（全15講）あります。



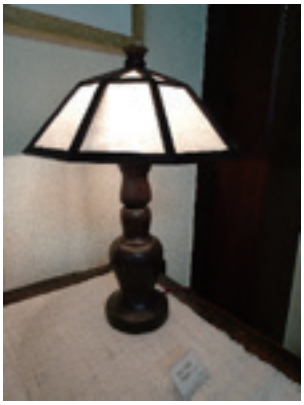
「吉田璋也と鳥取の民藝」を語る
木谷清人さん

とっとり民芸の拠点



柳宗悦揮ごうの色紙

吉田璋也



吉田璋也デザインの皿とスタンド

我が町のこと、もっと伝えよう　　岡村洋次さん・高橋孝之さん

2018 年 8 月 7 日

我が町のこと、もっと伝えよう―と、鳥取県社会福祉協議会は倉吉市の上灘公民館で県内市町村社協の広報研修会を開きました。25人が参加。広報が地域をつくることや動画広報の大切さを学びました。県社協は今年から広報力の強化を目指して県内市町村社協の広報紙（誌）コンテストを始めることにしています。

研修会の講師は、元日本海新聞記者で「放哉の会」事務局長の岡村洋次さん（鳥取市）とサテライトコミュニケーションズネットワーク社長で中海テレビ放送副会長の高橋孝之さん（米子市）。

岡村さんは「面白い広報誌をつくるために」と題して、その心構えを説きました。岡村さんは40年余り前の日本海新聞の倒産―休刊―復刊の経験者。この体験をもとに新しい日本海新聞は全員記者となり、拡張員となって新聞購読を増やし、全国トップレベルの普及率を誇る新聞社となっていった歴史を紹介しました。「なぜ日本海新聞が読まれているか。身近な人たちの情報が載っているから。おくやみや読者のページ、楽しい仲間、読者文芸などが人気です」

岡村さんは日本海新聞在職中、「咳をしても一人」で知られる鳥取市出身の俳人・尾崎放哉を広く知ってもらうため、書家の柴山抱海さんと「全国公募書道展『放哉を書く』」を立ち上げるとともに、市内各地に句碑の設置を進め、鳥取の新名所づくりに励んできました。岡村さんは言います。「面白い広報誌をつくるためには、地域を好きになり、広報誌づくりを好きになってください」と。

高橋さんは22歳でフォト工房を興し、34歳で山陰の民放と番組制作会社をつくり、38歳で鳥取県西部全域をカバーするCATV会社を設立。平成5年からは米子の地で全国のCATV120社に情報やサービスを提供しています。総務省の地域情報アドバイザー、鳥取大学などとつくる県民チャンネルコンテンツ協議会の副会長なども務める進取の人です。

研修会では「映像が持つ力」を解説しました。画像1枚は約2，000文字、1分の映像は約180万文字の情報量に匹敵するという米国学者の研究を報告したうえで、山陰ではテレビ局の情報は全情報量の8％程度しかなく、地域の生活情報メディアは極端に少ないと指摘しました。

ただ、2019年からは5G（第5世代移動通信システム）の実証実験が始まり、スマートフォンで4Kの画像がストレスなくみられる時代になるといいます。スマホの保有率は既に72％ほど（2016年、総務省調べ）。そうなると、一人ひとりが動画を送受信できる放送局になります。「誇りある地域づくり」にこれをどう活かすかが問われていると紹介しました。

岡村洋次さん

高橋孝之さん

スマホで４K を見る時代がやってくる

全国公募書道展「放哉を描く」の審査風景

にぎわった生涯現役まつり

2018 年 8 月 12 日

鳥取県の人材銀行・とっとりいきいきシニアバンクの「生涯現役まつり」が鳥取市の文化センターとその周辺であり、子どもからお年寄りまで、およそ600人がステージショー、ものづくり、まち歩きなどを楽しみました。鳥取県、鳥取県社会福祉協議会の共催。

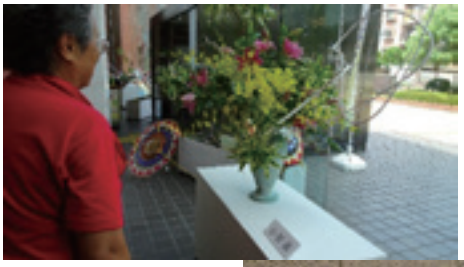
「生涯現役まつり」はシニアバンク発足3周年と鳥取しゃんしゃん祭、シニア作品展に協賛して開いたもので、ステージには10団体が出演して歌や演奏、踊りなどを繰り広げ、鳥取ものづくり道場のみなさんは子どもたちにものづくりの楽しさを伝え、俳句づくりの先生たちは鳥取の新名所・尾崎放哉の句碑巡りを案内しました。バンク登録者はそれぞれの特技で一隅を照らし、盛夏の鳥取に元気の花を咲かせました。お盆休みの市民や帰省客は大喜びでした。

★子どもが舞い、生涯現役の花がお出迎え★

開会式　文化センター前庭で開会式がありました。県社協の野間田憲明常務が「バンク登録者が1，700人を超えました」とあいさつ。国府町の宮ノ下小傘踊りクラブと因幡の傘踊り保存会美歎支部の20人が、井口勉さんの名調子に合わせて「貝殻節」「因幡大津絵」などを舞いました。

いけばな小原流鳥取支部のみなさんは、南国の草花としゃんしゃん傘で会場玄関を飾りました。県華道連合会長の入江豊友さんの指導で、「生涯現役の輪がさらに広がるよう」、そんな願いを込めた花飾りが展示され、市民の目を引きました。

宮ノ下小傘踊りクラブと因幡の傘踊り保存会美歎支部のみなさん



「生涯現役の輪を広げよう」という花飾り

花としゃんしゃん傘で会場を飾った小原流鳥取支部のみなさん

★テケテケから三味線、踊りまで★

ステージ　鳥取ベンチャーズを皮切りに、APON、アール・ファイブ、花えみの会・美保踊りの会・どじょっこの会、一音会、みずばしょうコーラス、県大衆音楽協会、民謡松弘美会の10団体が出演。午前10時半から午後4時前まで、多彩なショーが続きました。司会は日本の男性バスガイド第1号の廣澤孝彦さん（鳥取市観光大学講師）。

APONは鳥取名産の豆腐ちくわを楽器にするイワミノフ・アナミール・アゾースキーさんなど岩美町の音楽ユニット。とうふるーと、フルート、クラリネット、オカリナ、ギター、ボーカルで楽しいステージを演出しました。花えみの会は鳥取名所を歌いこんだオリジナルの南京玉すだれを披露し、大きな拍手をもらいました。県大衆音楽協会はカラオケ仲間。西谷勝歳代表など歴代知事賞受賞者7人がそれぞれの持ち歌を歌い上げました。大トリは民謡松弘美会。佐藤松弘美会主を中心に「きなんせ節」でフィナーレを飾りました。

文化ホールのホワイエでは鳥取市伏野の県立福祉人材研修センター工作室を窯元（湖山窯）にする「陶の会」が湯飲み茶わんや皿などを格安販売するとともに、会員募集を行いました。「湖山窯には粘土や釉薬がいろいろあるので、好みの作品づくりに挑戦できます。仲間になりませんか」と逢坂豪代表。福祉の店「ユーカリ」も出店、

パンなどを販売しました。

廣澤孝雄さん

みずばしょうコーラスのみなさん

句碑巡り（中川酒造）

陶の会の展示即売風景

松弘美会は「きなんせ節」で
フィナーレ

★余分な言葉はいらない★

まち歩き　「咳をしても一人」「入れものが無い両手で受ける」などの句で知られる鳥取市出身の俳人・尾崎放哉。その生誕130年を記念して市内各地に119基の句碑が整備されました。日本を代表する書家が放哉の句を揮ごうしたもので、鳥取の新名所になっています。

まち歩きは市文化センター近くの放哉の生誕地など約3kmを巡りました。放哉の会の事務局長・岡村洋次さんと県俳句協会副会長の野田哲夫さんがガイド。「足のうら洗へば白くなる」「春の山のうしろから烟が出だした」などの句碑の前で、野田さんは「大切なのは読む人の感じ方。余分な言葉はいらない」と解説していました。

★夏休みの宿題できたよ★

ものづくり　約200人の親子がミニ傘、汽車笛、木の調理器具、万華鏡、ヤジロベーづくりに挑戦。鳥取ものづくり道場の瀬川和義代表など11人が指導しました。

折り紙のエキスパート・貞谷隆子さんは因州和紙で作るミニ傘づくりを手ほどき。大人でも2時間はかかる工程を1時間で仕上がるよう工夫し、熱心に折り方を伝えました。ヤジロベーをつくった久松小学校3年生の女の子は「小さい穴に針金を入れるのが難しかったが、楽しく作れました。夏休みの宿題ができました」とうれしそうでした。

木の調理具づくり

★鳥取県でも５年後にねんりんピックがやってくる★

シニア作品展　日本画、洋画、彫刻・工芸、書、写真の5部門に63点が出品され、県知事賞に日本画は川端芳子さん（鳥取市）、洋画は角勝子さん（境港市）、彫刻・工芸は永島辰男さん（米子市）、書は井上惺さん（鳥取市）、写真は青木堅治さん（若桜町）が選ばれました。シニアバンクに登録の先生方も審査しました。最優秀作品はねんりんピック（全国健康福祉祭）の美術展に出品されます。鳥取県でも2023年にねんりんピックが開かれます。

米子に文化の花が咲く　　米子美術家協会・米子工芸会など

2018 年 8 月 11 日

この夏、大山開山1300年祭を盛り上げようと、鳥取県西部の文化団体が連携して「大山」をテーマにした合同作品展・大山芸術祭が米子市などでありました。経済界も資金面だけでなく、催事場を芸術祭に提供するなどバックアップ。市内のあちこちに文化の花が咲きました。

市民の誇りであり、作家のあこがれである「大山」をもっとPRしようと、絵画・写真・書道・工芸などの文化団体や分野が〝流派〟の枠を超えて結束。8月1日～15日まで、市内のあちこちで展覧会を同時開催させました。シニアバンクに登録する作家のみなさんも多数参加しました。

会場になったのは米子高島屋、米子しんまち天満屋、シルクはうす、丸京庵市民ギャラリー、百花堂、米子コンベンションセンター、了春寺。子どもたちの公募作品は本通り商店街で飾り、油絵教室「ビスターレ」は大山町の公民館で作品展示しました。まさに街あげての〝美術館〟です。

そのいくつかをのぞきました。皆生通りのシルクはうすでは、たたみの展示場で米子美術家協会（八尾洋一代表）の22人が思い思いの大山を描いて出品。浜野洋一さんの油彩の大作「鏡ヶ成秋彩」（120号）がひときわ目を引いていました。天満屋のバンケットルームでは米子工芸会（大谷治代表）や書のグループがコラボ出展。中村武志さんは弓浜絣で「大山寺縁起絵巻」を織り、鰤岡教代さんは編み物で大山をイメージしたセーターなどを作りました。

チャーチル会米子は会員が2年がかりで描き、日本海新聞に連載した「わたしの大山」の原画53点を丸京庵市民ギャラリーに並べました。小谷悦夫幹事長は「チャーチル会は来年60周年。この大山の原画を出版します」と張り切っていました。

大山芸術祭実行委員長の西村偉さんは言います。「四季折々に美しい大山は、郷土の作家の題材になり、たくさんの作品が生まれ、芸術家を育ててきました。子どもたちにも郷土の良さを知ってもらうために参加してもらい、多くの団体の協力を得て芸術祭を開きました。大山開山1300年祭だけのイベントに終わらせず、いつまでも続けていきたいものです」と。

米子市には市美術館の応援団があり、その市民運動をバックにして形づくられた大山芸術祭は、米子らしい芸術・文化活動のたまものといえそうです。

大山芸術祭・米子天満屋会場

大山芸術祭・シルクはうす会場

カランカラン鳴らしてね　　山口輝幸さん

2018 年 8 月 17 日

鳥取市佐治町の人権センターで夏休みものづくり教室があり、佐治小の児童たちが竹の風鈴づくりに挑戦しました。大人も含めておよそ40人が参加しました。

佐治人権センターは夏休みや冬休みを利用して、和紙や草花など地域に身近にある材料を使ってものづくり体験をしており、今回は近くの山から竹を切り出して風鈴をつくることにしました。

指導したのは山口輝幸さん。庭づくりをはじめ、流木を使った木工や竹細工が特意で、子どもたちや高齢者などにものづくりの楽しさを伝えています。

竹の風鈴は直径8cmほどの竹筒に、やはり直径1cmほどの細竹を差し入れるだけのものですが、節にキリで穴をあけ、タコ糸で細竹をつるす細工が難しいところ。佐治日赤奉仕団（竹本隆委員長）のみなさんも「ああでもない」「こうでもない」と、工夫を凝らしてお手伝いしました。お父さんと一緒に作品を仕上げた6年生の下田崇広君は「竹を切ったり、穴に糸を通すのが難しかったが、楽しかったです」と満足そうでした。

風鈴には100円ショップで求めた小鈴を取り付けたり、多彩な絵柄のシールを張り付け、それぞれオンリーワンの風鈴を仕上げました。ものづくり教室の応援に来た佐治小学校の秋田易子校長は「風鈴は学校に持ってきてカランカラン鳴らしてください。出来栄えの感想も発表してください」と激励していました。

山口輝幸さん

大人も交じって懸命に風鈴づくり

「できたぞー」竹風鈴
（右から６人目が山口さん）

維新の魁・鳥取藩の映画完成　　鳥取歴史振興会

2018 年 8 月 19 日

明治維新の魁になった鳥取藩の功績を明らかにするため、鳥取歴史振興会（森本良和会長）は映画づくりを進めてきましたが、維新150年の今年、最終の10作目を仕上げ、鳥取市の県立博物館で完成記念上映会を開きました。

維新の魁・鳥取藩の映画は、維新の先頭を走った鳥取藩の幕末維新史を広く知ってもらうため、2012年から足掛け6年にわたって制作したもので、池田慶徳が鳥取藩主になった嘉永3年（1850年）から官軍鳥取藩十三番隊山国隊が京都に凱旋する明治2年（1869年）までの20年間を「鳥取勤王二十二士事件」「鳥取龍馬伝」「荒尾駿河の大英断」など10のエピソードに分けて映画化したものです。

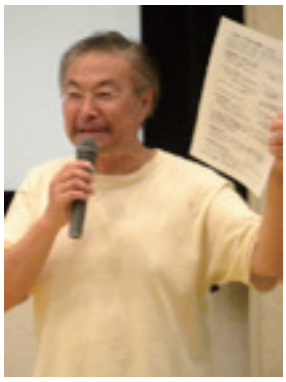
最終10作目は「戊辰の魁～鳥取藩十三番隊山国隊」。1時間15分に及ぶ力作で、これまでの作品の回想シーンも入っています。

あらすじは戊辰戦争の初戦、鳥羽伏見の戦いに勝った官軍は江戸城を目指しますが、その鳥取藩の部隊には京都の農兵隊・山国隊が十三番隊として加わります。隊長は二十二士事件のリーダー河田佐久馬、山国代表は藤野斎。狩猟で鍛えた射撃の腕で甲州勝沼、野洲安塚、江戸・上野など各地で活躍し、京都凱旋の際には「ピーヒャラピーヒャラ」の軍楽を演奏しながら錦旗とともに行進する様子を描いています。

回想シーンのハイライトは、西郷隆盛の手紙が岡山藩の在京家老・土倉修理之介に届き、鳥取藩在京家老・荒尾駿河が勤王の立場を表明した一幕でしょう。ほどなく始まった鳥羽伏見の戦いで鳥取・岡山両藩はいち早く官軍につき、実の兄弟の徳川慶喜を見限ったことで、諸藩の動向も決まっていったといいます。ちなみに西郷の手紙は鳥取市の歴史博物館が所蔵しています。

討幕で功績を残した鳥取藩でしたが、明治新政府の評価は芳しいものではありませんでした。明治22年に戊辰戦争絵巻がつくられました。鳥羽伏見の戦いの淀千両松の絵巻には、鳥取藩は長州藩の前て戦っている様子が描かれていますが、肝心の鳥取藩の大砲が松の絵で意図的に隠されてしまっています。

映画監督を務めた森本会長は「鳥取藩は徳川一門ということで、記憶、記録から抹殺され、維新の主役から外されましたが、主役は薩長土肥ではなく薩長因備だったということです。維新200年の時は薩長因備が主役だったと言われるよう、県民運動を続けていきましょう」と訴えています。



森本良和さん

京都の時代まつりにも登場する山国隊

戊辰戦争絵巻に描かれた因州兵

米子の日本遺産を歩く　　米子観光まちづくり公社

2018 年 8 月 23 日

米子市の中心市街地で加茂川まつりがありました。これに合わせて大山開山1300年祭記念事業・大山講座の「米子のお地蔵さんめぐり」も開かれました。約50人が参加し、米子観光まちづくり公社のみなさんが400年の歴史が残る米子の町を案内しました。新日本海新聞社、鳥取県社会福祉協議会など共催。

大山は地蔵信仰の発祥地。生きとし生けるものすべてを救うという教えで全国に広まり、大山には全国規模の牛馬市が育ち、和牛づくりの礎になりました。また、米子の地蔵まつりは江戸時代に京都の地蔵盆の風習が里帰りして始まりました。このような大山とその山麓に伝わる数々の歴史文化が日本遺産に認定されました。

一方、米子の町は吉川広家の米子城築城とともに始まりました。関ケ原の戦いの後、中村一忠の家老・横田内膳村詮が城づくり、城下町づくりを仕上げました。1602年ごろといいます。その後、一国一城令があり、米子城は城主不在ながら、明治の初めまで残りました。取り壊されなかった理由は不明ですが、「日本海を臨む海城としての価値が認められていたからでは」というのが専門家の推測です。

その米子城の外堀が加茂川です。武家屋敷と町家を隔て、物資輸送の運河としても活用されました。町の出入り口となる橋のたもとには、お地蔵さまがまつられました。宮大工の彦祖が川で亡くなった子供を供養するために、ほこらを建て、36地蔵をまつったのが始まりといいます。米子は火事など大きな災害や戦災がなかったことから、町割りも地蔵も暮らしの小路も、ほとんど昔のまま残りました。

米子の観光ガイドを運営する米子観光まちづくり公社・川越博行理事長は「加茂川沿いにはお地蔵さんが50体を超え、町家づくりも多く、小路も100カ所ほど残っています」。周辺の町から商人を集めてできた米子の町が、いつしか山陰を代表する歴史文化の町に育っています。

さて、加茂川沿いのお地蔵さんめぐりは小川雅さん、安藤和信さん、秋草治道さん、岡田信行さん、冨田彰さんの5人が案内しました。参加者は紺屋町や天神町など地蔵盆でにぎわう町々をおよそ2時間、5km歩き、米子400年の歴史や町並みなどを学びました。ゴールの加茂川広場では春蘭会（山岡福美子代表）の「米子が大好き」という加茂川音頭踊りを見学しました。米子暮らしが長いという女性は「知らないことばかりで勉強になりました。もっと、まち歩きしなくては」と話していました。

米子地蔵巡りをガイドしたみなさん

笑い地蔵

春蘭会の加茂川音頭踊り

関金もたたらの里　　中部ものづくり道場

2018 年 8 月 25 日

関金や三朝など東伯耆も奥日野と並んで「たたら製鉄の里」だったことが知られていますが、倉吉市と中部ものづくり道場は大山開山1300年祭にちなんで、原料集めからナイフづくりまで行う「ミニたたらワークショップ」を開いています。そのたたら操業をのぞきました。

ミニたたらワークショップは昨年の関金温泉開湯1300年祭で発案されたもので、かつて関金地区16カ所で操業していたたたら製鉄を再現し、観光資源としての可能性を探ろうと計画されました。

作業は6月から始まり、関金町小泉の清流遊YOU村で炭づくりを行い、ナラ材などから170kgの炭をつくりました。次は砂鉄集め。北栄町のキャンプ場で水力で砂鉄と砂を分離し、磁石で40kgほどの砂鉄を集めました。四国・高知の鉄づくり工房からプロパンガス容器を組み立ててつくった炉（高さ1．6m、内径36cm）を取り寄せ、いよいよ鉄づくりです。たたら操業は関金町堀のやまもり温泉キャンプ場であり、県内外から17人が集まりました。

一連の作業を指導したのは中部ものづくり道場の岡本尚機代表はじめ、福田愛治さん、石原永伯さんの3人です。

炉に粘土を塗り、朝8時に火入れです。炉の温度が1300度に上がった昼過ぎから5分おきに炭、砂鉄それぞれ1kgを投入。ポンプで風を送り続け、午後4時前に炉の吹き出し口から溶岩状になったノロが流れ出しました。鉄ができた証です。参加者から大きな拍手が起こりました。使った炭は24kg、砂鉄は22kg。汗を出し切った岡本代表はホッとした表情で「7～8kgの鉄ができていればいいですね」。数日後に炉から鋤（けら）を取り出したところ、約6kgの重さがありました。鉄板にして使います。

岡本代表によると、たたら製鉄は日本独自の技術で酸化鉄の還元反応を利用したものです。砂鉄に含まれる酸素や不純物を炭と一緒に燃やすことで鉄に戻します。950度以上の高温が必要で、不純物がノロとなって流れ出てくるそうです。

最後の総仕上げは倉吉市広栄町の八島農具興業でナイフづくりを行います。

炭づくりから参加している元学校教師の徳田修二さん（岩美町）は「ものづくりが好きで参加しています。いろんな体験ができて楽しいです。オリジナルのナイフづくりが楽しみ。このワークショップが定期的な体験教室に発展するといいですね」と話していました。

岡本尚機さん

関金の里でたたら操業体験

ノロが出てきた！

日野川を「写真する」　　石丸なつ子さん

2018 年 8 月 25 日

日野川の源流と流域を守る会（会長・豊島良太鳥取大学長）は日野川流域で写真塾を開きました。講師は鳥取県写真家連盟運営委員の石丸なつ子さん。11人が参加し、「写真する」心と技を学びました。

日野川写真塾は日野川の魅力と恵みを多くの人に知ってもらうため、3年前から開いているもので、植田正治写真美術館講師でもある石丸さんが指導しています。今回は日野川河口からスタートし、伯耆町の写真美術館や鬼守橋、江府町の旧江尾発電所、日野町の根雨宿などを回り、日野振興センターでこの日撮った写真を大画面に映し出しながら合評しました。

日野川河口では一直線に伸びる堤防道路を使って遠景の山々の切り取り方や横写真にして広い川幅の表し方、写真美術館では広々とした階段や庭などを使ったポーズ写真や大山の撮り方なども学びました。

石丸さんによると、写真は自分のモノの見方を伝える手段なので、伝えたいモノやコトは何かを明確にすることだといいます。そのためには、いらないものを省いて画面を単純化させ、例えば日野川の光、水の美しさ、環境のすばらしさなどを撮ります。風景には小さくてもよいから人やネコなどを入れると温かみが出てくるとアドバイス。ただし、写真の出来栄えはピント合わせとプリント次第と念を押していました。

日野川の源流と流域を守る会は日野川流域の自然や里山の風景、人々の暮らしぶりや文化などを伝える写真コンテストを続けており、今年は9月末まで公募し、来年2月には入選作を決め、写真展やPR冊子などに活用することにしています。

石丸なつ子さん

日野川写真塾（日野川河口）

大画面で写真の出来栄えをチェック

哀愁のトランペッター　　田中みつとしさん

2018 年 8 月 28 日

県民総合福祉大会が米子市の米子コンベンションセンターであり、鳥取県や鳥取県社会福祉協議会などが福祉の推進で活躍した344人、18団体を表彰しました。また、境港市社会福祉協議会が上道地区の「あったかハートおたがいさま事業」の成果を発表し、NHK手話ニュースの中野佐世子さんが講演で「心のバリアを外しましょう」と訴えました。シニアバンクからはトランペット奏者の田中みつとし(本名・光寿)さんが出演し、大会を盛り上げました。

田中さんは北栄町在住のプロのトランペッター。東京藝大音楽学部器楽科卒業後、「トランペットの詩人」と言われたイタリアの故ニニ・ロッソの指導を受け、ニューヨーク、モスクワ、中国などの文化交流コンサートに参加し、民音コンサートなどに出演してきました。帰郷後は米子、松江市などでミュージックスクールの講師を務め、これまでに「にっぽんの詩」「ふるさとの詩」「漁火のトランペット」「そよかぜのトランペット」などのアルバムを制作発表し、北栄町歌や音頭の作曲・編曲も担当しました。

福祉大会ではアトラクションに出演し、アルバム「そよかぜのトランペット」から「谷間の鐘」をはじめ、「マイ・ウェイ」「この素晴らしき世界」の3曲を演奏しました。プロの技でさわやかなメロディー、哀愁を帯びた音色を会場に届け、「この素晴らしき世界」ではルイ・アームストロングばりに、あのしわがれた温かみのある独特の音色を披露し、大きな拍手を集めました。

田中さんは現在フリー。地元の道の駅「大栄」のレストランで定期的にディナーショーを開いています。

福祉大会表彰式
（贈るのは鳥取県社協の藤井会長）

田中みつとしさん

盛況の県民総合福祉大会
（米子コンベンションセンター）

豪円さんが来た～！　　吉島潤承さん・北村隆雄さん・田中精夫さんら

2018 年 9 月 8 日

鳥取県ゆかりの人物を主人公にした歴史大河ドラマを推進する会は、米子市の淀江文化センターで平成30年度の候補選考会を開き、比叡山や大山を復興した江戸時代の名僧豪円を選び、大山開山1300年の節目に花を添えました。鳥取県の大河ドラマ候補は前年に選んだ岩美町の外交官兄弟、澤田節蔵・廉三と美喜、女性解放の先駆者となった童謡「赤とんぼ」の母・碧川かたに次いで3作目で、推進する会は広く県民運動を起こしてドラマ化を実現したいとしています。鳥取県社会福祉協議会・とっとりいきいきシニアバンク「生涯現役」共催。

選考会の対象になったのは、①近代稲作の父・中井太一郎(発表者・北村隆雄さん)②「三日月に祈る」山中鹿介と亀井茲矩（田中精夫さん）③比叡山などを復興した大山の名僧豪円(吉島潤承さん)—の3作。それぞれ豊富な資料や書籍を基に、映像や電子紙芝居を駆使して先人たちの偉業をわかりやすく紹介。会場にはそれぞれの関係者も詰め掛け、選考の成り行きを見守りました。

選考は来場者全員の投票で行い、投票総数143票のうち名僧豪円88票、中井太一郎41票となり、豪円さんが新たに鳥取県の大河ドラマ候補に加わることになりました。

推進する会によると、先行の2作と同様、豪円和尚の偉業や功績を広く県民に知ってもらうため、リーフレットなどを作成するとともに、NHKなどテレビ局にドラマ化を働き掛けたいといいます。先行の2作については、それぞれ研究会ができ、ドラマ化に必要な原作本づくりや署名運動、資料展開催などが進んでおり、「赤とんぼの母」は兵庫県・たつの市と連携して市民劇が計画されています。県民の盛り上がりがドラマ化実現の必要条件といいます。

さて、選ばれた豪円とはどのような人か。発表者・吉島さんによると、全国的には無名に近いものの、西日本天台宗の別格本山、比叡山延暦寺・備前金山寺・伯耆国大山寺を復活した和尚さんです。いずれも戦国時代に焼き討ちにあって消滅しましたが、天皇や豊臣秀吉、徳川家康など、時の権力者を動かして再建にこぎつける活躍をしています。大山寺は鎌倉時代、寺領6万石、160の僧坊と3千人の僧兵を誇りましたが、内部抗争などで消失、荒廃していきます。これを復活させたのが豪円和尚で、家康から3千石のご朱印状を得て、大山寺は消滅を免れました。大山北壁を望む豪円山には豪円地蔵がまつられ、命日の6月5日には供養が続けられているそうです。

吉島潤承さん

田中精夫さん

北村隆雄さん

大山などを復興した豪円さん

大河ドラマ候補認定書

おじいさん・おばあさん、おめでとう！　　山下眞一郎さん

2018 年 9 月 10 日

鳥取市の介護施設、スマイル富安とまさたみの郷で敬老会があり、山下眞一郎さんがマジックを披露しました。入所者は驚きの連続で楽しいひと時を過ごしました。

デイサービスのスマイル富安は9月10日が敬老会。入所者、職員合わせて約30人が合唱やマジックショー、カラオケなどを楽しみました。合唱は「ふるさと」と「青い山脈」。歌いなれている楽曲とあってか、手拍子も入り、歌詞カードなしで元気よく合唱しました。

続いて山下さんのマジックショー。ベンチャーズサウンドに合わせて、赤いスカーフの中からハトが飛び出すと、一斉に「オーッ」という歓声が上がりました。山下さんによると、いま飼っているハトは4羽、最盛期には18羽いたそうです。カード遊びやロープ遊びの後は、新聞を折りたたんで水を入れたり、出したり。これまた参加者は「びっくりしたなー、モー」と大喜びでした。リーダーの上山千奈美さんは「シニアバンクのレベルの高い手品を見せてもらい、みんな感激しています」と話していました。

介護老人保健施設・まさたみの郷の敬老会は9月14日。約100人の入所者は日本舞踊や銭太鼓、マジックを楽しみました。ここでも山下さんはハト、火、水、ロープなどを駆使して、いろいろな手品を披露。新聞を使って真水を赤色の水に変えると、会場から「スゴイ」と大きな歓声が上がりました。事務長の山本卓男さんは「間近に手品を楽しんでいただき、いい敬老会になりました」と感謝していました。

ハトを出す山下眞一郎さん

新聞から色付きの水を取り出す山下さん
（まさたみの郷で）

職員も加わってマジックのロープ芸
（スマイル富安で）

ふるさと博士、妖怪を語る　　濱田英一さん

2018 年 9 月 14 日

鳥取市の高齢者大学「尚徳大学」は市文化センターで郷土コースを開き、「とっとりジゲ自慢101選」などふるさとシリーズ本著者濱田英一さん（鳥取県地域社会研究会顧問）から鳥取県内に伝わる妖怪について話を聞きました。100人余りが聴講しました。

濱田さんは元高校社会科(地理)の教師。「ふるさと鳥取の横顔」「ふるさと鳥取を読む」「ふるさと鳥取の暮らし」などを書いた〝ふるさと博士〟。平成14年から尚徳大学の講師も務め、ことし米寿を迎えました。新聞の読者欄に毎月投稿を欠かさず、「元気の秘訣は文章を書くこと」だそうです。

この日の講座のテーマは妖怪。濱田さんによると、妖怪と幽霊の違いは、妖怪は相手を選ばず、出るところが決まっているものの、幽霊は恨みのある人にだけ出るそうで、妖怪は夕暮れどきや夜明け、幽霊は真夜中や夢の中が多いといいます。

全国妖怪事典によると、日本の妖怪は740ほどいるそうで、妖怪漫画家の故・水木しげるさんは千くらいいると語していたそうです。鳥取県には音の妖怪(小豆洗い、茶釜下ろし、呼ぶ子)▽動物の妖怪(慶蔵坊狐、つき蛇、槌転び、がま、牛鬼)▽雪の妖怪(雪女)▽水の妖怪(河童)―などがいて、全国で一時ブームになった槌転び(ツチノコ)は三朝町小鹿、関金町犬挟、鹿野町河内などに伝わっています。

濱田さんは牛鬼（ぎゅうき）伝説について研究成果を報告しました。牛と鬼の体を持ち、老人や子どもを食い殺すという狂暴な妖怪で、福井・滋賀・鳥取・岡山・高知など稲作が盛んな西日本を中心に14県に伝わっているといいます。川の渕や海辺に現れることが多く、岡山県の牛窓町、山口県の牛島、鳥取県では気高町姫路、日南町福栄などがゆかりの地だそうです。

濱田さんは「牛は農家にとって家族同様に大切な家畜なので、大切に育てられなかった牛は牛鬼に化けて田畑や人畜に災いをもたらすと言い伝えたのではないか。子どもたちにも山や海、川など危険なところへの出歩きを戒めたものではないか」と考えています。

人助けの牛鬼もいます。愛媛県宇和島では魔物を追い払う聖獣とされています。毎年7月22～24日の和霊大祭には赤布やシュロで覆われた大きな牛鬼が登場し、商店街を練り歩きます。この牛鬼に頭をかんでもらうと賢くなるといわれ、祭りの主役です。2003年からは倉吉市の打吹まつりにも招かれ、倉吉の白い牛鬼と交流が続いています。

濱田さんは「かつてはタヌキが蒸気機関車に化け、電化になって消えました。口裂け女は岐阜県で発祥し、全国に広まりました。妖怪は世に連れ、時代に連れて出てきます」と解説していました。

濱田英一さん

牛鬼伝説を学ぶ尚徳大学

赤と白の牛鬼（倉吉市提供）

尺八とギターで敬老会　　キタローズ

2018 年 9 月 14 日

米子市の軽費老人ホーム福原荘で敬老会があり、境港市のキタローズ（赤石有平代表）が尺八とギターの演奏でお祝いしました。入居者など約40人が参加しました。

キタローズは都山流尺八師範の赤石さんと同級生３人組でつくったバンドです。尺八とギター、ベースで、童謡から歌謡曲まで幅広く演奏しており、施設などからの出演依頼が続いています。

福原荘の敬老会では、尺八をリードに「かあさんの歌」「与作」「ゲゲゲの鬼太郎のテーマ」「ふるさと」など9曲を披露。尺八の深い音色とギターの音色がきれいに重なり、しっとり聴かせました。参加者にとってなじみの曲も多く、手拍子が自然とおこり、なかには口ずさむ人も。合唱もあり、会場は盛り上がりました。

赤石さんは「みなさん、これからも元気で長生きしてください」と呼びかけました。

キタローズ

福原荘敬老会

おいしい調理実習いかが？　　鍛治木いつ子さん

2018 年 9 月 19 日

交通事故を克服して調理講師に復活された女性がいます。東伯郡琴浦町の食文化研究家・鍛治木いつ子さん。長く鳥取県栄養士会長を務め、米粉食品普及などに努めた人で、鳥取県労働局の高齢者スキルアップ・就職促進事業で調理補助の人づくりに励んでいます。鳥取市の講習現場にうかがい、その生涯現役ぶりを拝見しました。

鍛治木さんは昨年１月、交通事故で足に大けがを負って車いす生活となり、夏ごろになってツエを頼りに外出できるまでになりました。まだ痛みは残るものの、鳥取労働局の「パソコンも学べる調理補助講習」(日建学院運営)の講師を引き受け、８月から１２月まで5カ月間（１会場６日間）、合わせて３０日間の調理実習を担当しています。

鍛治木さんの講座は本格的です。衛生管理、栄養の基礎、食事のバランスと減塩、食の安全―などの座学に加えて調理実習があります。実習でつくるのは鍛治木さんが長年にわたって自ら開発した「カネ、ひまかけず、（食材の）ムダない」料理と鳥取県伝来の料理。参加したみなさんは「初めてつくるものばかり」で、驚きの連続です。

そのひとつ、県中部に伝わる「請茶（うけぢゃ）」もありました。もち米、水、炒（い）った黒大豆、梅干し、砂糖で炊いたお茶請け料理で、黒豆と梅干しでできる赤色(アントシアニン)の団子でお客さまを囲炉裏（いろり）端でもてなすそうです。いまでは囲炉裏が消え、作る人もいませんが、鍛治木さんは「朝鮮半島から伝わった由緒ある料理。体にも良い料理は残さなければ」とがんばります。

この日作った料理は①いただき②かぼちゃサラダ③煮なます④フルーツ・ヨーグルト⑤砂丘焼き―の５品。いただきは弓ヶ浜半島の郷土食です。三角油揚げに米とニンジン、ゴボウ、シイタケなどを詰め込んで炊き上げたもので、ところによっては「ののこ飯」ともいいます。鍛治木さんは「いただきは形が大山に似ているから。あるいは手間ひまかかる料理なので、いただけば、ただただ感謝です」など、名前の由来を解説しながら作り方を指導しました。砂丘焼きは米粉、長いも、砂糖などでつくるもので、干し柿、ブドウ、アーモンドなどをトッピングすると、楽しいクッキーになりそうです。

鍛治木さんは「調理講習で多忙ですが、合間を縫って薬膳や野草や一汁一菜をテーマにした本を書き残したい」と意欲的です。

鳥取労働局の「パソコンも学べる調理補助講習」は参加無料、材料代不要。お問い合わせは日建学院鳥取校へ(電話0857-27-1987)。

鍛治木いつ子さん

おいしい調理講習

「いただき」料理できました

鳥取県には家持も憶良もいた　　根鈴輝雄さん

2018 年 9 月 22 日

因幡守で日本最古の歌集・万葉集を編集したとされる大伴家持の生誕1300年にちなんで、鳥取市の因幡万葉歴史館で万葉集講座が開かれていますが、2回目の講座があり、倉吉博物館長の根鈴輝雄さんが「万葉歌人　山上憶良の歌と治政」について講演しました。40人余りが聴講しました。

山上憶良（660～733年）は42歳の時、遣唐使書記に選ばれて貴族の仲間入りを果たしますが、なかなか出世に恵まれず、やっと57歳で一国一城の主、伯耆守となり、67歳で筑前守となります。筑前守時代、上司の大宰府長官・大伴旅人（家持の父）と交友を重ね、歌づくりに励みます。都に帰ったのは72歳の時。各地で見聞きした民衆の困窮ぶりを訴える「貧窮問答歌」を残しました。

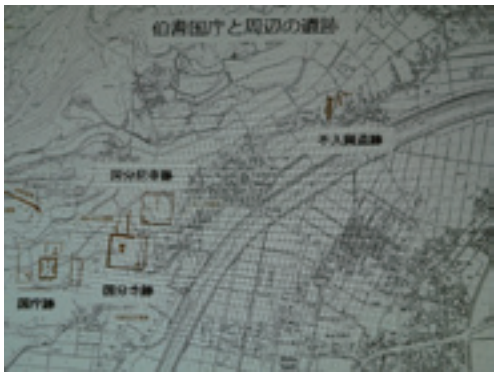
その問答歌には「風交り　雨降る夜の　雨交り　雪降る夜は　すべもなく　寒しくあれば　堅塩を…」とあることから、雪降る伯耆の貧しさを詠んだものではないかという意見もあるそうですが、根鈴さんは「苦労人なので、各地の実情を詠っている」と見ています。

根鈴さんによると、万葉歌人たちは心情を歌に込めて歌っており、和歌は出世の道具でもあったといいます。憶良の歌は子や妻を思いやる気持ちや貧しい人たちの苦しい生きざまを詠んだものが多く、思いを素直に吐き出す歌人だったようです。遣唐使で中国にいるときは「いざ子ども　早く日本へ　大伴の　御津の浜松　待ち恋ひぬらむ」、旅人が帰京する際は「我が主の　みたまたまひて　春さらば　奈良の都に　召し上げたまはね」などと歌で訴えています。

倉吉市は憶良が伯耆守で赴任していたことを記念して南昭和町の児童公園に「しろがねも　くがねも玉も　何せむに　まされる宝　子にしかめやも」という歌碑を設けていますが、万葉集には憶良の歌が78首収められています。

憶良は716年、伯耆守として当時国庁のあった不入岡へやってきます。上国の因幡国や伯耆国は職員定数437人と定められていたようで、ここで徴税や都への特産品輸送にあたります。不入岡は国府川そばで低地にあったことから、8世紀後半には高台にあるいまの国庁跡（倉吉市国府、国史跡）に移りますが、根鈴さんは「中国大陸や朝鮮半島の最前線に位置する伯耆国国庁は防御を兼ね備えた場所にあるべき」とする渡唐経験のある憶良の進言を入れて実現したと見ています。国庁、国分寺、国分尼寺は四王寺山に守られるように集中していますが、伯耆国庁の移転は外交政策の一環だったと推理しています。

根鈴輝雄さん



伯耆国庁と周辺の遺跡

山上憶良の歌碑
（倉吉市南昭和町、児童公園）

鳥取の気持ち、岡山へ届けよう！　　バードベンチャーズ・西小路晴子さんら

2018 年 9 月 24 日

西日本豪雨災害支援を目的にした鳥取砂丘ライオンズクラブ（岸田栄樹会長）のチャリティーバザーが鳥取駅前の風紋広場であり、シニアバンクに登録のバードベンチャーズや西小路晴子カラオケ教室のみなさんが出演し、義援金集めに一役買いました。

鳥取砂丘ライオンズクラブは今年結成30周年。県東部に6つあるライオンズクラブのなかでは最も若いクラブながら、毎年開いているチャリティーバザーは20回を数え、風紋広場の名物行事になっています。今回も会員から遊休品を提供してもらい、市民に格安販売したほか、賛助店のカレーやラーメン、パンなどの飲食バザーも並び、「1円でも多く被災地へ届けよう」とがんばりました。集まった義援金は倉敷市のライオンズクラブを通じて関係機関へ届けられることになっています。

ステージでは八頭郡若桜町出身の演歌歌手・宝田みどりさん（キングレコード）の歌謡ショーがあり、「鳴砂みさき…日本海」の新曲紹介もありました。青谷町の鳴き砂の浜・井出ヶ浜を歌ったもので、シニアバンク登録の廣澤孝彦さん（鳥取市観光大学講師）が作詞しました。「キュキュキュと鳴くのです」が耳に残るいい歌です。バードベンチャーズも元気よく「ダイヤモンドヘッド」「ベサメムーチョ」などを13曲披露しました。

恒例のチャリティーカラオケもありました。ワンコーラス1，000円、ツーコーラス2，000円を寄付して歌うもので、西小路晴子カラオケ教室の生徒のみなさんはじめ、ライオンズ会員、飛び入りの観客など合わせて39人が出演。それぞれ日ごろの練習の成果を発表し、カラオケ仲間や市民から大きな声援を受けました。フィナーレは岸田会長が手拍子のなか、24時間テレビ・愛は地球を救うのテーマ曲「サライ」を歌い上げ、4時間にわたるイベントは幕となりました。

バードベンチャーズ

宝田みどりさん

鳥取砂丘ライオンズクラブのみなさん

天下一品だった佐治漆　　橋谷田岩男さん

2018 年 9 月 26 日

八頭郷土文化研究会（徳永耕一代表）は鳥取市の用瀬町民会館に漆芸・漆研究家の橋谷田岩男さん（智頭町）を招き、佐治漆の栄光の歴史を聞きました。佐治漆は300年の歴史があり、天下一品の評価を受けながら消えてしまいましたが、橋谷田さんは「佐治漆は日本のどこにもない固有種。漆産業を復活させたい」と報告していました。

橋谷田さんの調べによると、佐治漆は江戸時代の元禄期から栽培が盛んになり、佐治川右岸の加瀬木や加茂などが産地だったといいます。県内有数の降雨量を誇る変成岩地帯で、幕末期には漆木3万本、漆1千kgを生産。鳥取藩は用瀬宿に買取座を設けて管理し、賀露から大阪や能登などへ運び、鳥取藩の大きな財源にしたといいます。

ちなみに現在の漆の国内生産量は約1千kg（平成26年、農水省調べ）。産地は岩手の645kgがトップで以下、茨城、栃木などが続きます。これを見れば、かつての佐治が一大産地だったことがよくわかります。いま漆の年間需要量は50トンですから、国産はわずか2%にすぎません。ほとんどが中国産です。

データによると、鳥取県の漆生産量は明治35年1，691kg、昭和16年563kg、昭和36年1，568kg（全国生産18，627kg、本県シェア8．4%）など。漆は工芸品だけでなく、自動車や機関車など工業製品の仕上げ塗装にも使われ、戦時中は火薬の湿気防止のために大砲の弾倉にも塗られるなど、その特需で漆生産農家は潤ったといいますが、昭和42年ごろスギ、ヒノキ、和紙、ナシなどに押されて300年の歴史を閉じました。

橋谷田さんたちは平成28年、漆産業の復活を目指して佐治漆研究会をつくり、苗木の植栽などに取り組むとともに、京都府立大に委託して佐治漆のDNA検査も行いました。それによると、日本国内で見つかっている22個体とは別の遺伝子を持つ固有の漆木であることが分かったといいます。たんぱく質や漆の研究で知られる鳥取大農学部の角倉邦彦教授（有機微量分析学）は生前、佐治谷や佐治漆について「品質良好、日本一のものを産す」と評価していたそうで、改めて関係者の関心を集めています。

橋谷田さんは「佐治漆は固有のもので、天下一品のブランドと分かった。樹液が採れるようになるには10年かかるが、佐治谷のみなさんと連携して観光にもつながる産地形成をしていきたい」と話していました。

橋谷田岩男さん

かつて用瀬宿は佐治漆の集散地だった

江戸時代の佐治町加瀬木村の漆畑分布場所
（鳥取県立博物館蔵）

万葉の地で千年の歌舞　　鳥取雅友会・アールファイブ

2018 年 9 月 29 日

因幡国司で万葉集の編集者とされる大伴家持の生誕1300年を記念して鳥取市の因幡万葉歴史館で、和歌と雅楽と演劇とダンスが融合した「雅楽舞楽の宴」があり、およそ80人が鑑賞しました。

因幡万葉歴史館がふるさと鳥取の魅力を再発見してもらうために開いたもので、節目の年を祝って例年の雅楽演奏に創作劇を加えてスケールアップしました。

協力したのは地元の国府東小学校、鳥取敬愛高校演劇部、鳥取シティバレエ。シニアバンクからは演奏で鳥取雅友会（森川道弘代表）、音響・照明でアールファイブ（澤田勝代表）が参加しました。雅楽は若手奏者の森川代表はじめ、三代幸徳さん、三谷広大さんの3人で編成した雅楽烏（うたがらす）が担当、総勢20人余りで制作しました。

舞台はおよそ30分。家持と坂上大嬢の恋歌のやり取り、家持が因幡で詠んだ「新しき年の初めの初春の今日降る雪のいやしけ吉事」という新年の歌の朗詠やナレーションに合わせて幻想的なダンスや演劇が繰り広げられました。この創作劇を飾ったのが雅楽烏のBGM雅楽。笙（しょう）・龍笛（りゅうてき）・篳篥（ひちりき）などの楽器を駆使して「越天楽」などを演奏し、古の世界を演出しました。

三谷さんらによると、雅楽は日本古来の音楽と中国や朝鮮半島などから入ってきた音楽が融合して平安時代に完成したもので、貴族の中で一子相伝、今日まで千数百年守り伝えられてきたといいます。明治時代になって公開されたそうで、山陰では4つのグループが演奏活動しています。

鳥取雅友舎　雅楽烏

雅楽と演劇とバレエで万葉の里を表現

大伴家持創作劇出演のみなさん

鳥取の女性もすごい！！　　内田克彦さん

2018 年 10 月 2 日

鳥取市民大学の社会講座が市文化センターであり、鳥取県を舞台にした歴史大河ドラマを推進する会の共同代表・内田克彦さんが「鳥取ゆかりの人物再発見・女性編」について話し、日本初の女性の弁護士、農村の保健師、外交官は鳥取の人と紹介しました。

歴史大河ドラマを推進する会は、これまでに①岩美町出身の外交官兄弟・沢田節蔵・廉三とその妻美喜の「三愛のクニへ」②女性参政権運動の先駆けとなった看護師・碧川かたの「赤とんぼの母」③比叡山や大山を復興した江戸時代の名僧豪円―の3作品を大河ドラマや朝の連続テレビ小説の候補に選び、県民にPRするとともに、NHKなどにドラマ化実現を働きかけています。これからも引き続き人材を発掘し、鳥取県の歴史や魅力などを深掘りしていきたいとしています。

内田さんの講演はその一環で、これまでの研究成果を報告しました。それによると、鳥取の女性で日本最初の先人になったのは、弁護士の中田（旧姓田中）正子さん、農村保健師の吉田（鹿田）喜久代さん、外交官の山根敏子さんなどです。

中田正子さん（1910～2002年）は東京生まれ。父は汗入郡（現在・米子市淀江町）出身。東京の女子経済専門学校（現在は新渡戸文化学園）時代、民法学者の我妻栄に学んだことがきっかけになって法律の道を志し、明治大学へ。同じ大学の武藤嘉子さん（初の新潟家裁所長）、久米愛さん（日本婦人法律家協会長）とともに難関の高等試験司法科に合格。1933年の弁護士法改正で女性にも弁護士の道が開かれことで、中田さんは初の女性弁護士になり、夫の出身地の八頭郡若桜町に移り住みます。

夫は鳥取県議会議長や参議院議員になった中田吉雄さん。中田議長は県議会に全国初の図書室をつくり、正子さんは全国都道府県初の女性弁護士会長を務めました。

吉田喜久代さん（1914～1990年）は鳥取市生まれ。稲葉産業組合（現在のJA鳥取いなば）の田中新次郎組合長の勧めで訪問（保健）師となり、乳児死亡率が高かった農村を巡回し、保健衛生改善に励みます。これがきっかけとなって鳥取県は全国に先駆けて農村の保健婦づくりに取り組みます。吉田さんはその先頭に立ち、活動記録集「砂丘の蔭に」（昭和15年発行）はベストセラーになりました。

山根敏子さん（1921～1956年）は札幌市生まれ。津田英語塾（現在の津田塾大学）、台北帝国大学を卒業後、台湾軍で働いていましたが、戦後、父親の郷里の鳥取市に引き揚げてきます。県教育委員会事務局に勤めるかたわら、昭和24年に女性にも門戸が開かれた外交官試験を目指します。千数百人の受験者のうち合格したのは12人。唯一の女性合格者となり、岩美町出身の外交官・澤田廉三とともに日本の国連加盟、国際復帰に尽くします。日本初の女性外交官として大きな期待がかけられていましたが、航空機事故で帰らぬ人となり、津田塾大学などは山根さんの遺志を継いで女子学生のための「奨学基金」を設けています。基金の初代理事長は澤田廉三が就きました。

内田克彦さん

中田正子さん
（「日本初の女性弁護士展」から）

山根敏子さんと澤田廉三さん
（「鳥取 NOW」から）

方言は心地よい　　石川達之さん

2018 年 10 月 6 日

「鳥取県の方言の良さを再認識しよう」と、琴浦町のまなびタウンとうはくで「方言ナイト」がありました。湯梨浜町のシンガー・ソングライターで方言ソングで鳴らす石川達之さんが講師となり、参加者と方言談義。「方言は地域の財産」と意見一致しました。

このイベントは鳥取県の若者広聴レンジャー事業のひとつ。若者が地域の声に耳を傾けて地域課題を探り、その解決策を県に提案するもので、方言をテーマに活動している白石泰志さん（大山町）らが企画しました。公立鳥取環境大学で倉吉方言などを研究している桑本裕二教授（言語学）など約30人が参加しました。

講師の石川さんは、2001年に方言ソング・アルバム「こばしま（おやつ）」を出して一躍有名になり、県中部のおばちゃんを題材にした方言ソングや「牛骨ラーメン」などのご当地ソングを発表しています。

石川さんの話は軽快です。東京の学生時代、バスの運転手に「お金をめいでください」とお願いしたら、びっくりされたとか、友達に「二日酔いでえらい」と言ったら、「お前はそんなに立派か」と誤解されたなど、方言の失敗談が続きます。東京・岡山・山口などでコンサートしてきたものの、「何を歌っているのかさっぱりわからん」としかられてきたそうです。

それでも石川さんは、「ふるさとの言葉で歌いたい。方言でないと伝わらないものがある」と力説。試しに県中部のおばちゃんの疑問「贈答編」を標準語と方言で歌い分けました。標準語の歌に比べて方言やなまりが入った歌の方が、歌詞の意味も深みも大違いです。石川さんは「やっぱり方言が入った歌は心地よい。方言ソングはお客さんも盛り上がります」と紹介していました。

桑本教授によると、そもそも方言は標準語には変換できないそうで、例えば「いけらーせんがな」（だめだよ）を標準語にすれば、「いけるということはしない」になり、意味不明になってしまいます。方言は外国語、奥深いところは方言でないと言い表せないと指摘していました。

「方言ナイト」は参加者も加わって、方言のあれこれについて意見交換が続きました。白石さんたちは「方言は地域の財産」として、県のホームページに地域別の方言を掲載してもらうほか、「ふるさと教育」に方言も加えてもらうよう提案することにしています。

石川達之さん

広聴レンジャーの
白石泰志さん

方言にうんちくを傾けた
みなさん

こいこいこい福よ来い　　花えみの会

2018 年 10 月 7 日

「豊かな出会いで、人権あふれるまちづくり」をテーマに鳥取市気高町の気高人権福祉センターなどで「けたか人権文化祭」があり、交流ステージに演芸サークル・花えみの会（影山聡子代表）が招かれて南京玉すだれなどを披露し、喜ばれました。

けたか人権文化祭は作品発表のほか、バザー、交流ステージ、人権講演会などがありました。このうち、交流ステージには地元から輝夏太鼓（和太鼓）、脳はつらつ気高教室（音読）、気高琴和会（大正琴）、うたごえひばりの会（コーラス）、一二三会（民謡）の5団体が出演、日ごろの練習の成果を発表しました。

花えみの会は91歳を最高齢に11人がメンバーです。毎月、2回程度練習を重ね、県東部の介護施設や敬老会などを訪ね、ボランティア出演しています。この日は女性6人、男性1人の7人編成で南京玉すだれ、どじょうすくい、和洋のダンスを披露しました。

南京玉すだれは日本各地の名所を歌いこんでテンポよく作られており、花玉すだれは華やかで、「こいこいこいこい福よ来い、会場のみなさんに福よ来い」というフィナーレは大うけでした。また、男女2人のドジョウすくいはコミカルで、笑いの連続でした。ダンスもいきなハッピ姿とかわいらしいドレス姿の2本立て。多彩な演目で、舞台裏は早変わりで大忙し、客席は大喜びでした。影山代表は「喜んでいただけるだけで十分」と満足そうでした。

花えみの会の南京玉すだれ

花えみの会のどじょうすくい

花えみの会のダンス

脱却依頼心始為自治民　　伊藤康さん

2018 年 10 月 7 日

今年は明治150年。これを記念して鳥取市の鳥取県立公文書館は「明治時代の鳥取県」を開きました。公文書や新聞、写真などで明治維新から大正改元までの県政の歩みを紹介したもので、鳥取県にとっては廃止―再置など混迷、激動の時代でした。専門員・伊藤康さんのギャラリートークをのぞきました。

展示された資料は115点（初公開43点）。「鳥取県再置ノ件」の廟議議題（明治14年、国立公文書館所蔵）が目を引きます。太政大臣・三条実美や参議・山県有朋など5人が明治天皇に鳥取県再置の裁可を仰いだもので、その罫紙には「御巡幸中ニ付御裁可ノ御捺印ナシ」という張り紙もついています。形式的な会議だったことがうかがえます。

それにしてもです。鳥取藩は鳥羽・伏見の戦いでいち早く薩摩・長州軍に加わり、その後の戊辰戦争でも大活躍しました。明治2年の版籍奉還も薩摩・長州・肥前・土佐に続く早さで実行しましたが、なぜか明治9年には島根県に併合させられてしまいました。

伊藤さんは「権令・河田景与のあと県政の最高責任者になった参事の関義臣は明治5年、島根県を鳥取県に合併し、県庁を米子に移転するよう政府に願い出ており、これが逆手に取られたのでは」と推測しています。薩長が幅を利かす新政府。そこに人材を送れなかった鳥取県は混迷の時代を過ごします。今日の合区選挙区を暗示するような話です。

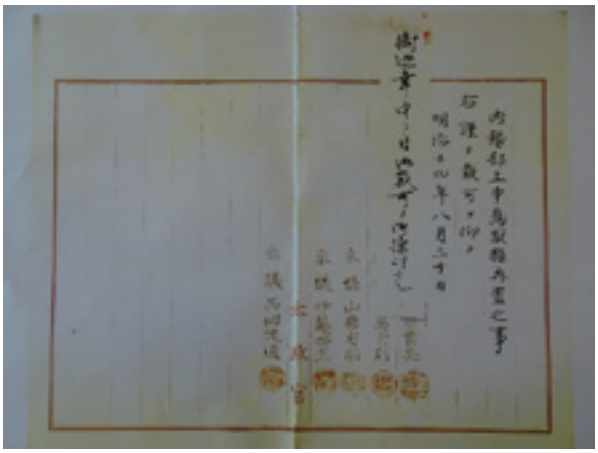
再置後の初代県知事になったのは山田信道です。在任7年余り。士族の北海道移住や道路網の整備などを進めました。鳥取を去るにあたって、「脱却依頼心始為自治民」という書を残しています。依頼心を捨てて初めて県づくりができる、自立心が大事というわけですが、その掛け軸も展示されました。伊藤さんは言います。「いま県人口が55万人台になると騒いでいますが、明治末は45万人でした。そこから県勢は発展してきました」

県政資料だけではなく、明治時代の県の基幹産業だった日野郡の「たたら製鉄」も紹介されています。圧巻は菰（こも）に包まれた玉鋼2包み。日野町根雨の鉄山師・近藤家に100年以上前から伝わる秘蔵品で、世界唯一の和鋼の塊です。近藤家には「たたら製鉄」の古文書10万点も残っており、県公文書館で解読、解明が進んでいます。日野郡の鉄づくりが明治の日本海軍を支えたとも言われています。

日本海新聞は今年、創刊135年。その源流となる「山陰隔日新報」第壱号（明治16年6月28日）も東京大学明治新聞雑誌文庫から〝里帰り〟展示されました。日本海新聞の題号は、ここを起点にしています。

どこにもない玉鋼を解説する伊藤康さん

脱却依頼心始為自治民



鳥取県再置を決めた議案

福岡山鉄鉱所

荒木又右衛門没後380年　　佐藤翔風さん・竹内道夫さん

2018 年 10 月 8 日

江戸時代の剣豪で三大あだ討ち（鍵屋の辻の決闘）で知られる荒木又右衛門の没後380年供養祭が命日にあたる10月8日、鳥取市の玄忠寺（田中博道住職）であり、詩吟や剣舞が奉納され、講話もありました。檀家など約100人が参列し、遺徳をしのびました。

荒木又右衛門（1599～1638年）は柳生新陰流の剣豪で、大和・郡山藩の剣術指南役。妻は岡山藩士・渡辺数馬の姉。数馬の弟・源太夫は岡山藩主の小姓でしたが、同僚の河合又五郎に殺され、又五郎は切腹命令を無視して旗本安藤家に逃げ込み、外様大名と旗本が対立する事件に発展しました。

岡山藩主の死去に伴い、幕府は岡山池田家と鳥取池田家の国替え、旗本の謹慎処分などで幕引きを図りましたが、主君の遺言で数馬は弟のあだ討ちの旅に出ます。助太刀したのが又右衛門。やがて数馬・又右衛門ら4人は敵を見つけ、三重県伊賀市の鍵屋の辻で待ち伏せ。河合方11人と決闘に及び、本懐を遂げます。1634年のことでした。その4年後、又右衛門らは鳥取藩に迎えられますが、又右衛門は鳥取到着後2週間ほどで急死します。命日は旧暦の8月28日でした。玄忠寺には大きな墓があります。

それから380年。供養祭は盛大に営まれ、吟道翔風流日本吟翔会の佐藤翔風宗家会長と大日本正義流剣舞術総本部の多田正満宗主が詩吟と剣舞で「荒木又右衛門の墓」を奉納したのをはじめ、鳥取湖陵高校の吟詠剣詩舞部や県剣道連盟の森本真一教士なども剣舞、居合道などで御霊を供養しました。

文芸史家・竹内道夫さんの講話「剣豪　荒木又右衛門」もありました。それによると、又右衛門が鍵屋の辻で討ったのは2人でしたが、講談や歌舞伎、浄瑠璃などで36人斬りになり、子どもたちに人気のあった「立川文庫」（明治末～大正末）で全国に広まったといいます。又右衛門の謎の死については、急死説、亡命説、詰め腹説、毒殺説、自決説などいろいろあるものの、鳥取藩は文書を残しておらず不明だそうです。

竹内さんは訴えます。「鳥取砂丘を全国に広めたのは作家の有島武郎だった。志賀直哉や野口雨情などの文化人もたくさん又右衛門の墓参りに訪れている。これまで又右衛門の映画もたくさん作られ、大当たりしているが、まだNHKの大河ドラマの話はない。鳥取県の宝を持ち腐れにしたままでは、寂しいではないか」と。鳥取城の修復整備が進むなか、観光のまちづくりには史実に基づくドラマも必要です。

竹内道夫さん

吟道翔風流日本吟翔会と
鳥取湖陵高吟詠剣詩舞部
のみなさん

荒木又右衛門の墓
（玄忠寺）

温故知新　　清末忠人さん

2018 年 10 月 9 日

鳥取市民大学の社会講座「袋川今昔物語」が市文化センターであり、自然に親しむ会の清末忠人会長が講演しました。鳥取市の歴史を見つめてきた袋川は久松山とともに市民のシンボルです。清末さんは「袋川を守り育ててきた人たちがいた。そんな先人をたたえ、後に続かなければなりません。温故知新が大切です」と訴えました。

袋川は扇ノ山が源流。国府町の雨滝、殿ダム、宮ノ下を経て鳥取市の中心市街地を抜け、浜坂で千代川とつながる一級河川です（28．4km）。鳥取市街地の部分は人工につくられた川で、まちの発展に合わせて3度、その河道を変えました。

最初は関ケ原の戦いの後、鳥取城に池田長吉が入り、久松山下の沼沢地を整備し、鳥取市役所～醇風小学校に堤を築いて城下にしました。その後、池田光政が32万石で姫路から移ってきますが、6万石の長吉の城下では収まらず、外堀となる袋川を南に下げました（吉方～出合橋、全長1．6km、幅12．6m、深さ6．3m）。これが今の袋川の原形です。

ところが、扇ノ山山系の雨水がすべて流れ込み、千代川の逆流もあって、鳥取のまちはしばしば洪水に見舞われ、江戸時代だけでも大洪水が70回ほどあったといいます。大正時代になって千代川改修の機運が高まり、それに伴い袋川には昭和8年、放水路になる新袋川（大杙～千代川、3．3km）が新設されました。千代川の改修が終わったのは昭和50年、鳥取はやっと水の脅威から解放されました。

鳥取市民は水と闘い続けながらも、袋川を物資輸送に活用し、屋形船などを浮かべて楽しみました。堤には桜を植え、大正時代には小学生が分担して若桜橋～湯所橋まで360本の苗木を植えました。「花のトンネル一里の桜」と言われる市民自慢の桜土手に発展しました。その桜土手には今、200本余りの桜がトンネルをつくり、久松山や布勢公園などとともに、鳥取を代表する桜の名所になっています。

桜土手がここに至るまでは長い道のりでした。昭和27年の鳥取大火です。大半の桜の成木が焼けてしまい、戦後間もない市民には桜をよみがえらす気力がありませんでした。これを救ったのが鳥取大学OBの故・瀬川弥太郎さん。昭和35年ごろから毎年桜の苗木を匿名で送り続け、その数800本、桜土手が復活しました。

分水で流量が減った袋川は、鳥取大震災や鳥取大火のたびに汚染が進みましたが、鳥取青年会議所の鯉の放流など地道な美化活動が続いて、かつての清流を取り戻しました。清末さんは「桜の寿命は50年ほど。先人のように大切に育て、補植しなければ、桜土手は守れません。日進小学校近くでは鯉の稚魚が元気良くはねるようになりました。市民の誇りを守り、発展させていくのは、今を生きる私たちの務めです」と話していました。

清末忠人さん

袋川桜土手
（鳥取県撮れたて写真館から）

〝桜の恩人〟瀬川弥太郎さんの顕彰碑
（きなんせ広場そば）

鳥取城下町の河道変遷略図
（資料『鳥取県史 6』・『殿ダム・袋川流域風土記』）

シニアの生き方を考える　　坂本泰司さん

2018 年 10 月 9 日

倉吉市の小鴨シニアクラブ協議会（北村隆雄代表）は、小鴨公民館でシニア人生講座「終活を考える」を開きました。講師は伯耆町の行政書士で光音院住職の坂本泰司さん（僧名・寛豊）。「これまでを整理整頓しながら、人生のリセットを楽しみましょう」と話しました。

坂本さんは元福岡県職員。定年退職後、出家して修行を積み、67歳で曹洞宗のお坊さんになった異色の人です。「妻と姉をがんで失い、菩提を弔うため仏門に入った」そうですが、熊本県の実家は平成28年の地震でなくなり、縁もゆかりもない山陰にやってきたといいます。

坂本さんは自己紹介をしながら、「人生の来し方行く末」を語りました。クレジットカードなどの解約は本人でないとできないこと、生命保険の保険金や遺産相続などが手続きをされないまま、毎年数百億円～数千億円も国庫に納められていることなどを紹介したうえで、エンディング・ノートづくりの大切さを説きました。

ただ、多くの人が90歳になってもノートづくりに抵抗しがちです。これを和らげるのが家族の心配りといいます。証券番号や生命保険の存在、遺産相続の考え方を聞き書きしておかないと、遺族は大変です。その一方で、遺産相続になって久々に帰ってくる子どもがいたり、介護に尽くしためいには1円の相続もないという事態も発生します。

坂本さんによると、終活は「その時」に備えての準備ですから、関係官庁や事業者は複雑多岐に及びます。どのような手続き、届けが必要か、個別案件もあり、それぞれ説明していくと長時間かかるそうで、その代行サービスをしているところが全国に120社ほどあるといいます。小鴨シニアクラブは改めて終活講座を計画することにしました。

坂本さんは小鴨公民館に掲示されている宮沢賢治の詩「雨ニモマケズ」を引き合いに、老後の過ごし方を説きました。法華経信者の賢治が自戒のために書いた詩で、「あらゆることを自分を勘定に入れずに－という生き方こそ大切」と解説。「奉仕の心と感謝の心で自分を磨き、人生をリセットし、チャーミングなおじいさん、おばあさんになってください」と結びました。

坂本泰司さん

宮沢賢治の「雨ニモマケズ」の書
（小鴨公民館）

終活関連業者

高校教育の教材になりそう　　「三愛のクニへ」研究会

2018 年 10 月 11 日

鳥取市の高齢者大学・尚徳大学は市文化ホールで合同学習を開き、鳥取発の歴史大河ドラマ候補になっている「三愛のクニへ」のあらましを学びました。講師は元高校教師の片山長生さん。延べ500人が聴講しました。

「三愛のクニへ」は岩美町出身の外交官・沢田節蔵、廉三兄弟と美喜が、満州事変（1931年）、太平洋戦争（1941～1945年）、国際連合復帰（1956年）など日本波乱のなかで活躍する物語です。片山さんによると、3人を貫いていたのは「家族愛」「祖国愛」「人類愛」だったといいます。

節蔵は満州事変の時の日本の国際連盟事務局長。国際社会に事変不拡大の方針を伝え、日本に「世界の孤児になるな」と訴えましたが、上層部や軍部に押し切られます。関東軍は資源豊かな満州国で「王道楽土」づくりを描き、リットン調査団の〝間接統治〟の打診を無視して侵略を拡大、ひたすら戦争の道を突き進んでいきます。片山さんは「リットンの提案を飲んでいれば、日本は戦争をしなくて済み、豊かな国になっていた。軍部をあおった国民にも責めがある」と解説しました。

廉三は皇太子の秘書や外務省の要職を歴任し、太平洋戦争中は外務次官。戦後は全権大使として日本の国連加盟に尽くします。片山さんによると、廉三は小さいころから郷土愛が強く、「浦富をどうするか」と絶えず考えていたそうで、「愛国は愛郷より」を実践しました。

三菱財閥創業者の孫娘・美喜は戦後、神奈川県にエリザベス・サンダース・ホームをつくり、孤児救済を進めます。養育した孤児はおよそ2千人。廉三の別荘がある岩美町牧谷の熊井浜もその拠点になりました。

片山さんは3人の物語を写真でわかりやすく説明しましたが、世界史と日本史の授業を同時に受けているようで新鮮でした。まさに文部省が高校教育に2022年から導入を予定している近現代を学ぶ「歴史総合」を先取りしたようなもので、「三愛のクニへ」は大河ドラマにとどまらず、副読本としても活用できそうで、鳥取発の教材が誕生するかもしれません。

片山さんは鳥取市役所移転後の跡地利用にも触れました。「高齢者大学、放送大学、鳥取大学、環境大学のサテライトが集まり、老若男女が学び合いする拠点ができれば、人が集まり、県都が活性化し、三愛のクニの実現に近づくのではないでしょうか」と提案しました。市民の議論が待たれます。

片山長生さん

澤田節蔵（右）・
廉三の外交官兄弟

サンダースホームの美喜さん
（「混血孤児」から）

尚徳大学の合同学習
（三愛のクニへ）

新たな気持ちで再出発　　民踊きくの会・虹の会

2018 年 10 月 14 日

民踊きくの会・虹の会（中島喜久江代表）の創立10周年イベントが鳥取市の県民ふれあい会館であり、約100人が民踊を楽しみました。

民踊きくの会は平成21年の発足。毎月第1・第3火曜日の夜、虹の会は毎月第1・第3木曜日の午後、それぞれ県民ふれあい会館で練習しています。会員は合わせて23人。毎年、スポーツ・レクリエーション祭に参加しているほか、福祉施設などを訪ねて、踊りの輪を広げています。今年は韓国を訪問して、日本の民謡・民舞を紹介、交流しました。

10周年イベントのテーマは「踊りでつむぐ出会い・友情・未来」。鳥取県民踊指導者連盟会長の宮﨑恵子さん、元日本フォークダンス連盟鳥取県支部事務局長の徳安富子さんに感謝状を贈った後、舞台発表。鳥取市の明徳民踊クラブ、用瀬町のももの花民踊の会、民踊あじさいの会の友情出演も加えて15曲発表しました。

民謡きくの会・虹の会の演技はオープニングの「ホーライエッチャ」（島根県）からフィナーレの「田の神音頭」（鹿児島県）まで12曲。全員一丸となって早変わりを重ね、1人6曲こなしました。宮﨑会長は「絆の強さはさすがです」と称賛していました。

地元鳥取県の演目もありました。智頭町の「杉音頭」。ピンクの浴衣に緑の手ぬぐいでほおかぶり。そんな若々しい杉の子が「（幹を）ふっとらせー、ふっとらせー」と輪になって踊り、最後ははじけて転がるアドリブも披露して、客席を驚かせていました。

中島代表は「喜んでいただけたのが何より。地元の民謡が埋もれてしまわないように、これからもがんばります。新たな気持ちで再出発します」と誓っていました。

中島喜久江代表

オープニングは元気に島根県の「ホーライエッチャ」で

きくの会・虹の会みんなで佐賀県の「鹿島一声浮立」

佐渡おけさ（新潟県）

世の中逆さが面白い　　小谷博徳さん

2018 年 10 月 19 日

鳥取市の津ノ井小学校PTAの人権教育部会（井上賢部長）は、元日野産業高校教師で「世の中逆さが面白い」の著者、小谷博徳さん（日野町）を招いて保護者研修会を開きました。小谷さんは不登校の子どもたちが荒神神楽を通じて日本一になった体験談を語り、「生き方を〝世のため人のため〟に変えると、人生に迷いなし」と強調しました。約60人が聴講しました。

小谷さんは教師歴40年。日野産高のスキー部や測量部を全国の優秀校に押し上げ、教師後半には郷土芸能部をつくって「荒神神楽」を導入し、毎年のように全国大会に進みました。平成26年に文庫本（文芸社）になった「世の中逆さが面白い」は、その回想録です。

教壇を去った現在は、日野町議会議長を務めるかたわら、里山元気塾で地域おこしに取り組んでいるほか、江戸時代の米蔵を美術館に再生・運営し、日野ボラネットで高齢者の見守りなどを続けています。相変わらずの熱血ぶりです。

小谷さんによると、郷土芸能部をつくったのは平成4年。日野郡に伝わる神楽が後継者不足で消えかかっているのを見かねての決起です。しかし、神楽は衣装や太鼓などに費用が掛かり、立ち上げに600万円を要したといいます。それよりも問題は生徒集め。中学時代に長期欠席の経験がある生徒を誘って、発足させたそうです。それから3年。佐渡島であった全国郷土芸能祭に出演し、割れんばかりの拍手をもらって、生徒たちの目が変わっていったといいます。やがて鳥取県で文化・芸能のインターハイ（全国高校総合文化祭）が開かれることになり、練習道場も整備されたそうです。

小谷さんは言います。「600万円かかるので無理だとあきらめていたら、今日はなかった。不可能でもやってみなければわからない」と。日野産高の荒神神楽は県内外から出演依頼が舞い込み、年間50週のところに55回程度公演する事態に。部員たちは休みのない学校生活をいとわず、保護者も追っかけとなってバックアップ。遠征用バスを購入し、運転手を買って出る保護者も出てきたといいます。

「子供に夢を託すのが親。いい高校、いい大学、いい会社を期待するが、だんだんダメになり、子どもは家に引きこもり、学校へ行かなくなる。しかし、どの子にも無限の可能性がある。それを掘り出すのが親。やってみなければわからない。人生はYの字。良いほうに行きだすと、どんどん道は開ける」「人は自分が一番、次に家族や家のことを考えるが、世のため人のため、家族のため自分のため、こんな順番に生き方を変えると、ストレスのない、迷いのない人生が送れます」。小谷さんの熱弁が続きました。

小谷博徳さん

津ノ井小の人権教育研修会
（津ノ井小体育館）

文庫本になった
「世の中逆さが面白い」

大山を詠む！　審査は楽し

遠藤甫人さん・佐藤夫雨子さん・中村襄介さん・由木みのるさん・鷲見寛幸さん
2018 年 10 月 20 日

大山開山1300年を記念して「大山俳句大賞」が誕生しました。米子市のコンベンションセンターで表彰式があり、西尾青雨さん（八頭町）と坂井貴子さん（境港市）が大賞を受賞しました。シニアバンク登録の俳句指導者のみなさんも審査で協力しました。

「大山俳句大賞」は新日本海新聞社と伯耆国「大山開山1300年祭」実行委員会が設けたもので、大山にちなむものなら何でもよい自由部門と県が公募した「私の好きな大山写真コンテスト」の入賞作品を題材にした写真部門の2部門があり、県内はもとより、全国17府県から合わせて656点の応募がありました。県民が「大山さん」と呼び親しみ、感謝する〝神います山〟とあって、秀句が集まりました。

審査したのは県俳句協会長の遠藤甫人さん、米子俳句作家協会長の佐藤夫雨子さん、ホトトギス同人の中村襄介さん、俳句誌「城」花鳥抄選者の由木みのるさんの4人。実行委員会の松村順史会長らも加わりました。

その結果、自由部門は坂井さんの「大山を称（たた）ふる手話の指涼し」、写真部門は西尾さんの「大山の宇宙へ続く登山道」に決まりました。それぞれ全国に先駆けて手話を言語として認めた県民の誇りやさわやかさを詠み、大山登山道を宇宙へ続く永遠の道として表現されたものです。その題材になった写真は向井裕二さん（鳥取市）が撮影されたもので、コンテストの最優秀賞受賞作品です。

表彰式は「大山を詠む！」俳句コンテストの席上でありました。「大山俳句大賞」と同様、風光明媚で四季折々の大山の写真を題材に1チーム（3人）で3句つくり、優劣を競うもので、俳句甲子園大会の本場・愛媛県からの参加を含めて7チームが出場しました。こちらの審査は中村襄介さんや大山町教育長の鷲見寛幸さんらが行いました。

「大山俳句大賞」に寄せて、日本海新聞の海潮音は「週末ごとに台風が相次いだが、この地方では大きな被害を免れた。『野分（のわき）晴れ大山さんはより高く』。私たちには常に大山がある」と結んでいます。

大山俳句大賞審査員
（左から中村襄介さん、由木みのるさん、佐藤夫雨子さん、遠藤甫人さん）

大山俳句大賞受賞の
西尾さんと坂井さん

大山を詠む！
俳句コンテスト会場

写真コンテストの入賞作品・
「私の好きな大山写真コンテスト」最優秀賞受賞作品
（伯耆国「大山開山 1300 年祭」実行委員会提供）

船上山・大山・三徳山　　眞田廣幸さん

2018 年 10 月 21 日

琴浦町箆津にある国指定重要文化財の河本家住宅で、恒例の秋の公開イベントがありました。テーマは「山岳仏教と船上山」。名和長年関連の書画や大山・船上山の油絵などが展示され、文化講演会もありました。倉吉文化財協会会長の眞田廣幸さんは「伯耆国の山寺　船上山と大山、そして三徳山」について話し、それぞれの謎を報告しました。

いずれの山も伯耆の山岳信仰の聖地です。三徳山（美徳山、標高900m）は706年、修験道の開祖・役小角が開いたとされ、奈良時代の初めには赤衣上人が船上山（標高616m）、大山（火神岳・伯耆大山、標高1729m）は金蓮上人が大山寺をそれぞれ開きました。大山寺は今年、開山1300年になりました。

山岳信仰は平安時代に盛んになり、大山寺は106坊、僧兵3千人を数えたといいます。三徳山、船上山にも数多くの坊舎があったといいます。ただ、いずれも戦乱でことごとく消失しました。とくに大山寺は中門院・南光院・西明院の内部抗争が絶えませんでした。その大山寺を復活させたのが豪円僧正。江戸時代に西楽院を設け、寺領3千石（3院42坊）を回復しました。江戸時代の三徳山・三仏寺は100石、船上山は寺領がなかったといいます。

船上山は大山外輪山の一角で、延々と屏風岩が連なる天然の城塞です。1333年、天皇親政を目指す後醍醐天皇が隠岐島を脱出し、名和長年に迎えられて、ここに立てこもり、鎌倉幕府討幕の兵をあげたところです。このとき大山寺からは700人ほどの僧兵がはせ参じたと伝えられています。

眞田さんは「出雲国風土記」「大山寺縁起絵巻」「伯耆民談記」などをもとに、それぞれの山の特徴や違いなどを紹介しました。それによると、同じころにできた3山ながら、大山の地蔵信仰が修験者や聖によって全国展開したのは、大山寺5大名僧のひとり、天台密教の高僧・基好上人の指導力によるものと指摘しました。また、大山寺は廃仏毀釈で寺号が廃絶されますが、明治36年に復活したのは後醍醐天皇への大山寺僧兵の加担が明治政府に評価されたからだったといいます。

眞田さんは新たな謎についても報告しました。三徳山の文殊堂や地蔵堂の岩場にも岩窟が存在していることが分かったそうです。中部地震に伴い、投入堂参拝登山道を調査していて見つかったもので、そこに何がまつられているのか調査が待たれるといいます。また、船上山も天皇の行宮跡が不明のままといいます。船上神社から5kmほど離れたところに「天皇屋敷」と伝わるところがあるそうで、その所在地探しが船上山研究に欠かせないテーマになっていると指摘していました。

船上山、三徳山・文殊堂（鳥取県撮れたて写真館から）

眞田廣幸さん

「山岳仏教と船上山」講座（河本家住宅）

たたらの文化を未来へ　　石村隆男さん・伯耆国たたら顕彰会

2018 年 10 月 21 日

伯耆国「大山開山1300年祭」のクライマックスイベント「日本の鉄文化・たたらの歴史フォーラム」が米子市公会堂であり、とっとりコンベンションビューロー理事長の石村隆男さんや伯耆国たたら顕彰会（田貝英雄会長）のみなさんが、たたら文化の魅力や未来を伝えました。

中国山地は良質な砂鉄と豊かな森林に恵まれ、たたら製鉄が盛んに行われました。江戸時代には全国の鉄の生産量の約8割を中国地方で占めるほどの一大産業でした。鳥取県は大山を取り巻く奥日野や関金・三朝などでとくに盛んでした。たたら製鉄は大正時代に西洋鉄に押されて姿を消しましたが、その歴史や産業文化は関連の地域にさまざまな足跡を残してきました。そこで、たたら文化を後世に伝えるとともに、地域活性化につなげようと、フォーラムが企画されました。

全国たたらサミットには、①伯耆国たたら顕彰会（鳥取県）②いわてたたら研究会（岩手県）③鉄の道文化圏推進協議会（島根県）④備中国新見庄たたら伝承会（岡山県）⑤奥安芸の鉄物語たたらの楽校実行委員会（広島県）⑥宍粟鉄を保存する会（兵庫県）―の6団体が参加し、たたら文化の伝承とこれからを報告しました。

このうち、伯耆国たたら顕彰会の佐々木幸人さんは、鳥取県中・西部のあちこちに、たたら製鉄の遺構や日本刀の始祖とされる伯耆安綱一門の伝承などがあり、これらを結んで観光資源にし、地域活性化につなげたいと抱負を語りました。また、鉄の道文化圏推進協議会は日本遺産に認定された「出雲國たたら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語」を題材に、地域住民に鉄文化を根づかせる取り組みを紹介しました。

日野町の都合山遺跡を発掘した角田徳幸さん（島根県教育庁埋蔵文化財調査センター）と石村隆男理事長による「たたらで日本の歴史をひも解く」トークもありました。このなかで石村さんは、砂鉄を取り出す鉄穴流しで弓ヶ浜半島などの大地がつくられ、農業が発展し、ミネラル豊富な水の供給で美保湾が好漁場になり、鉄を運ぶ牛馬の生産・品種改良で畜産業が発展した歴史を紹介し、「現在の伯耆国があるのは、たたら製鉄のおかげ。“鉄は文明なり“です。この恩恵を地元住民に知ってもらうことが未来につながる」と強調しました。

フォーラムと並行して、公会堂前庭で伯耆国たたら顕彰会による「ミニたたら操業」が行われ、約50人が高温の炉に炭と砂鉄を流し込むたたら製鉄独特の鉄づくりを体験しました。不純物を取り出す「のろ出し」では、真っ赤な塊が炉から流れ出る様子に、参加者から大きな歓声があがっていました。

また、フォーラムでは作家の井沢元彦さんと俳優の高橋英樹さんの対談もあり、日本刀の原点である伯耆国の魅力を語り合いました。

石村隆男さん

佐々木幸人さん

伯耆国たたら顕彰会によるミニたたら操業

のろ出し

あなたの笑顔が宝物　　佐々木洋一さん

2018 年 10 月 24 日

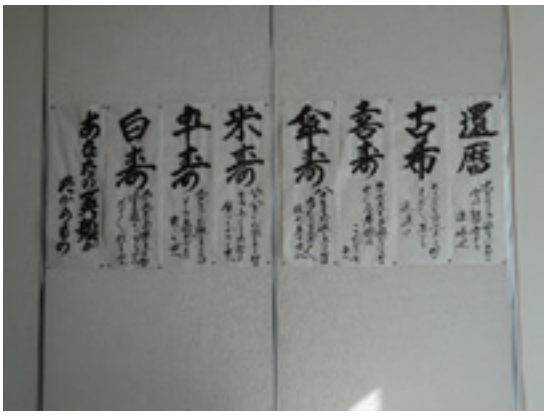
岩美町の高齢者大学ハーモニカクラブ（吉村正紀代表、８人）は、町内の介護老人福祉施設・岩井あすなろを訪ね、童謡などを演奏し、感動のひと時を過ごしました。

ハーモニカクラブは４月から毎月１回、介護福祉士の佐々木洋一さんの指導で練習を重ねてきました。目標は10月の仕上げ学習で福祉施設を慰問し、成果発表すること。「ハーモニカの音色には思い出を呼び覚ます〝魔法〟がある。感動の楽器だ」というのが佐々木さんの持論で、その感動をクラブ員にも伝えたくて慰問の運びになりました。

演奏したのは秋にちなんで「もみじ」「旅愁」「里の秋」などの童謡と往年のヒット曲「ここに幸あり」「星影のワルツ」など合わせて10曲。デイサービスの29人が合唱しました。歌うたびに参加者の歌声は大きくなり、佐々木さんの問いかけにも、おばあさんたちは「知っている歌ばっかりで楽しいです。最高です」と大喜びでした。吉村代表も「まだまだ未熟ですが、喜んでいただけて良かったです」と満足そうでした。

会場のホールには「あなたの笑顔が宝物」と題して、こんな掲示がありました。

還暦　60歳でお迎えが来たときは、今は留守だと追い返せ
古希　70歳でお迎えが来たときは、まだまだ早いと追い返せ
喜寿　77歳でお迎えが来たときは、せくな老楽はこれからだと言え
傘寿　80歳でお迎えが来たときは、なんのまだまだ役に立つと言え
米寿　88歳でお迎えが来たときは、もう少しお米を食べてからと言え
卒寿　90歳でお迎えが来たときは、そう急がずともよいと言え
白寿　99歳でお迎えが来たときは、頃を見てこちらからボツボツ行くと言え



岩井あすなろ　あなたの笑顔が宝物

いわみ高齢者大学ハーモニカクラブの
みなさん（右端が佐々木洋一さん）

ハーモニカに合わせて元気よく合唱する
岩井あすなろデイザービスのみなさん

赤碕塔は安倍晴明の供養塔　　小谷惠造さん

2018 年 10 月 26 日

琴浦町の河本家住宅（国指定重要文化財）で秋の公開イベントがあり、河本家保存会の小谷惠造会長が記念講演し、「花見潟墓地にある赤碕塔は安倍晴明の供養塔」と研究成果を発表しました。

小谷会長の講演は「山岳仏教と船上山」がテーマ。「伯耆民談記」「大山雑考」「太平記」「赤碕郷土誌」「続日本後記」などの文献をもとに、船上山の山岳仏教や修験道、山伏について語りました。

それによると、修験道は日本古来の山岳信仰が密教・道教・儒教の影響を受けて成立したもので、山岳修行で超自然力を得て呪術活動などを行います。大山や船上山の修験道は智積上人が開祖と伝えられていますが、とくに船上山には熊野権現がまつられ、大きな滝があり、修験者や山伏が盛んに訪れてきたようです。

この修験道と似ているのが、中国伝来の陰陽道。天文学や特殊な占いで国家や人の行動の吉凶禍福を判定する方術で、奈良時代から多くの陰陽師が国の運営や地相を占ったといいます。最もよく知られているのが安倍晴明です。その安倍晴明も熊野で山林修行などしており、修験者や山伏に慕われていたそうです。

六国史のひとつ、続日本後記には、平安時代に伯耆国八橋出身の陰陽師・春苑宿祢がいたことが記録されています。そんな縁があったせいか、赤碕の八幡町には「山伏松」という巨木があり、他国から来た山伏は必ずあいさつする習わしがあったという言い伝えも残されています。

修験者や山伏の足跡が色濃く残る土地柄とあって、小谷会長が文献を精査したところ、江戸時代に発行された観光案内「伯陽六社道の記」や「伯路紀」（いずれも県立鳥取図書館蔵）から「晴明だうまんの封じをけるよしにて石をたためる数尺の墳（つか）二つあり」という文面を見つけ、明治時代の赤碕郷土誌からも「御丈二丈ばかりなる石の大地蔵あり。このみぎわに晴明道満の墓ふたばかあり」を確認し、花見潟墓地の赤碕塔が安倍晴明のもの、その近くの宝塔もやはり陰陽師の芦屋道満のものであることを突き止めたといいます。赤碕塔は鎌倉時代に建てられたもので、県の指定文化財になっていますが、だれが何のために建てたのか不明のままでした。

小谷会長は「船上山にやってきた修験者や山伏が、２人の供養のために建てたものでしょう。晴明ファンは多いので、せめて看板を立てて偉人を顕彰したいものです」と話していました。

花見潟墓地（2ha、2万余基）は日本海に沿って広がる広大な墓地で、中世後半から始まったと伝えられています。日本の自然発生墓地では最大級のものと言われ、観光地になっています。

小谷惠造さん

安倍晴明の供養塔
とされる赤碕塔

芦屋道満の供養塔？

みんなで地域おこし　　田中久大さん

2018 年 10 月 27 日

鳥取市の白兎神社や美萩野団地などがある末恒地区の郷土誌「すえつね」―神話の郷・いやしの街―ができました。これを記念して末恒公民館で編集委員長の田中久大さんが編集余話「末恒あるある物語」と題して講演し、地域おこしはみんなでするものと説きました。

末恒は湖山池や鳥取空港の西側から白兎・小沢見海水浴場まで、主に日本海沿岸の地域です。伏野、白兎、小沢見、内海中、御熊、三津、美萩野の7地区あり、1，928世帯、6，139人が暮らしています（平成27年国勢調査）。昭和40年の国勢調査は329世帯、1，806人でしたが、伏野と三津の丘陵地に県内最大規模の住宅団地・美萩野団地（1～5丁目）ができ、人口が急増しました。地域住民のおよそ7割が美萩野団地に住んでいます。

末恒地区まちづくり連絡協議会（田中雅勝会長）は「元気なまちづくりは、地元を知り、学ぶことから」と、編集委員会を立ち上げ、1年がかりで郷土誌づくりを進め、10月1日に300部発行しました。末恒地区の歴史、産業、文化、方言などあらゆることがわかるほか、現在進行中の地域づくりの取り組みなども紹介しています。

田中委員長は講演で①古い歴史と神話・伝説の数々②たくさんの文化財や観光資源③自発的・意欲的な地域づくりの取り組みの数々―について紹介しました。

末恒地区が日本最古の歴史書・古事記に登場する「白兎神話」の舞台になっていることは広く知られているところですが、田中委員長は北九州と丹後の勢力争いなど神話の背景についてわかりやすく解説しました。また、古い文献に湖山長者は存在しないことを説明したうえで、地区内には産見長者伝説があることを紹介。医療センター前の「長者石」、中の茶屋の「長者屋敷」、摩尼山の帝釈天縁起など長者ゆかりの伝承が多く残っており、研究課題と報告していました。

湖山池の石がま漁（1月末～2月末）についても説明しました。全国どこにもない漁法で、平成17年に県の無形民俗文化財になっています。かつて80基を数えた石がまは4基に減ってしまいましたが、田中委員長は「石がま1基は田んぼ1町に匹敵する」と、その価値を紹介しました。

田中委員長が力説したのは、地域づくりの「あるある」。三津や御熊などで運営している有償ボランティアバス▽美萩野のアジサイ公園整備▽小沢見の大崎城址整備▽三津の石がま祭▽農事組合法人因幡白兎の大規模水田耕作―など住民のがんばりをたたえました。最後に田中委員長は地区の方言や俚諺を編集したことに触れ、「因幡人の性格は『煮えたら、食わぁ』。だれかがしてくれるのを待っているという意味ですが、もう、こんな性格は返上しましょう」と呼びかけました。

田中久大さん

郷土誌すえつね

末恒は神話の郷

皿回しも手品もしました　　南京玉すだれ山陰保存会

2018 年 10 月 28 日

米子市冨士見町の中央隣保館（石脇昭弘館長）で文化祭があり、南京玉すだれ山陰保存会（生田兵衛代表）がゲスト出演し、祭りを盛り上げました。

祭りのオープニングを飾ったのが南京玉すだれ。生田代表はじめ、準師範の井上輝弥さん、講師の遠藤良子さん、広島市から師匠の芝辻しゅんさん（本名・矢吹俊、南部町出身）も駆けつけ、「アさて、アさて、さては南京玉すだれ」と、４人で元祖南京玉すだれの基本芸を披露しました。

芝辻師匠によると、南京玉すだれが舞台芸になったのは江戸時代。平成９年には手品の一つとして無形文化財になりました。竹のすだれを伸ばしたり、ひねったり、戻したりしながら浦島太郎の釣りざおや阿弥陀如来の後光などをつくっていきます。この日も玉すだれでいろいろな形をつくって、東海道の名所旧跡を紹介しました。

また、生田代表は皿回し、芝辻師匠は手品をそれぞれ披露し、来場者を喜ばせました。生田代表によると、山陰支部ができて１１年、現在会員は２０人。２カ月に１度練習すれば演じることができるそうで、会員募集中といいます。お問い合わせは電話０８５９－３４－４５４６（生田代表）へ。

文化祭には隣保館で活動している皆さんの手芸や陶芸、フラワーアレンジメントなどの作品が展示されたほか、「ぼてぼて茶」のおもてなしもありました。ぼてぼて茶は出雲地方に伝わる庶民の間食で、泡立てた番茶に一つまみの小豆ご飯や漬物などを入れて流し込んで食べるもので、たたら製鉄の職人たちが仕事の合間に食べたのが始まりとも、上流階級の茶の湯に対抗して庶民が考え出した茶法とも伝えられています。珍しいおもてなしに、試食を楽しむ来場者が続きました。

生田代表も皿回し

芝辻師匠の手品

ぼてぼて茶でおもてなし

懐メロに酔いしれる　　バードベンチャーズ

2018 年 10 月 28 日

鳥取市の豊実公民館（加藤修館長）で豊実地区まつりがあり、バードベンチャーズ（福田甫代表）が出演し、まつりに花を添えました。

まつりは地区の防災訓練を兼ねて行われ、約400人が参加しました。湖山消防署や地区消防団の指導で初期消火訓練や簡易担架搬送体験などの実践訓練のほか、はしご車の搭乗体験、ちびっこ消防士撮影会などがあり、子どもから高齢者までが楽しみながら防災意識を高めました。

イベントのフィナーレはバードベンチャーズ。バードベンチャーズは公民館まつりなど、いろいろなイベントから出演依頼があります。今回もダイヤモンドヘッド、パイプライン、夜空の星、京都の恋など懐かしのベンチャーズサウンド16曲を披露し、参加者を魅了しました。演奏途中、参加者が飛び入りでボーカルを務めるなど、会場は大いに盛り上がりました。

加藤館長は「参加者のみなさんがなじみのサウンドに大変満足していた。またお呼びしたい」と興奮気味でした。

バードベンチャーズ

参加者が飛び入りでボーカルを披露

豊実地区まつり

ボランティア・フェスティバル　　米子マジック同好会・港ベンチャーズ

2018 年 10 月 28 日

南部町の農業者トレーニングセンターで、「広げよう地域の絆、つなげよう心とこころ」をテーマにボランティア・フェスティバルが開かれ、米子マジック同好会（田中孝允代表）と港ベンチャーズ（遠藤辰雄代表）が出演し、ショータイムを盛り上げました。およそ700人が参加しました。

南部町の赤十字奉仕団や子ども会育成連絡協議会など13のボランティア団体でつくる実行委員会（委員長・藤友裕美町社協会長）の主催。町民だれもが安心して暮らせる支え合いのまちづくりを目指して毎年開いているもので、それぞれの団体が活動紹介するとともに、バザー店を出してPR。交流を深めました。

ボランティア功労者表彰もあり、森山まゆみさん（社会福祉法人伯耆の国）ら12人が表彰されたほか、夏休みにボランティア体験をした石田結衣さん（西伯小学校）や勝田敦也さん（法勝寺中学校）ら30人余りの小中学生も町のヘルパーに認定されました。

お昼時にショータイムがあり、シニアバンクから米子マジック同好会と港ベンチャーズが出演しました。マジックはショージ・KT（徳永勝治）さんとマジカル咲子（小谷咲子）さんの2人が登壇。スカーフやロープなどを使って早業を披露しました。圧巻だったのはマジカル咲子さんの紙技。ティッシュペーパーを丸めてクモの糸にし、それを再び丸めて水でこねてうどんにし、それをツルツルとすすって「おいしいですよ」とニンマリ。会場は驚きの大きな拍手に包まれました。

港ベンチャーズは「十番街の殺人」「テルスター」など10曲をパワフルに演奏。ボーカルの足立純子さんはステージを降りて元気なパフォーマンスを繰り広げました。

港ベンチャーズ

ショージ・KT さんのマジック

マジカル咲子さんのマジック

にぎわう南部町の
ボランティア・フェスティバル

中海・宍道湖にいた徐福集団　　田中文也さん

2018 年 11 月 3 日

邪馬台国山陰説を提唱する山陰古代史研究会の田中文也代表は、米子市のふれあいの里であった古代史講座で、「徐福こそ大国主、国津神となって日本国をつくり、中海・宍道湖周辺にいた」という新説を発表しました。青谷上寺地遺跡で暮らした住民も渡来系だったことが明らかになっており、その関連も含めて山陰の古代史解明が注目されます。

田中さんによると、世界約200カ国の中で建国の歴史が解明されていないのは日本くらいです。古事記や日本書紀、出雲風土記などに書かれている神話や伝承が戦前は「皇国史観」に利用されたり、戦後はフィクションとして切り捨てられて研究されなかったことが原因です。邪馬台国も伝聞でまとめられた「魏志倭人伝」を根拠に論争が展開され、研究者1人1説の状態といいます。

そこで田中さんは、日本の古代史研究は①魏志倭人伝をめぐる邪馬台国論争②記紀や風土記をめぐる古代史論争③秦の始皇帝と徐福―の3分野あると指摘し、いずれも関連しながらも相互検証が進んでいないのが現状で、3分野をまとめて研究する「古代史大統一理論」が必要といいます。

田中さんは邪馬台国山陰説の研究を通じて、日本各地で国づくりをした国津神は大国主命と少名彦命で、その正体は秦の始皇帝をだまして中国から五穀と百工と数千人の少年少女を連れてきた徐福だったのではないかという仮説をもとに、足掛け5年にわたって島根県立大学と共同で徐福研究をしてきました。

それによると、中国では1982年に江蘇省韓輸県に徐阜村（徐福村）があったことが確認され、徐福は史実の人と認められ、教科書にも載る有名人ですが、日本では学会などに架空説が根強く、ほとんど徐福研究は進んでいないそうです。ただ、その渡来の伝承地は全国に30カ所近くあり、観光地化を目指しているといいます。

また、中国の国書には「徐福は平原光沢の地にとどまり、日本で王になった」とあり、その候補地は①吉野ヶ里周辺（佐賀県）②中海・宍道湖周辺（山陰）③琵琶湖周辺（滋賀県）―の3カ所が推定されているそうです。田中さんは記紀神話の8割は山陰の話で、弥生時代の遺跡や発掘の成果、大国主命や少彦名命にちなむ「神無月神在月」の伝承などから見て、中海・宍道湖の可能性が高いとみています。「山陰に徐福集団の渡来伝説がないことこそ来た証拠」と田中さん。秦の始皇帝をだまして、理想の国づくりにやってきたのですから、それは秘密だったはずです。

徐福集団は古代日本に青銅器や鉄器や漢方医学や水稲稲作などを持ち込み、日本各地に分布したのでしょう。青谷上寺地遺跡の人骨から結核、糞石から寄生虫の痕跡なども検出されていますが、これらも徐福集団がもたらしたものかもしれません。

田中文也さん

徐福集団渡来の遺物？

青谷上寺地遺跡の住民はよそからやってきた人々だった？（日本海新聞）

世界に通じる淀江さんこ節　　淀江さんこ節保存会

2018 年 11 月 4 日

倉吉市の灘手公民館（松井幸伸館長）で灘手こーまい秋祭りがあり、淀江さんこ節保存会（三好純一代表）がゲスト出演し、祭りを盛り上げました。

秋祭りは公民館の教室などの成果展示のほか、湯梨浜学園書道部の書道パフォーマンス、各地区の屋台、演芸発表などがあり、子どもから大人まで約400人が参加し、大いににぎわいました。

午後のメーンイベント・演芸プログラムでオープニングを飾ったのが淀江さんこ節保存会。①淀江さんこ節②皆生小唄③淀江浜唄④壁塗りさんこ―の4演目を披露しましたが、日本民芸大賞5位の原田瑞代さんの軽快な歌声に三味線や傘踊り、銭太鼓などが合わさった小気味よい演芸が繰り広げられ、参加者は笑いと手拍子で楽しみました。

淀江さんこ節保存会は幕末から明治にかけて港町・淀江の酒席で流行した郷土民謡「淀江さんこ節」を伝承するため、年40回に及ぶ公演のほか、地元の小・中学校での演芸指導などに励んでいます。来年6月には国内外210団体、約1万人が参加する「宮古島国際文化交流フェスティバル2019」に招待されているそうです。奥田晃巳事務局長は「背伸びをせず、いつもどおりの演芸を披露してきます」と意気込んでいました。

淀江さんこ節保存会

にぎわう灘手こーまい秋祭り

平成のふいご祭り　　伯耆国たたら顕彰会・梅林敏彦さん

2018 年 11 月 4 日

奥日野たたら製鉄体験イベント・平成のふいご祭り（奥日野たたらの里づくりプロジェクト実行委員会など主催）が日野町役場前であり、鉄づくりやナイフづくり、俳句づくりなどでにぎわいました。およそ200人が参加しました。

鞴（ふいご）祭りは、かつて旧暦の11月8日にあり（今なら12月中旬）、鍛冶屋、刀工、鋳物師など鉄にかかわる人たちのお祭りです。鞴は鉄の精錬や加工に欠かせない送風機のことで、その大型のものを踏鞴（たたら）と呼びました。祭りは鞴の労をねぎらって、火の安全と商売繁盛を願って行われたもので、たたら場で働く人たちはごちそうを食べて英気を養いました。

奥日野のたたら製鉄は大正時代に姿を消しましたが、伯耆国たたら顕彰会の調べでは、たたら場の遺構が日南・日野町だけで320カ所ほど確認されており、奥日野住民の3人に1人はたたら製鉄にかかわって暮らしていたそうですから、往時の鞴祭りは盛大なものだったに違いありません。

その鞴祭りが復活して5年。たたら文化の里づくりが目標ですから、平成の鞴祭りは休息型ではなく操業型です。今回は金持神社の獅子舞でオープニング。恒例のミニたたら操業があり、日野町の埒田淳一町長を先頭に参加者が次々と砂鉄を投入し、鉄づくりを体験しました。また、地元の鍛冶工房宮光（宮脇光男代表）の指導でペーパーナイフづくりや鉄鍋などの展示即売もありました。現代人は鉄分不足が多いと言われているだけに、「鍛造鉄鍋で鉄分をとって健康に」という呼びかけに人の輪ができていました。

たたら講座もありました。奥日野の鉄山師・近藤家住宅が県の保護文化財に認定され、その保存・活用方法が注目されていますが、米子高専の金澤雄記准教授が近藤家住宅の価値や見どころなどを解説しました。また、日野郡内など県西部のたたら場遺構545カ所を10年かけて踏査した藤原洋一さんが調査結果を報告しました。会場では郷土料理の「じゃぶ汁」が振る舞われ、「よばりょういな」と列ができていました。

鞴祭りに合わせて「第10回ひの俳句大会」もあり、米子市などから30人が集まり、祭りに参加するとともに、築200年の古民家・沙々樹、日野町出身の文人・生田長江の碑がある延暦寺などを吟行しました。遠藤甫人さん（県俳句協会長）と大谷正子さんが選句し、それぞれ「火色見る厳しき眼鞴祭り」（大下秀子さん・米子市）、「奉納の俳句を仰ぐ菊日和」（中曾美沙子さん・米子市）を特選1席に選びました。

俳句大会を続けている梅林敏彦さんは「小さな日野町ですが、かつては句会が4つもあり、町内あちこちの社寺には奉納俳句が掲示されています」と、奥日野の文化風土を紹介していました。

藤原洋一さん

梅林敏彦さん

鉄づくりを体験する
俳句大会参加者

生田長江の碑がある
延暦寺で吟行

子どもたちもナイフづくりに挑戦

最近作を上映しました　　鳥取コミュニティシネマ

2018 年 11 月 7 日

鳥取コミュニティシネマ（清水増夫代表）は鳥取市の養護老人ホーム・なごみ苑で出前映画会を開き、最近作の時代劇「超高速！　参勤交代リターンズ」を上映し、来場者から喜ばれました。

鳥取コミュニティシネマの県東部高齢者施設での出前映画会は3年目です。普段映画館に出かけられないお年寄りに、映画の楽しさを思い出してもらおうというもので、大型スクリーンや映写機器、DVDを持ち込んで、ボランティア上映しています。今年は河原あすなろ、なごみ苑、やすらぎの3カ所で「家族はつらいよ2」「超高速！　参勤交代リターンズ」の最近作を上映しました。

このうち、なごみ苑では30人余りが詰めかけ超満員。ドタバタの参勤交代や藩のお取りつぶし、復活劇がテンポよく進み、来場のお年寄りは食い入るように見入っていました。「映画だなんて、久しぶりのことだわ」「やっぱりテレビより面白いわ」など会話も弾みました。

清水代表は来年も続ける意向で、「出前ご希望のところはお早めにご連絡ください」と話していました。連絡先は携帯電話080－8907-9293。

清水代表によると、12月16日に県立博物館で「まわる映写機めぐる人生」というドキュメント映画（森田恵子監督）があるそうです。映画が誕生して120年余りたちますが、映画を支援してきた全国各地の群像を描いたもので、清水代表も登場するといいます。清水代表はアートシネマ鳥取グループ→鳥取映画村→鳥取フィルムコミッション→鳥取コミュニティシネマと、47年余りにわたって映画に寄り添ってこられただけに、どのように描かれているか楽しみです。鳥取映画人の〝同窓会〟がみられそうです。

鳥取コミュニティシネマの清水代表（左）とスタッフ

最近作の時代劇始まり始まり！

癒やしの音楽で終活フェスタ　　澤田勝さん・山根澄子さん

2018 年 11 月 7 日

鳥取市の葬祭施設・メモワールイナバで、とっとり終活フェスタがあり、シニアバンク登録の澤田勝さんと山根澄子さんがサックスと大正琴でムードミュージックを届け、イベントを盛り上げました。

とっとり終活フェスタは毎年、春と秋の年2回実施しており、今回で13回目です。「人生を豊かにし、家族・友人・地域などとの絆をより強くしてほしい」という願いのもとに、行政書士事務所や葬祭施設などで実行委員会をつくり、お葬式の心得、遺品・生前整理、遺産相続の説明や相談、エンディングノートの記入体験、入棺体験、ペットの供養品展示などを行っており、参加者は年々、増えているそうです。

メモワールイナバの専務で遺品整理士の圓井貴志さんによると、近年相談が多いのは家族葬のことだそうです。葬祭費用は100人規模の葬儀で料理を含めて100万円弱、親族30人規模の家族葬なら60万円程度で差があるものの、香典などで収支が逆転することや故人の社会的立場などもあるので、判断に迷う人が多いといいます。「やり直しがきかないことなので、後悔しないためにも、事前にご相談を」とアドバイスしていました。

フェスタの昼どき。澤田さんがテナーサックス、山根さんが大正琴でムードミュージックを演奏しました。演奏したのは「二人の世界」「愛燦々」「糸」などアンコールを含めて8曲。「いつかくる」その日に備えての相談会場に癒やしの音楽が流れて、参加者は穏やかな気分を取り戻しているようでした。

エンディングノートの相談はNPO法人ナルク鳥取の長沢紀美子さん（090－1189-3191）へ。

にぎわう終活フェスタ

サックスと大正琴の調べ

最新の祭壇やお棺の紹介も

明治大と中央大と鳥取人　　内田克彦さん

2018 年 11 月 9 日

鳥取市の高齢者大学・尚徳大学は市文化センターで郷土コースを開き、鳥取県ゆかりの大河ドラマを推進する会の共同代表・内田克彦さんが、明治大学をつくった岸本辰雄、中央大学をつくった奥田義人、2人の鳥取人を紹介しました。いずれも明治時代初めの創立ですが、両大学とも鳥取との縁が続いています。

岸本辰雄（1851～1912年）と奥田義人（1860～1917年）は9つ違いですが、青少年期に明治維新を体験した同時代人です。ともに鳥取藩士の息子で、岸本は鳥取市上町、奥田は鳥取市栗谷町で生まれました。

日本の近代化のなかで、2人は司法の道に進み、岸本はフランス留学を経て仲間とともに明治大学の前身・明治法律学校をつくります。民法、商法、破産法などの法律づくりに励むとともに、今の最高裁にあたる大審院の判事や東京弁護士会の会長として活躍します。奥田は中央大学の前身となる英吉利法律学校創設に参画するとともに、官僚として立身出世し、衆議院議員、文部大臣、東京市長を歴任しました。

内田さんは2人の足跡を年表に落として、それぞれのエピソードを紹介しました。それによると、明治維新直後、新政府は全国各藩から優秀な人材を「貢進生」として集めましたが、鳥取からは岸本のほかに河原町出身の村岡範為馳もいました。村岡は日本で最初にＸ線実験した物理学者です。

岸本・奥田それぞれのグループは民法の制定をめぐって対立することもありました。「民法興りて忠孝廃れる」と主張した奥田グループが勝ち、帝国議会は民法・商法施行延期を決めますが、これによって明治法律学校は生徒が集まらなくなり、経営難に陥ります。これを鳥取池田家が支えたといいます。

明治大学校友会鳥取県支部は岸本の生誕地（やまびこ館駐車場）に看板を掲げるとともに、とりぎん文化会館前に顕彰碑を建立しています。奥田の胸像は県立図書館2階に展示されています。

明治大学は鳥取県や鳥取大学と連携して山陰沖の日本海で未来のエネルギーといわれるメタンハイドレートの調査研究を進めています。中央大学も今年から鳥取県、公立鳥取環境大学と連携して共同研究などを準備中です。鳥取の先人2人の人脈が今も生き続けています。

内田克彦さん

岸本辰雄

奥田義人

岸本辰雄の顕彰碑
（とりぎん文化会館前）

大伴一族は文武両道だった　　甲斐清明さん

2018 年 11 月 10 日

大伴家持生誕1300年を記念した因幡万葉歴史館（鳥取市）の万葉集講座は3回目の講義があり、境港市の元高校教師・甲斐清明さんが「大伴氏一族の歌」について話し、大伴一族は文武両道だったと解説しました。

今回の講座は甲斐さんが講師を務める境港市民図書館の古典文学講座のみなさんが大挙して押しかけ、超満員のなかで開かれました。甲斐さんも大張り切りで、飛鳥・奈良時代の言葉と人々の動きについて説明しました。

それによると、伴造は天皇家を支える勢力で、なかでも大伴氏は最大勢力でした。国造は地方の支配者、その最古参は出雲大社の千家で天皇家よりも歴史は古いそうです。造（みやつこ、御家津子）とは愛しい家の子の意味。大伴氏は九州から来た天孫族一の子分で、大和平定後は天皇家の近衛兵になります。大和政権の軍事の主力は大物主命（大国主命）につながる物部氏。大和はもともと出雲系勢力の土地でした。

甲斐さんは大伴氏の立場や役割を紹介したうえで、継体天皇の即位、蘇我氏の権力増大、日本初の女帝・推古天皇即位、遣隋使、乙巳の変、大化の改新、壬申の乱など飛鳥・奈良時代の出来事をたんねんに解説しました。

このなかで甲斐さんは、飛鳥・奈良時代の天皇24人中、女性天皇は重祚を含めて8人いたことを説明し、「推古天皇は十七条憲法の制定や遣隋使、皇極天皇は乙巳の変、持統天皇は藤原京遷都、元明天皇は平城京遷都や古事記完成、元正天皇は日本書紀完成、孝謙天皇は東大寺大仏完成など数々の実績を残している。今の日本も女性天皇を認めてもよいと思う」と持論を展開しました。

さて、万葉集です。甲斐さんによると、採録されたのは大伴氏一族が24人、藤原氏一族が13人。家持が編集に深くかかわっていたとはいえ、大きな差です。武門の大伴氏は文化の素養も兼ね備えた文武両道の人たちだったようです。その代表歌人は家持、叔母の坂上郎女、父親の旅人、いとこの池主、弟の書持などで、大伴氏一族で万葉集約4500首のうちの15％ほどを占めているといいます。

甲斐さんは酒を愛した旅人の歌を紹介して講義を終えました。

「験（しるし）なきものを思わずは一杯（ひとつき）の濁れる酒を飲むべくあるらし」

つまらぬことで思いわずらうことをやめて濁り酒を飲もうよ、といったところでしょうか。さあ、今日も飲みましょう。

甲斐清明さん

盛況の万葉集講座

大伴家持像
（因幡万葉歴史館）

温故為新　新しき人よ目覚めよ！　　波田野頌二郎さん

2018 年 11 月 10 日

倉吉市の生涯学習講座「美の匠～つながる美の系譜～」が倉吉交流プラザであり、河本緑石研究会長の波田野頌二郎さんが、緑石の義兄で砂丘社の同人としてともに活動した中井金三について講演しました。約50人が受講しました。

この講座は倉吉市教育委員会が5回にわたって開いているもので、鳥取県立美術館の新設整備地に決まった県中部と倉吉市の美術・芸術の風土について知ってもらい、美術館整備の機運を高めていくのがねらいです。

これまでに①塩谷定好と芸術写真②鳥取画壇の祖・土方稲嶺③次世代の匠たち―の3講座を開き、4回目の今回は波田野さんが「郷土美術の父・中井金三と砂丘社の人たち」と題して、その足跡や功績について講演しました。

中井金三（1883～1969年）は、東伯郡小鴨村（倉吉市小鴨）出身。東京美術学校（東京藝術大学美術学部）在学中は、黒田清輝に師事。卒業制作「河岸（かし）」（倉吉博物館蔵）が高く評価され、美術学校教員として残るよう勧められますが、家庭の事情で帰郷。その後は美術教師として前田寛治らを東京藝術大学へ進学させるなど、後進の指導にあたる一方、河本緑石などと「砂丘社」を結成し、展覧会の開催や機関誌の発行など、文化運動を推進しました。また、若くして亡くなった前田寛治の功績を後世に伝えようと、前田寛治美術館の設立にも奔走しました。ただ、資金が集まらず、美術館づくりは頓挫します。

波田野さんは「金三や砂丘社が残した芸術文化やその精神性は、今も倉吉に息づいている。『温故“為”新』（ふるきをたずねて新しきを為す）。県立美術館新設整備を契機に新しき人よ目覚めよ！」と訴えました。

波田野頌二郎さん

熱心に聴き入る受講生のみなさん

古代の里に雅楽流れる　　鳥取雅友会

2018 年 11 月 10 日

鳥取市の国史跡・青谷上寺地遺跡の保存活用策を検討している協議会（鳥取県・鳥取市などで構成、久野浩太郎会長）は、青谷町総合支所ホールで「青谷の古代に親しむ・雅楽のゆうべ」を開き、およそ100人が鳥取雅友会の雅楽を楽しみました。

青谷上寺地遺跡は入り海に面した港湾集落遺跡で、2000年ほど前の弥生時代に存在したといわれています。弥生人の脳をはじめ、精巧な木製品や鉄器、戦いで傷ついた「殺傷痕人骨」など出土品は多種多彩で、当時の暮らしぶりをうかがわせることから、「地下の弥生博物館」とも呼ばれています。とくに人骨群の遺伝子分析で日本列島人の成り立ちなどの研究が続いており、大きな期待が寄せられている遺跡です。

また、近年は近くの青谷横木遺跡から古代山陰道が見つかり、そこから出土した板に国内2例目の「女子群像」が描かれていたことや全国初の柳の街路樹も発見されるなど、こちらも飛鳥時代から平安時代を代表する遺跡として注目されています。

その「女子群像」板絵は6人の女性が行列しているもので、唐や高句麗の墓室に描かれたものと似ており、県埋蔵文化財センターは葬送儀礼に関連している可能性があり、青谷の地に渡来系豪族がいたのではないかと推測しています。

そんな古代の里で雅楽のゆうべが開かれました。心を揺さぶる「音」はいつの時代でも祈りや祭祀、人々の暮らしに欠かせません。青谷上寺地遺跡でも小さな箱形の「琴」や「土笛」などが出土しています。雅楽は453年の允恭天皇崩御の際、中国から入り、日本古来の音楽と融合して平安時代に完成したといわれており、千数百年続いています。古代の里・青谷にふさわしい伝統音楽といえます。

雅楽は鳥取雅友会（森川道弘代表）の12人が、結婚式などでおなじみの「越天楽」はじめ、声楽の催馬楽（さいばら）「更衣」、舞楽「陵王」など5曲を次々と演奏し、舞いました。観客は古式ゆかしい音楽を堪能するとともに、青谷の悠久の歴史に思いをはせていました。

青谷の古代に親しむ　雅楽のゆうべ

鳥取雅友会・森川道弘代表（左）

神社めぐり始まる　　奥日野ガイド倶楽部・多田重美さん

2018 年 11 月 11 日

日野軍秋の陣のイベントのひとつ、初の日野路神社めぐりがありました。これを皮切りに旧溝口町を含む日野郡内78社を順回し、たたらの里の歴史や文化を訪ね、学びます。

奥日野ガイド倶楽部や鳥取県社会福祉協議会が企画したもので、チロル観光主催、鳥取県神社庁日野支部などが後援して実現しました。日野郡は古くからたたら製鉄が盛んで、鉄生産の祖先神・楽楽福（ささふく）神社などが点在しています。ささは砂鉄、ふくは鉄づくりの送風機「ふいご」が由来で、縁起の良い「福」を名乗る神社も多くあります。

鳥取県観光連盟は県内中西部（伯耆国）の縁起の良い名前の神社を選んで「開運8社めぐり」を勧めているところですが、それは福富・福積神社（以上倉吉市）▽豊栄神社（琴浦町）▽富益神社（米子市）▽金持神社（日野町）▽福成・福栄・楽楽福神社（以上日南町）—の8社。半分は日野郡です。

神社めぐりは日南町にある20社のうちから、石見・大石見・福成・福栄・多里・楽楽福の6社を選んでスタートしました。ふだん簡単には回れないコースとあって、米子、境港、倉吉、松江などから申し込みがあり、定員（25人）を超える人気ぶりでした。

コース沿道は石霞渓はじめ、全山が紅葉。神社境内もイチョウの葉で埋まり、参加者は深まりゆく奥日野の秋を楽しみました。樹齢推定600年の大イチョウがご神体の大石見神社は、大国主命2度目の復活の地として有名ですが、多田重美宮司は「その現場は大倉山のふもとですが、場所の特定までには至っていません」と首をかしげます。

ガイドの日南町観光協会・松本みはるさんによると、福栄神社は田中大明神が転じてできたものらしく、縁起の良い名にちなんで宝くじの願掛け、お礼参りに訪れる人が多いそうです。神社前には特産品販売の「福の里」があり、野草茶でおもてなし。同町花口のすみれ会（河田紀美子代表、18人）が深山で採取したクロモジ、ゲンノショウコウ、ドクダミなど16種類の野草を煎じて作った秘伝の健康茶で、便通によいと評判だそうです。

多里神社は祭礼日で、県無形文化財の「かしら打ち」の実演がありました。太鼓を踊りながらたたくもので、県内では豊栄神社と2カ所だけに伝わる珍しい神事です。派手な衣装で、「あーらさ」「どっこい」などと掛け合いながら、打ち方を変え、奉納の舞いを繰り広げていきます。子どもたちも先輩のお兄さんたちに交じって、懸命に太鼓を打ち鳴らしていました。そして伝統は守られます。収穫の多い神社めぐりでした。

初めての日野路神社めぐりに参加したみなさん（福栄神社）

大石見神社から見える分水嶺・谷田峠について説明する多田重美宮司

多里神社のかしら打ち

岩見神社で「天王さんの銀杏」、福成神社で「飾りかぼちゃ」をいただきました

毎朝笑っていきいきと　　桂小文吾さん

2018 年 11 月 11 日

鳥取市国府町の大茅地区公民館（高橋宏明館長）でおおかやまつりがあり、米子市の落語家・桂小文吾さんがメーンイベントに出演し、まつりを盛り上げました。

小文吾さんの出番は講演、落語、踊りの三本。講演テーマは「笑いは人生の宝」。小文吾さんは笑いを交えながら、笑いの効果・効能や日頃の心がけなどを話しました。腹式呼吸で息を大きく吸い込んで、大きな声で笑いながら吐き出すと、がんなどを退治する細胞が活性化するそうで、「毎朝鏡を見ながら、大きな声で笑いましょう」と呼びかけました。

落語の演題は「二日酔い」。酔いつぶれた相方を引きずりながら、やっとのことで家に連れ帰ったと思いきや、連れ帰ったのは全くの別人で、明け方に本人が帰宅してきて、妻も本人もびっくりするというドタバタ話。とても82歳とは思えない小文吾さんの生き生きとした落語に、会場は笑いが絶えませんでした。

シメは「おとこ人生夢芝居」の曲に乗って、華麗な舞いを披露。ここでも笑いを誘いながら、観客を大いに楽しませました。

小文吾さんは落語のほかに劇団で活動したり、毛糸の張り絵をたしなむなど多芸多才です。「お声がかかるうちが花。まだまだがんばります」と意気盛んでした。

桂小文吾さん

おおかやまつり

鹿野の山に月をこそみれ　　田中精夫さん

2018 年 11 月 12 日

鳥取市民大学の郷土歴史講座は市文化センターであり、鹿野城主・亀井茲矩の大河ドラマ化を目指す田中精夫さん（鳥取県を舞台に！　歴史大河ドラマを推進する会共同代表）が安来市の大河ドラマ候補・山中鹿介と連携すれば、実現可能と力説しました。

山中鹿介（1545～1578年）は勇猛果敢で山陰の麒麟児といわれ、主家尼子氏の再興を願って三日月に「願わくば我に七難八苦を与え給え」と祈った武将で、戦前は教科書に載るほど有名でした。その義弟が亀井茲矩（1557～1612年）です。豊臣秀吉の鳥取城攻めに加わって鹿野城を手に入れ、関ケ原の戦いでは徳川家康にくみして版図を広げ（3万8千石）、息子の政矩に家督を譲った後、鹿野で56歳で没します。亀井家は池田光政が因伯の藩主になったのに伴い、津和野に移りました。

茲矩の地域経営は高く評価されています。新田開発に力を注ぎ、千代川左岸に大井手用水を通して良田をつくり、日光池や湖山池も干拓して石高を増やしました。古事記の素兎神話をもとに白兎神社を創建し、筑前から先達を招いて夏泊で海女漁を始めました。また、領内の60歳以上の老人を終日楽しませる、今で言うの敬老会を開いているほか、奥日野・大倉山では銀山や鉄山経営をしたといいます。

特筆されるのは朱印船貿易です。東南アジア諸国に刀剣や蒔絵などを輸出し、ちりめん、毛織物、ショウガなどを輸入しました。ショウガ栽培は今でも地域の特産品として受け継がれています。司馬遼太郎は「街道をゆく」で、「茲矩は戦国大名のなかでは奇跡の教養人。山間の小天地にいながら、広大な世界を思っていた。インド趣味があり、鹿野城を王舎城、鹿野城下を鹿野苑（ろくやおん）と呼んだ」などと書いています。

もちろん茲矩も七難八苦の人生でした。秀吉の朝鮮出兵の際には、水軍で臨んだものの、朝鮮の李舜臣に船をすべて沈められたうえに、秀吉からもらった軍扇を奪われる始末で、九死に一生を得ました。関ケ原の戦いの後の鳥取城明け渡しでは、苦戦を強いられ、因幡13万石の恩賞手形をフイにしたりしました。

茲矩の辞世の句は「秋風に雲間をいでし我が身にて、鹿野の山に月をこそみれ」です。「鹿介が主家再興を三日月に誓ったように、茲矩もその志を継いで、艱難辛苦の人生を生き抜き、鹿野にやっと理想の都をつくることができましたよ、と言っているのではないでしょうか」と田中さん。「鹿介―茲矩が連携すれば、面白い大河ドラマになるはずです」と自薦しています。ちなみに、安来市の「山中鹿介の大河ドラマ放映を目指す会」では2009年から署名活動などを続けています。

田中精夫さん

亀井茲矩像

山中鹿介の銅像
（安来市観光協会
ホームページから）

そば打ちは楽しい、おいしい　　小谷明男さん

2018 年 11 月 16 日

鳥取県社会福祉協議会の職員互助会・しらすな会は、鳥取市の福祉人材研修センター調理室で「そば打ち体験会」を開きました。講師は国府町・吉野そばの会の小谷明男さん。30人が楽しく体験しました。

吉野そばの会は殿ダムそばの集会所「吉野ふれあいの里」が拠点です。毎週日曜日の昼時、小谷秀雄会長らが「そば屋」を開業しています。転作でそばをつくったのがきっかけで、平成12年から続いています。安くて、おいしいと評判です。

そば打ち体験会には講師の小谷明男さんが麺打ち台、麺棒、そば包丁など持参で駆け付け、〝出前実習〟しました。

５人ずつ6つのテーブルに分かれて、そば粉と強力粉、卵黄水をこねます。小谷さんは「表面にしっとりとつやが出るまでよくこねて」と指導して回ります。このこね具合が麺の腰を決めるそうで、念を入れてこねます。次に麺棒で厚みに注意しながら、四角に延ばし、たたみ、駒板を当てて麺切りしていきますが、時々きしめん状になり、歓声が上がります。それらを沸騰した大なべに入れ、浮き上がってくるのを待ち、水洗いすると出来上がり。ここまでざっと1時間半。いよいよ待望の試食です。

小谷さんから「刻みのりが乗っているのがざるそば、単にもってあるのが盛りそば」「そば湯は体によいので飲んでください。とくに高血圧の方にはオススメです」など、うんちくを聞きながら、楽しい、おいしいそば打ち体験が過ぎていきました。

そばのこね方を指導する小谷明男さん

そば打ちは楽しい

そば１人前、出来上がり

殿ダム近くにある「吉野のそば」

山陰のレオナルド・ダ・ヴィンチ　　佐々木彬夫さん・杉谷愛象さん・高橋竫夫さん

2018 年 11 月 17 日

山陰のレオナルド・ダ・ヴィンチといわれる富次精斎の足跡をたどるツアーがあり、富次精斎の足跡をたどる会の佐々木彬夫代表はじめ、杉谷愛象さん、高橋竫夫さんの3人がガイドしました。23人が参加し、米子市や日野郡などに残る精斎の作品を鑑賞しました。鳥取県社会福祉協議会・とっとりいきいきシニアバンク「生涯現役」共催。

富次精斎（本名傳蔵、1856～1944年）は島根県井尻村（安来市）生まれ。幼少のころから木工指物に非凡な才がみられ、宮大工に弟子入り。地元の八幡宮や天満宮を建立した後、寺社建築の彫刻の重要性を痛感し、彫刻研究のため京都の高村光雲に弟子入り。光雲と兄弟の約束をするほど、その才能を認められます。

帰郷したものの、財力不足の農村に仕事はなく、才能を持て余す日々が過ぎましたが、1905年頃に転機が訪れます。皇太子（後の大正天皇）行幸の米子市の宿舎「鳳翔閣」の建築を任され、名声は一気に上がり、大神山神社や根雨神社などを次々に手がけました。

精斎は建築や彫刻以外にも風車式稲籾機（脱穀機の元祖）や曽木式製造機（製粉機の元祖）を考案するなど、発明家としても活躍。その多才ぶりはまさに“レオナルド・ダ・ヴィンチ”をほうふつとさせるものでした。

これらの功績に光を当てようと、精斎生誕160年にあたる2016年に中海圏域の3団体（安来市ボランティアの会、米子の宝88選実行委員会、奥日野ガイド倶楽部）が「富次精斎の足跡をたどる会」を立ち上げ、精斎の生誕地や作品が残されている山陰各地を巡っています。3回目にあたる今回は、大正から昭和初期にアトリエを構えたといわれる伯耆町の木嶋邸、深い彫りの欄間がある楽楽福（ささふく）神社、日野町の延暦寺、根雨神社、古民家沙々樹など9カ所を巡りました。

ツアーには出雲大社の「平成の大遷宮」を手がけた宮大工・後藤史樹さんも参加しており、「曽祖父が精斎の弟子だったと聞いている。その縁もあり、今回ツアーに参加し、作品を拝見したが、どれも見事な作品ばかりだった」と感嘆していました。富次精斎の足跡をたどる会は「精斎の価値を多くの方に知ってもらいたい。そして後世にしっかりと伝えていきたい」と、その思いを強調していました。

佐々木彬夫さん

杉谷愛象さん

延暦寺欄間

根雨神社新築の碑

高橋竫夫さん

樂樂福神社欄間（伯耆町）

古民家沙々樹の欄間

参加者のみなさんで記念撮影（古民家沙々樹）

市民活動フェスタ　　鳥取流しびな真向会・のばなの会

2018 年 11 月 17 日

「来て見て知って、あなたも仲間！」をテーマに鳥取市の市民活動フェスタが鳥取駅南の高齢者福祉センターであり、29団体が日ごろの活動ぶりを紹介しました。市民400人が参加しました。

実行委員会（竹内房男委員長）と市ボランティアセンターの共催で、市内で活動する団体が集まり、市民と交流し、PRするイベントです。9回目の今年は市レクリエーション協会、日本フォークダンス連盟県支部、山王さん周辺活性化協議会―など、福祉・スポーツ・環境保全・災害救助・まちづくりなどで活躍している29団体が集まりました。

シニアバンクに登録している鳥取流しびな真向会（西村正枝代表）とのばなの会（荻原元春代表）も参加しました。

真向会は健康体操のグループです。1回3分の真向法体操で筋力を高め、心も体も真っすぐにするというもので、全国46都道府県で100万人が実践中といいます。鳥取県では平成20年から始まり、鳥取市と八頭郡の10カ所で教室を開き、71人が健康づくりに励んでいます。詳しくは西村代表へ（電話090－7594－0627）。

フェスタのこの日も、市内の62歳の女性が「腰が痛くて」と相談に見え、腹式呼吸とともに股関節や腰周りのストレッチなど真向法の基本体操を学びました。西村代表は「骨盤や姿勢を整えれば、生涯現役で歩けます」とアドバイスしていました。

のばなの会は平成27年から歌と介護予防体操で福祉施設をボランティア訪問しています。メンバーは15人、訪問回数は年間50回余りになるそうで、時にはワンちゃんを連れて訪問しています。ワンちゃんの癒やし効果は抜群だそうです。

介護予防指導士の荻原代表はフォークソングクラブTOTTORIの初代リーダー。アコースティックギターの生演奏で童謡・唱歌・懐かしの歌などを披露しています。フェスタではステージで「上を向いて歩こう」「この街で」を手話付きで歌唱指導しました。

荻原代表によると、童謡コンシェルジュで公立鳥取環境大学の山西敏博教授、のばなの会、とうふるーとのイワミノフ・アナミール・アゾースキーさんが一緒になって、県内3会場で「童謡で元気になりましょう」コンサートを開くそうです。

真向法体操を手ほどきする西村代表

のばなの会の荻原代表

ジビエカレーに長い行列ができました

長寿の姫柿育てませんか　　鳥取姫柿愛好会

2018 年 11 月 19 日

鳥取姫柿愛好会（五百川猛会長、13人）の姫柿盆栽展が鳥取市の県民ふれあい会館であり、会員の力作を発表するとともに、可憐で長寿の姫柿栽培をPRしました。

姫柿は中国原産の渋柿。浙江・江蘇・福建省などの奥地に自生しており、ロウヤガキ（老爺柿、老鴉柿）と呼ばれています。手のひらに納まるほどの小さな実をつけ、赤色・黄色・だいだい色、長実・丸実など色も形もいろいろです。この多種多様さで、日本では盆栽や庭木に活用されています。

鳥取愛好会の盆栽展は今年で9回目です。会員それぞれ3～4鉢出品し、出来栄えを比べ合いました。柿の品種は「赤頭巾」「長寿」「紅真珠」「楊貴妃」「萬寿」など100種類ほどあるうえ、枝ぶりも工夫できるとあって、展示会場はにぎやかです。来場者は個性豊かなそれぞれの姫柿を見比べて、「これ、かわいい」「格好いい」などと観賞していました。姫柿の盆栽は床の間や玄関、食卓に飾る人が多いそうです。

会員の村上豊之さんによると、種を3～4月に植えると、梅雨のころには芽が出て、水や肥料を欠かさず3～4年育てると、実がつくそうです。異種交配したり、種から育てるので、世界に一つしかない樹種が誕生することが多く、姫柿栽培の魅力といいます。

展示会場では実生用の姫柿の実が無料配布され、会員は「栽培方法を教えてあげます。身持ちの良い長寿の木を育てませんか。楽しいですよ」と呼び掛けていました。

にぎわう姫柿盆栽展

会場のあちこちで品種、枝ぶりを語り合う

姫柿の実をどうぞ

おだしはとことん再利用　　倉吉まちゼミ・鶴乃觜

2018 年 11 月 21 日

「倉吉まちゼミ」がにぎわっています。お店の店主やスタッフが講師になって専門知識やプロの技を無料で教えるミニ講座。お店のファンづくりが狙いです。倉吉商工会議所主催で4年目。今年は30店（事業所）が参加し、「学ぶ」「つくる」「きれい」「食べる」「健康」をテーマに40講座が開かれています。12月7日まで。

＊　　＊　　＊

鉄道公園近くの鶴乃觜（井上裕貴社長）でまちゼミがありました。鶴乃觜は前身が明治町の井上みやげ館です。同館があった地番が社名の由来だそうで、堺町に引っ越して25年たちます。創業は大正3年のバス・ハイヤー事業がルーツですから104年になります。そんな歴史をベースに鳥取県はじめ全国の誠実・優良商品を扱い、つくる店に発展しています。甘味処「亀の尾」も併設しています。

まちゼミのテーマは「常備菜をつくろう」。家庭にあるもので、簡単におかずをつくろうというわけで、井上社長の奥さん・容子さんとスタッフの宮本佳世さんが、だしを取った後のカツオ節や昆布を使って、そぼろふりかけをつくりました。受講生は5人。容子さんは「料亭ではないので、だしは捨てずに再利用しましょう」と言いながら、細かく刻んだカツオ節と昆布に砂糖、みりん、しょうゆ、酢などを加えながらフライパンで炒めて、白ごまを混ぜて仕上げます。

おからのドライカレーもつくりました。フライパンで豚ひき肉、ニンジン、玉ねぎ、セロリ、ピーマンを炒め、おからを加え、カレーパウダーまたはカレールーを刻んで入れて炒めます。安上がりで、おなかになるので、受講生から「おやつにもなるし、ダイエットにもなる。さっそく家で試してみる」という声が上がっていました。

講師の容子さんは「おだしはとことん利用できるので、よいものを選びましょう。イリコは『へ』の字になったもので、おなかから黒いうるかが出ていないもの。チャーハンや酒のアテにも使えます」などと解説していました。受講生の恩田恵子さん（倉吉市）は「家族の健康のかなめは主婦。忘れないうちに今日の勉強の成果を試してみます」と張り切っていました。

井上容子さん

おだしは捨てずに使いましょう

鶴乃觜

鳥取県のワイン特区発進！

倉吉まちゼミ・倉吉ワイナリー

2018 年 11 月 21 日

古い町並みが残る倉吉市西仲町に倉吉ワイナリーが誕生しました。開業を前に倉吉まちゼミがあり、今村憲治社長が「ワインは料理の引き立て役。世界中で飲まれている陽気なお酒です」と愛飲を勧めました。ワイナリーにはワインショップやワインバーもでき、昨年認定の「倉吉・湯梨浜・北栄ワイン特区」がいよいよ動き出します。

今村社長は京都市生まれ。ワインづくりを目指して50歳で会社を辞め、鳥取県立農業大学校で学び直します。砂丘地の北栄町でブドウ栽培し、県外のワイナリーに生産委託してきましたが、昨年の暮れの特区認定（製造数量の基準緩和）で自前のワインがつくれるようになり、「いまむらワイン＆カンパニー」という会社を興し、商家を改造してワイナリーを整備しました。ここまでおよそ10年かかりました。

今村代表によると、仲間も増え、いまブドウ畑は延べ1．5ha。ワイン用のメルロー、マスカット・ベーリー、甲州など6種類を栽培し、今年は約3klのワインを仕込んだそうです。さらに栽培面積を増やして、ワインを増産したいといいます。

さて、倉吉まちゼミです。今村社長自ら4人の受講生に「ワインの超々基礎講座」を語りました。もちろんできたばかりのワインを飲みながら。

それによると、ワインは料理の引き立て役で、色や味の重さや味の方向性をそれぞれ合わせるそうです。マグロやカツオの赤い魚なら赤ワイン、ポークや白身魚なら白ワイン、スパイシーな味なら赤ワイン、薄味なら白ワインといった具合です。困ったときはスパークリングといいます。ワインのソムリエは料理の専門家で、料理に合ったワインを選ぶのが仕事だそうです。

講義はソムリエナイフを使ったワインのコルク栓の開け方やワイングラスのスワリングの仕方、ワインの保存方法などに及びました。ちなみに飲み残しのワインは変化しておいしくなるそうで、白は4日、赤は1週間が開栓後の賞味期限といいます。

今村社長は「ワインは世界中で飲まれてきました。8000年前のジョージアの遺跡から、その痕跡が発見されました。陽気で明るくなるお酒です。料理とワインの組み合わせが楽しめるので、女性も大好きです。繊細な和食には日本ワイン（国産ブドウ100％のワイン）が最適です。日本食ブームで日本ワインの輸出が増えています」と、近年のワイン事情も報告しました。

今村憲治さん

倉吉ワイナリーのまちゼミ

まっさらな醸造タンクが勢ぞろい

倉吉ワイナリー

楽しく踊れば若返る　　鳥取県フォークダンス連盟

2018 年 11 月 23 日

鳥取県フォークダンス連盟（荻原恵子会長）の創立10周年記念大会が鳥取市の鳥取産業体育館であり、100人余りの愛好者が新たなステップを踏んで前進することを誓いました。日本フォークダンス連盟県支部（中島喜久江支部長）共催。

県フォークダンス連盟は平成20年の発足。県民踊指導者連盟とともに県支部を構成しており、フォークダンスやレクリエーションダンスの普及啓発に励んでいます。県内の活動サークルは27団体あります。

記念大会はポーランドのフォークダンスで開幕。初代会長の濱田三代子さん、前支部長の西垣康子さんにそれぞれ感謝状を贈った後、日本フォークダンス連盟公認指導者の前田和弘・弘子・七音さんファミリーの指導で、ジョン・カナカナカ（ハワイ）、シャパット・シャローム（イスラエル）、茶葉青（台湾）など世界各地のフォークダンス7曲を踊りました。

体育館いっぱいに輪になり、手をつなぎ、一体となって移動を繰り返すフォークダンス。参加者は花柄や刺しゅうが入ったブラウスやベスト、ふんわりスカートなど、かわいらしいフォークダンス衣装で決めて楽しく踊ります。中島支部長によると、踊れば、だれもが明るくなり、元気になり、若返るそうです。参加者の平均年齢は70歳前後とか。会場は笑顔であふれていました。

衣装を決めて、かわいらしく

荻原会長（右）と中島支部長

輪になって踊ろうフォークダンス

無名だった鳥取砂丘　　小山富見男さん

2018 年 11 月 25 日

戦前の地理の教科書や地図帳で話題提供する「歴史地図をめぐる冒険」が、鳥取市歴史博物館近くのおうちだにグランドアパートであり、約30人が戦前の日本や鳥取県について考えました。県史編さん委員の有志が企画したもので、現代部会長の小山富見男さんがリードしました。鳥取県社会福祉協議会・シニアバンク「生涯現役」共催。

企画のきっかけになったのは、鳥取市西町の上田勝俊さんのコレクション。上田さんの父、故・博愛さん（元鳥取大学農学部長）が陸軍中尉だったころに集めた明治時代から戦前の地図帳など25点余りで、現代とは異なる視点や表記の地図を多くの市民に見てもらいながら、戦前の国際情勢などを一緒に考えようと、地図で遊ぶ「冒険」を試みることにしたものです。

リーダーの小山さんが話題を提供し、県史編さん委員の岩佐武彦さん、石田敏紀さん、佐々木孝文さん、西村芳将さんが話を広げ、深掘りし、これに市民も質問で参加して冒険心・探求心をかきたてました。

取り上げられたのは明治34年の「大日本帝国新地図」（近藤堅三編纂）。日清戦争後の地図です。戦争で清から割譲した遼東半島を三国干渉で返還したいきさつもあって、そのエリアを「大日本旧占領地」とするなど、日本の無念さを地図に表しています。また、日清戦争では台湾を割譲しましたが、台湾の玉山（3952m）が富士山（3776m）を抜いて日本一の山になり、新たな最高峰誕生というわけで「新高山」と呼ぶようになりました。日米開戦の暗号文「ニイタカヤマノボレ」の山です。

この新高山をトップに地図には日本の山々の高山表が尺表示で掲載されています。我が鳥取県の大山も6千尺～5千尺の間に位置しています。ただ、どうしたことか、アルプス1万尺の歌に登場する「槍ヶ岳」が不掲載です。トークセッションは「アルプス1万尺　小槍の上で　アルペン踊りを　さあ　踊りましょ」とふくらみ、山男たちが作った歌詞は槍ヶ岳―穂高―上高地まで29番まであるそうだなどと深掘りしました。

次いで紹介されたのは大正7年の地理の教科書「帝国地理」（帝国書院）。日露戦争勝利で領土拡大したこともあって、国土の広さは8強国中第4位と意気高らかです。農水産物や鉱物など地域産物の生産高はわかりやすいイラストで表記され、しっかり国威発揚しています。しかし、鳥取県紹介のスペースは他県に比べて少なく、大山のすそ野で牧牛・牧馬が盛んなどとある程度で、鳥取砂丘は全く触れられていません。このころは軍事は地理の範ちゅうで、教科書には兵役年数や師団司令部の所在地なども掲載されています。

リーダーの小山さんは「日本の近現代がいろいろ見えてくる歴史地図の冒険を今後も続けましょう」と話していました。

小山冨見男さん

鉄路がなかった鳥取県
（明治３０年代）

「歴史地図をめぐる冒険」会場
（おうちだにグランドアパート）

大日本帝国新地図
（明治３４年、台湾は日本領土になり、遼東半島は大日本旧占領地と表示されている）

写真写りがよくなる講座　　倉吉まちゼミ・写真のカワラジョー

2018 年 11 月 27 日

倉吉まちゼミ・家族写真館カワラジョーの「写真写りがよくなるための写され方体験講座」があり、オーナーフォトグラファーの河原條秀紀さんが受講生に写真写りがよくなる術を手ほどきしました。

家族写真館カワラジョーは倉吉市八屋にあります。河原條さんは2代目、写真歴45年。国展や日本写真文化協会などの受賞歴があり、県写真館協会の会長などを務めてきました。得意分野は人物写真や肖像写真。これまでに婚礼写真などで1万人以上撮影したそうです。

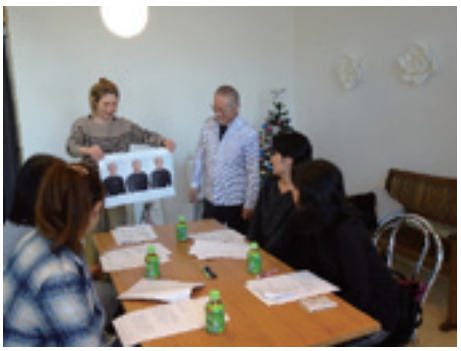
たくさんの人を撮り、プリントしてきましたが、多くの人が自分の写真に満足していないことを知ったといいます。その一例として、日用品流通の情報会社・プラネットが「写真の意識調査」（2016年調べ）をしたところ、7割近い人が写真に写るのが嫌いで、その理由の大半は「写真写りが悪いから」「自分の顔やスタイルが嫌いだから」だったといいます。とくに女性に、その傾向が強いそうです。

そこで河原條さんは、まちゼミで「写真写りがよくなる講座」を続けています。写真講座といえば、ほとんどが写真の撮り方指導ですが、ここの講座は撮られ方指導です。女性に人気があり、この日の受講生も女性ばかりでした。

さて、その講座。写真で美人に見える条件は左右対称だそうですが、残念ながらヒトの顔や骨格は左右対称になっておらず、自らの体形、顔の特徴や姿勢を知って、よりよく見える角度を探すことが大切といいます。受講生それぞれ、正面・左肩前・右肩前の3方向から撮影してもらい、顔の表情も整えて、最良のポーズづくりに挑戦していました。

河原條さんによると、スマホやコンパクトデジカメなどは画面の端の方が顔や体が広がって写ることが多く、狭い場所での集合写真もそうなりがちだそうで、集合写真の場合は両脇側を避けましょうとアドバイスしていました。また、より良く写るポイントは①写されることを楽しむ②何より表情が大切—と〝極意〟を伝えていました。

河原條秀紀さん



写真の写され方講座

一人ひとりベストポーズを決めて

「家族写真館」カワラジョー

珍しい昆虫見かけたら…　　田村昭夫さん

2018 年 12 月 1 日

昆虫の観察を通じて鳥取県の自然を考えるシンポジウムが鳥取市の県立博物館であり、鳥取昆虫同好会長の田村昭夫さんが「鳥取県で新たに見つかった昆虫たち」について報告しました。鳥取県生物学会と県立博物館の主催。約50人が参加しました。

昆虫は地球動物の4分の3を占め、その種類は120万種以上といわれています。頭・胸・腹の3部からなり、頭に1対の触角と1対の複眼、胸に3対の足と2対の羽があります。あらゆる環境に生息しているので、昆虫の存在がヒトの生存のバロメーターといわれています。

田村さんによると、鳥取県の昆虫はチョウ123種、バッタやキリギリスなどの直翅類129種＋α セミ13種、トンボ88種＋α ハンミョウ9種で、ガやカミキリムシは不明といいます。

近年、鳥取県で見つかった昆虫は、地球温暖化に伴ってナガサキアゲハ、イシガケチョウ、タイワンウチワヤンマなどが北進してきています。また、温暖化によるパンジーの周年栽培など、植栽の変化でツマグロヒョウモンなども見られるようになっています。シイタケのホダ木に害を加えるハラアカコブカミキリなども国内外の物資輸送拡大に伴って入ってきています。侵入過程不明ながら、鳥取市湖山町では「赤いクワガタ」とも呼ばれるヒラズゲンセイも見つかっているそうです。

注意すべき昆虫は首回りが赤いクビアカツヤカミキリです。中国、台湾、朝鮮半島などが原産地で、桜や梅や柿などに入り込んで枯死させるそうで、愛知・埼玉・群馬・東京・大阪・徳島などで見つかり、その生息場所は広がりつつあるといいます。古木、大木が被害にあいやすく、花見や果樹栽培がピンチです。環境省は2018年特定外来生物に指定し、成虫を見つけた場合は捕殺し、最寄りの関係機関へ連絡してほしいと呼びかけているそうです。

田村さんは「昆虫の分布拡大は温暖化ばかりではなく、物流の発展など人為的なものが大きくなっています。身近なところを普段からよく観察して、記録に残しておいてほしい。珍しい昆虫がいたら、すぐ連絡してほしい」と話していました。田村さんの連絡先は電話0858-22-7707です。

田村昭夫さん

北進してきた昆虫たち

クビアカツヤカミキリ

森には発見がいっぱい　　山本福寿さん

2018 年 12 月 1 日

木育サポート森のきこりん（木山美佐枝代表）は、倉吉市の伯耆しあわせの郷で木や森の魅力を知る木育講座を開き、智頭の山人塾・山本福寿塾長が森には発見がいっぱいあることを座学と山歩きで伝えました。

山本塾長は元鳥取大学教授（樹木生理学）。退官後、智頭町に引っ越し、2年前から旧山形小学校を拠点に林業や山での暮らしを応援する講座を開いています。子どもから大人まで、塾生たちは山菜採り、昆虫採集、キノコ狩り、スノーシューなど春夏秋冬の森の恵みを学び、楽しんでいます。

この日の木育講座は「森林について」。どうして木は生長し、枯れていくのかです。山本塾長は光合成の仕組みや針葉樹と広葉樹の違い、植物ホルモンの役割などについて詳しく説明しました。

それによると、針葉樹は約2億年前のジュラ紀からあり、世界に750種ほど残っているのに対し、後発の広葉樹は世界で20万種以上確認されているそうです。また、木は根から吸い上げた水を太陽のエネルギーで酸素と水素に分け、水素と空気中の二酸化炭素で養分をつくって生長し、酸素を吐き出していますが、自らが作り出す植物ホルモンで生長の促進や抑制などを調節しているそうです。種なしブドウづくりに使われるジベレリン、落葉を促すエチレン、生長を止めるアブシシン酸、菌を殺すサルチル酸などで、それぞれ相互・拮抗作用しながら、役割を果たしているといいます。

座学の後、参加者は伯耆しあわせの郷の裏の森で林相学習。カラスの仕業か山道のあちこちにビニール袋やトレーなどが散乱しており、ごみ拾いしながら、およそ1時間歩きましたが、山本塾長は「エンマ様は見ています。良いことをすれば、良いことがありますよ」などと、山歩きのマナーを伝えていました。

木育講座は島根大学名誉教授の山下晃さん考案の木育ロボット「ロボ木一」づくりもあり、約30人の大人が参加しました。

山本福寿さん

ゴミ拾いを兼ねて、山歩きで
木の学習

木育ロボット「ロボ木一」

倉吉市公民館まつり　　小鴨地区振興協議会太一車歴史文化部会・林かおるさん

2018 年 12 月 8 日

倉吉市の公民館まつりが倉吉未来中心であり、市内13の地区公民館が日ごろの活動成果を発表、交流しました。12月8日にはステージ発表があり、シニアバンク登録の小鴨地区振興協議会の太一車歴史文化部会とその仲間たちが郷土が誇る中井太一郎の顕彰劇を演じるとともに、ジャズピアニスト・林かおるさんもゲスト出演し、テネシーワルツなどを披露しました。

公民館まつりは倉吉市公民館連絡協議会（松井幸伸会長）と倉吉市教育委員会の共催で、今年で30回目。会場の倉吉未来中心のアトリウムには書道や絵画、手芸など約400点の作品が並び、大ホールでは各公民館が趣向を凝らした演芸を繰り広げました。

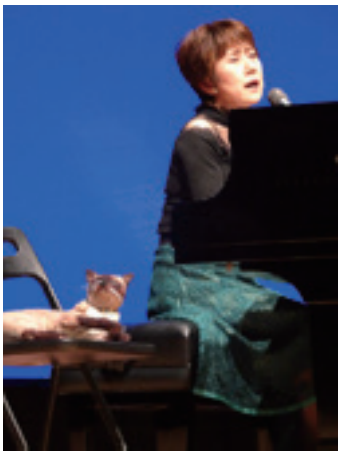
このうち、小鴨地区は総勢30人余りのスタッフで日本近代農業の父・中井太一郎をテーマにした寸劇を披露、田の草取りの歌「太一車」を発表しました。団長・小原勝美さん、振り付け・冨田厚子さん、太一車作詞・北村隆雄さん、コーラス隊代表・青木千秋さんなどのスタッフでおよそ50日間、舞台進行を練り、練習を重ねてきたといいます。歌のメロディーはあの替え歌「おたまじゃくしはカエルの子」や「権兵衛さんの赤ちゃん」などでおなじみのアメリカ民謡・リパブリック讃歌です。

歌は「田の草ほーんによ一伸びる」と田の草取りの重労働を嘆きます。それを解消したのが太一車。「コロコロコロ泥の中、立って押すだけよ一取れる。これで秋には豊作だ」と歌い上げています。その米で小鴨地区のみなさんは、「太一のき餅」という名物づくりに乗り出しているほか、アフリカ大陸での米づくりに太一車が活躍していることを追い風に、太一郎のテレビドラマ化の運動を進めています。

この日の顕彰劇も地区住民が一体となり、「すばらしい」と好評でした。

公民館まつりには倉吉市の林かおるさん（ピアノ）と湯梨浜町の高田拓人さん（バイオリン）がゲスト出演。デュオで「A 列車で行こう」「情熱大陸」など4曲を披露し、会場から大きな拍手を集めました。

太一車歴史文化部会とその仲間たち



林かおるさん

倉吉市公民館まつり
（倉吉未来中心）

トウフルート吹けたゾ！　　イワミノフ・アナミール・アゾースキーさん

2018 年 12 月 8 日

鳥取市の桃の里・神戸地区の公民館で、かんど冬の祭典があり、イワミノフ・アナミール・アゾースキー（河下哲志）さんがゲスト出演し、世界で唯一の食べられる楽器・トウフルートを紹介しました。

かんど冬の祭典は田んぼ電飾が発展して地域のお祭りになったものです。みんなで公民館を電飾し、お母さんたちがおにぎりや豚汁をふるまい、バザーを出店し、子どもたちのダンス、お楽しみ抽選会などがありました。

ゲストに招かれたのがトウフルート奏者のイワミノフ・アナミール・アゾースキーさん。鳥取名物の豆腐ちくわに歌口をつけ、穴をあけて楽器にしたもので、トウフルート歴12年。北は網走から南は大分、島原まで、全国各地でライブ活動を重ね、これまでに楽器にし、食べた豆腐ちくわは4500本以上だそうです。

この日、演奏したのは「ゲゲゲの鬼太郎」「いつかのメリークリスマス」「輪になって踊ろう」「365日の紙飛行機」など8曲。公演途中で参加者にトウフルートづくりを指導し、試しに吹いてもらいましたが、「ピー」とも「スー」とも全く音が出ません。そのなかで小学5年生の川原羅射矢君が見事、トウフルート独特の甲高い音を鳴らし、会場から大きな拍手をもらいました。

イワミノフさんによると、トウフルートは音の出る場所が限られているうえに、熱などで変形しやすく、演奏中に突然、音が出なくなることがあるそうで、気まぐれな楽器といいます。そんな楽器を扱える川原君は逸材、素質がありますとたたえていました。

冬の夜長、大人も子どもも楽しく過ごしました。

トウフルートにチャレンジ

イワミノフ・アナミール・
アゾースキーさん

にぎわう「かんど冬の祭典」

私たちの活動が映画になった　　清水増夫さん

2018 年 12 月 16 日

映画の自主上映を続けている鳥取コミュニティシネマ（清水増夫代表、14人）は、鳥取市の県立博物館でドキュメンタリー映画「まわる映写機　めぐる人生」の上映会を開きました。映画には清水代表も出演し、50年近くにもなる自主上映活動について大いに語りました。

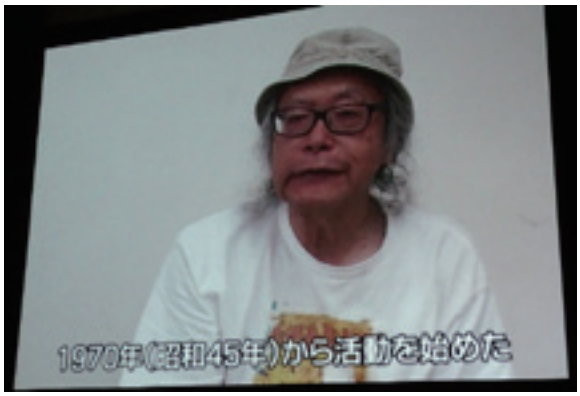
映画「まわる映写機　めぐる人生」（2018年作品）は、さいたま市の映画監督・森田惠子さんが自主制作したドキュメンタリー映画です。「小さな町の小さな映画館」「旅する映写機」に続く、映画にまつわる連作ドキュメントで、森田さんが全国各地の映画を映すことに心を傾けた人たちを訪ねて制作したものです。

映画には10人余りの映写技師や映画鑑賞会の市民や学生などが登場しますが、鳥取コミュニティシネマの清水代表もその一人です。清水さんは20代から映画の自主上映団体「アートシネマ鳥取グループ」「鳥取映画村」「NPO法人とっとりフィルムコミッション」などをつくり、仲間とともに今日まで48年間にわたって400本余りの映画を上映し続け、都会と地方の映画格差の縮小に取り組んできました。

映画会では森田監督と清水代表の対談があり、このなかで清水代表は「映画に出たのは砂の器でエキストラ出演して以来。今回、10分間も出演させていただいたのは、私たちの活動が認められた証」と率直に喜びを語りました。また、森田監督は「記録に残すのは大事なことだと改めてわかった。撮影に出かけなければ、多くの人に出会えない。会えば、それぞれのみなさんが素晴らしい生き方をされていた」と全国の映画人をたたえていました。

さて、その映画内容。清水代表は鳥取弁で自主上映の苦労話を語り、毎年夏には原爆映画を欠かさず上映してきたことを伝えていました。

森田惠子監督（左）と対談する清水増夫さん



映画に出演した清水増夫さん
（映画「まわる映写機　めぐる人生」の一場面）

まわる映写機　めぐる人生のタイトル画

落ち葉で有機肥料づくり　　渡部敏樹さん・梅林敏彦さん

2018 年 12 月 16 日

はちみつなど奥日野産の農産物を売り出している「ぐんぐん・ひのぐん」は、日野町下黒坂で地域にふんだんにある落ち葉と中海の海藻を使った有機肥料づくり教室を開きました。町内外から約20人が参加し、体に優しい肥料づくりを学びました。

講師は境港市の自然農法試験農場・渡部農園の渡部敏樹代表。渡部さんは平成23年ごろから中海の海藻を引き揚げ・乾燥・粉末にし、EM菌（乳酸菌や酵母など微生物の集まり）を加えて有機肥料にして活用する自然農法を実践するとともに、その普及に努めています。中海自然再生協議会や伯州綿連絡協議会などでも活躍中です。

「ぐんぐん・ひのぐん」の世話役で野菜づくりなどに励む日野町の梅林敏彦さんは、海藻の有機肥料化をヒントに、奥日野のあちこちにふんだんにある落ち葉の活用を思い立ち、渡部代表を招いて有機肥料づくりの教室を開くことにしたものです。

参加者は米ぬかと海藻粉末（8対2の割合）に3000ccの水（EM菌、黒蜜各30cc入り）を加えて混ぜ合わせる肥料のもとづくりに挑戦しました。これをビニール袋に入れて、およそ1カ月間密閉しておくだけで、EM菌入り海藻粉末有機肥料ができるそうです。この有機肥料を集めた落ち葉に振りかけ、ビニールシートで覆って発酵させれば、自然の微生物を生かした体に優しい肥料になるといいます。

渡部さんは「有機肥料を使うと手間はかかるが、より自然に近い体に良い野菜ができます。少しずつでもよいから、体に優しい有機肥料を使いましょう」と呼び掛けていました。

教室のお昼には、地元の方々のおもてなしがあり、参加者は日野町産の白菜やなめこを使ったきのこ鍋で冷えた体を温めていました。

渡部敏樹さん

肥料づくりに取組む
参加者のみなさん

梅林敏彦さん

きのこ鍋美味しく
いただきました

ちびっ子はマジックが大好き　　山下眞一郎さん

2018 年 12 月 16 日

鳥取市の鳥取空港近く、湖山西公民館で湖山西っ子のつどいがあり、マジックの山下眞一郎さんがゲスト出演し、ハト出しやリング技などで子どもたちに楽しいひと時をプレゼントしました。

湖山西っ子のつどいは湖山西地区まちづくり協議会（綾木隆会長）の主催。かつては湖山池そばでたこ揚げなどを楽しんでいましたが、クリスマス会ともちつき体験に改めて実施しています。10回目の今年は幼児から小学生まで約90人が参加しました。お世話したのは子ども会の役員らでつくる実行委員会（大久保弘委員長、20人）。子どもたちはリースづくりやもちつきを体験し、きな粉もちやぜんざいを味わった後、コーラスアカシア（邨上美子代表）のリードでクリスマスソングを歌い、サンタからうれしいプレゼントをもらいました。

ゲストに招かれたのがマジックの山下眞一郎さん。赤いスカーフからいきなり白いハトが飛び出すと、子どもたちは大はしゃぎ。そのハトが会場中央まで飛んでいくと、「ホンモノだ」と大騒ぎに。マジックはカード、ロープ、リングと次々に展開。山下さんがタネ明かしをちらつかせながら進めると、子どもたちはステージそばに近づいて「見えた」「わかった」と盛り上がります。ハイライトは折りたたんだ新聞に水を注ぎ、そこから赤い水にして取り出すマジック。山下さんの手慣れた進行に、子どもも大人も「スゲー」と拍手喝采でした。

山下眞一郎さん

湖山西っ子もマジックに参加

もちつきを体験しました

みんなでクリスマス・ソング

悠久の大山さん　　清末忠人さん

2018 年 12 月 22 日

大山開山1300年にちなむ「大山講座」が米子市の日本海新聞西部本社であり、自然に親しむ会の清末忠人会長が大山の豊かな自然を守り続けていきましょうと呼びかけました。110人が聴講しました。

「大山講座」は大山の魅力を発信する人づくりが目的です。大山開山1300年祭実行委員会と日本海新聞、鳥取県社会福祉協議会のシニアバンク「生涯現役」が共催しているもので、2017年1月から大山とその周辺の歴史や自然、文化などをテーマに続いており、開山1301年目となる2019年も「大山さんのおかげ」を引き続き学んでいくことにしています。

今回の講座は「大山の豊かな自然とその魅力」がテーマ。講師は60年余り大山の生物などを見守り続けてきた清末さんです。清末さんは「冬の大山」から悠久の歴史を感じ、作った詩と写真を紹介して話を始めました（詩・写真は別掲）。

それによると、大山は明治半ばまで神宿る山として一般の入山を遠ざけ、孤立峰であるため氷河期の生物が分布しており、昆虫や野鳥の宝庫です。山頂近くには日本最大規模のキャラボク群落があり、1936年（昭和11年）には日本海側で最初の国立公園に指定されました。海抜900～1200mにはブナの純林が広がり、秋にはその紅葉の樹海が大山の景観を盛り立てています。

ただ、大山隠岐国立公園の大半は民有地です。宅地開発やゴルフ場、道路などが次々にできて帰化植物がはびこり、動植物の個体数も著しく減っています。1972年（昭和47年）の日本列島改造ブームの時には、東大山有料道路の建設計画が持ち上がり、大山の自然を守る会（初代会長・石沢正一鳥取大学医学部教授）が「子孫のために自然を残せ」と反対運動を展開。その時の環境庁長官が現地視察のうえ、反対運動に署名をして計画が中止になったいきさつがあるそうです。いま大山の自然を守る会は崩壊が進む大山山頂に「一木一石」を持ち上げる運動を続けています。

講演のなかで清末さんは、NHKと一緒に制作したテレビ番組「大山の自然のアルバム」（1975年、昭和50年）のなかから、カタツムリ「ダイセンニシキマイマイ」の産卵シーンやアリと同棲するチョウ「キマダラルリツバメ」の貴重な映像を紹介し、「大山の自然や魅力を守っていくのは私たちの使命です」と訴えました。

清末忠人さん

いつみても
冬の大山は
神々しく美しい
ついこの間まで真に白に彩られた
あの美しい晴れ着を
何の惜しげもなくぬぎ捨て
その肌に冬眠の衣をまとい
寒々と天に向かって身を横たえる
あゝ自然の営み恵キキ
一切眠の世界の中に春の世界をはらみ
それを活化し　春の生命を育む
春の肌に射す光が
きらりと輝いたとき
天地悠久の魂がその胸ひろに宿えた

清末さんの詩「大山の冬」

大山　1972.1　Vol. 2 No. 1

大山の自然を守る会

子孫のために自然を!!

大山の自然を守る会の機関紙「大山」第２号
（「きゃらぼく」を改題）

みなさんに感謝　　TERU功山さん

2018 年 12 月 31 日

正月準備でにぎわう鳥取市のショッピングセンター・イオン鳥取北店のセントラルコートで、尺八奏者・TERU功山（本城義照）さんの年忘れポップスコンサートがあり、大勢の買い物客に感謝の音色を届けました。

TERU功山さんは尺八歴44年の都山流師範です。20年ほど前から尺八の洋楽演奏に魅せられ、ポップス、歌謡曲、演歌など活躍の舞台を広げ、あちこちのコンサート会場には追っかけのファンが詰めかけています。尺八奏者のかたわら鳥取観光マイスターでもあり、先日まで鳥取城跡にある国の重要文化財・仁風閣の所長も務めていました。

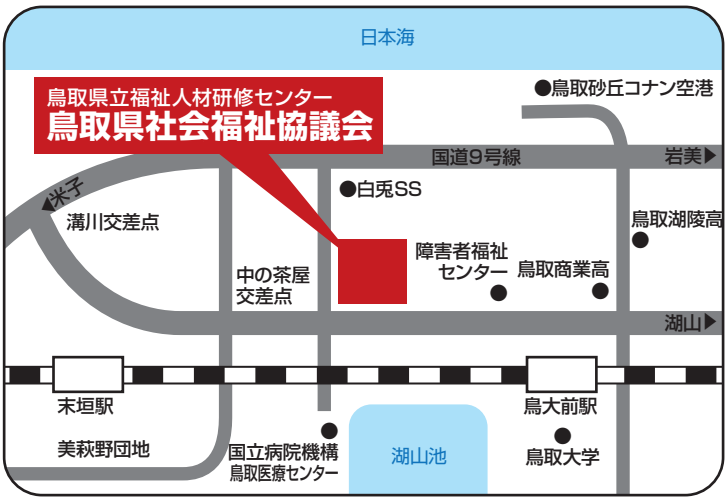
TERU功山さんは白いあごひげと黒のスーツに中折れ帽がトレードマークです。大みそかのコンサートもフォーマル姿で出演し、買い物客でにぎわう会場で午後1時と3時の2ステージをこなしました。イオン鳥取北店によると、大みそかのコンサートは初めてで、お客様の日ごろのご愛顧に感謝して企画したそうです。

演奏曲目は各ステージ11曲ずつ、合わせて22曲。共通したのは「北酒場」と「北国の春」くらいで、TERU功山さんはステージごとに内容を変え、「いい日旅立ち」や「時の流れに身を任せ」などは自らアレンジして、あでやかで美しい尺八の調べを届けました。

TERU功山さんは「この1年を締めくくるコンサートなので、感謝の気持ちを込めて、しっかり吹かせていただきました。尺八の魅力がみなさんに届けられて幸せです」と話していました。

TERU 功山さん

年忘れ尺八コンサート
（イオン鳥取北店）



発行者 社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会
〒689-0201 鳥取市伏野1729−5
県立福祉人材研修センター内
TEL 0857-59-6336 FAX0857-59-6341
URL http://www.tottori-wel.or.jp/

鳥取県の人材銀行

とっとりいきいきシニアバンク

生涯現役

http://tottori-ikiiki.jp/

ーいつまでもお役に立てる喜び。元気・幸せ・感謝！ー

活用ください お宝人材

バンク登録者募集中

絵 画

手 芸

料理教室

グラウンド ゴルフ

書 道

とっとりいきいきシニアバンクのしくみ

（管理運営：鳥取県社会福祉協議会）

1 登録

3 依頼者の連絡先伝達

2 閲覧・照会

登録者 ⇔ 依頼者

4 連絡・調整（日時、内容、謝金の額などを話し合う）

とっとりいきいきシニアバンク「生涯現役」とは

人生経験で身につけた資格や特技や技能を登録し、鳥取県民や地域に還元いただく制度です。60歳以上の方なら登録でき、県や市町村のイベントや公民館、老人会、子ども会などの先生や指導者となってご活躍いただきます（原則有償）。

お問合せ先 鳥取県社会福祉協議会 ☎0857-59-6336／鳥取県長寿社会課 ☎0857-26-7179